小松市
共同参画に関するアンケート結果

令和4年3月

小 松 市

目 次

Ⅰ．調査の概要

１．調査の目的 1

２．調査の概要 1

３．結果の見方 2

Ⅱ．市民アンケートの結果

１．回答者属性 3

２．男女の地位の平等感について 10

３．日常の生活について 24

４．仕事の状況や女性の活躍に関することについて 29

５．仕事と家庭の両立について 43

６．地域活動等について 55

７．人権や多様性について 60

８．市の共同参画に対する取組みについて 87

Ⅲ．事業所アンケートの結果

１．事業所の概要について 91

２．雇用や待遇等について 93

３．女性の活躍推進について 97

４．休暇制度やワーク・ライフ・バランスの取組みについて 103

５．ダイバーシティの推進・性的マイノリティへの対応について 107

６．ハラスメント対策について 109

７．行政への要望について 110

Ⅰ. 調査の概要

1. 調査の目的

「第５期小松市共同参画推進プラン」の策定に向け、共同参画に関する市民の意識や市内事業所における共同参画の現状を把握するために調査を実施しました。

2. 調査の概要

	①市民アンケート	②事業所アンケート
調査対象者	20 歳～79 歳の市民（無作為抽出）	市内の従業員数 50 人以上の事業所（全数調査）
調査方法	郵送配布、郵送回答・Web 回答	郵送配布、郵送回答
調査期間	令和４年２月１日（火）～２月 18 日（金）	
配布数	1,500 件	104 件
回収件数	591 件（郵送：482 件、Web：109 件）	49 件
有効回収率	39.4%	47.1%

【市民アンケートにおける分析について】

① 人口比率と基数比率

令和３年 12 月１日現在の 20～79 歳の市民の人口比率と基数比率（アンケート回答者に占める割合）は以下の通りです。

《性別》

	人口比率		基数比率	
女性	38,788	49.7%	330	55.8%
男性	39,220	50.3%	255	43.1%
その他	-	-	3	0.5%
性別無回答	-	-	3	0.5%
合計	78,008	100.0%	591	100.0%

《年代別》

	人口比率		基数比率	
20 歳代	10,961	14.1%	41	6.9%
30 歳代	11,378	14.6%	58	9.8%
40 歳代	14,986	19.2%	110	18.6%
50 歳代	14,076	18.0%	132	22.3%
60 歳代	11,922	15.3%	110	18.6%
70 歳代	14,685	18.8%	137	23.2%
年齢無回答		-	3	0.5%
合計	78,008	100.0%	591	100.0%

※割合は小数点以下第２位で四捨五入しているため、各区分の合計が 100.0%に一致しない場合がある

② 標本誤差

この調査は標本調査であるため、結果には標本誤差が含まれます。統計学上の標本誤差は、比率算出の基数（サンプル数）および回答の比率（ｐ）によって誤差幅が異なりますが、最も誤差が生じ易い回答比率は「50%」となります。

《標本誤差算出式》

$$\text{標本誤差} = \pm 2\sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N＝母集団数（20～79 歳の小松市民）
n＝比率算出の基数（回答サンプル数）
P＝回答比率（0≦p≦1）

《総数》

	回答比率（%）									
	5.0%	10.0%	15.0%	20.0%	25.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%
	95.0%	90.0%	85.0%	80.0%	75.0%	70.0%	65.0%	60.0%	55.0%	50.0%
回答者全体	1.8	2.4	2.9	3.2	3.5	3.7	3.8	3.9	4.0	4.0

《性別》

	回答比率（%）									
	5.0%	10.0%	15.0%	20.0%	25.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%
	95.0%	90.0%	85.0%	80.0%	75.0%	70.0%	65.0%	60.0%	55.0%	50.0%
女性	2.3	3.2	3.8	4.3	4.7	4.9	5.1	5.3	5.3	5.4
男性	2.7	3.7	4.4	4.9	5.3	5.6	5.8	6.0	6.1	6.1

※この表における信頼度は 95%である（95%の確率で誤差はこの範囲内に収まる）。

3. 結果の見方

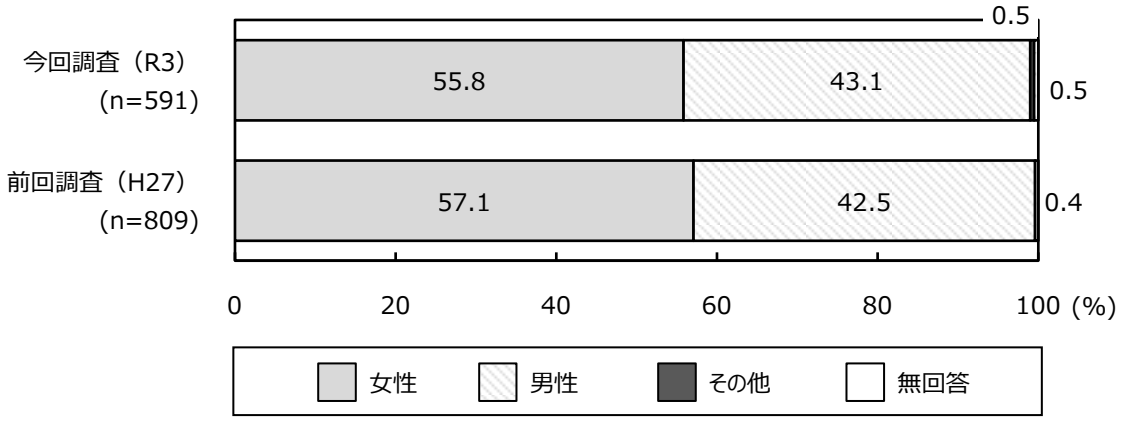
- 図表中の「n（number of case）」は、集計対象者数を表しています。
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。
- 図表中の「無回答」とは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 前回調査とは平成 27 年に実施した「小松市男女共同参画に関するアンケート」を指しています。

Ⅱ. 市民アンケートの結果

1. 回答者属性

問１　あなたの性別をお答えください。（単数回答）

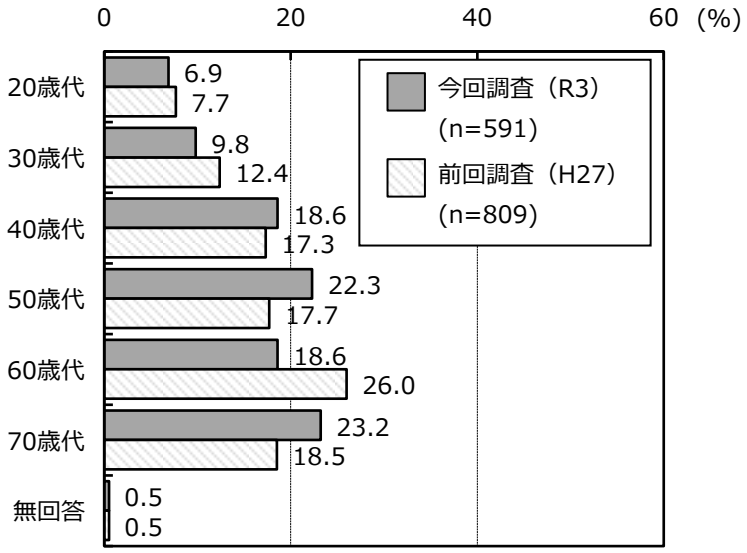
「女性」が 55.8%、「男性」が 43.1%となっています。



※前回調査は「その他」の選択肢なし

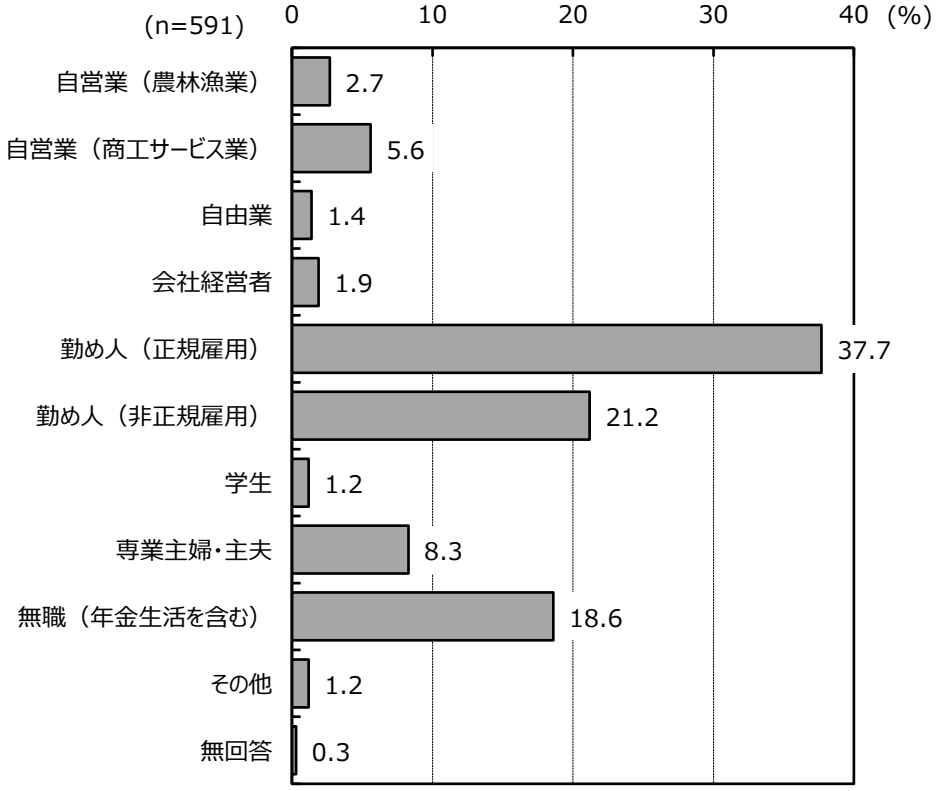
問２　あなたの年齢をお答えください。（単数回答）

前回調査では「60 歳代」が最も高かったのに対し、今回調査では「70 歳代」が最も高く、23.2%となっています。次いで、「50 歳代」が 22.3%、「40 歳代」、「60 歳代」がそれぞれ 18.6%となっています。



問３　現在のあなたの主な職業をお答えください。（単数回答）

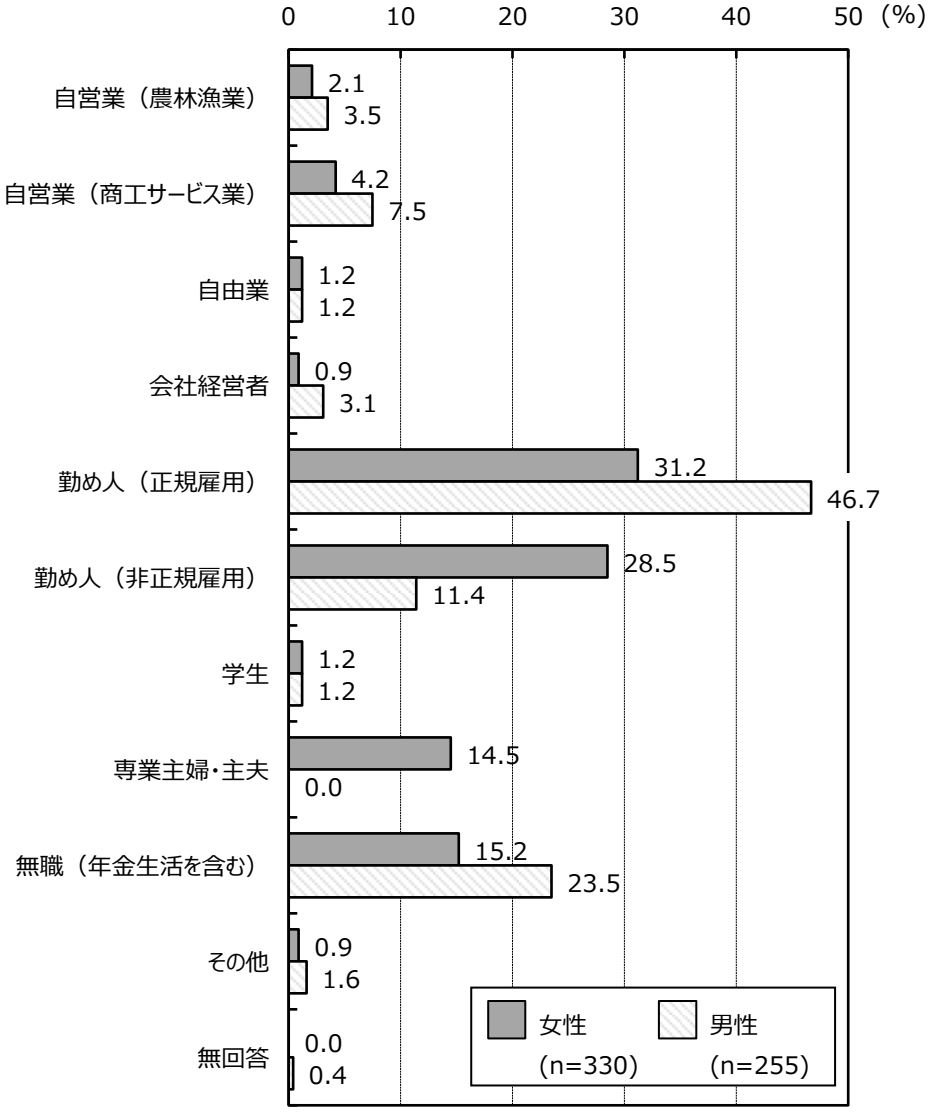
「勤め人（正規雇用）」が 37.7%と最も高く、次いで、「勤め人（非正規雇用）」が 21.2%、「無職（年金生活を含む）」が 18.6%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

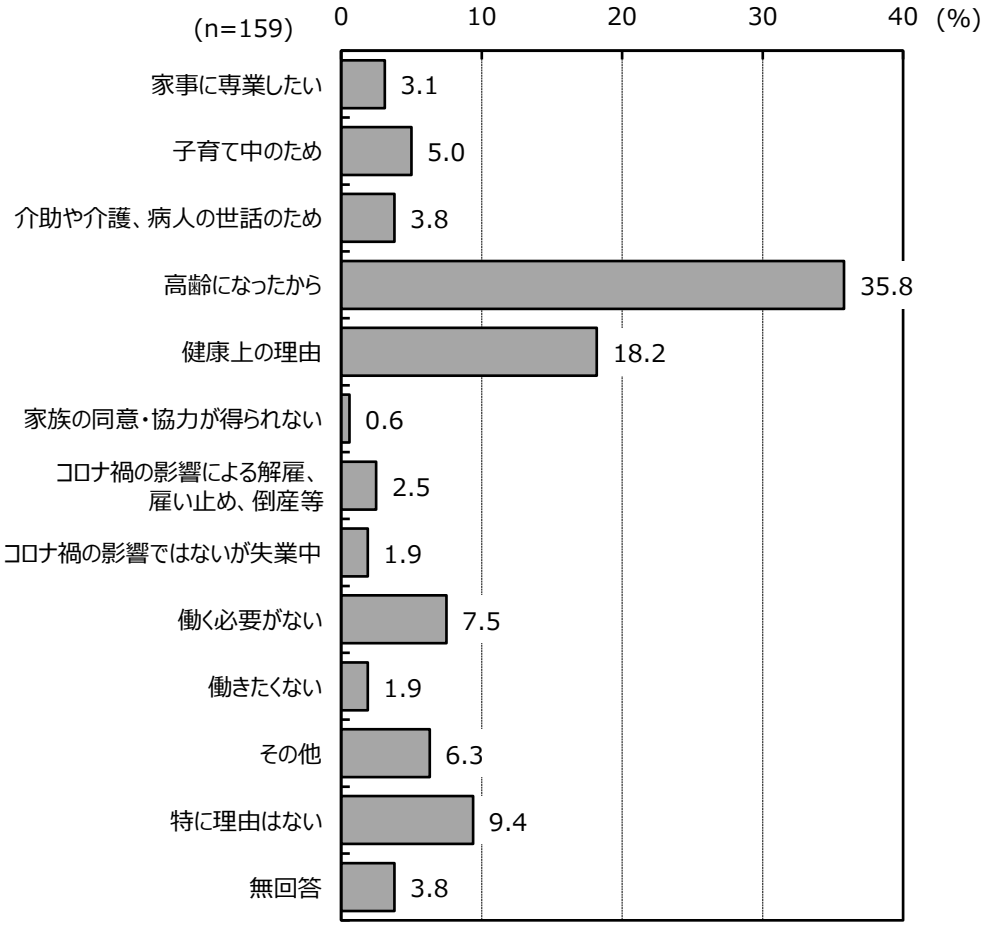
男女とも「勤め人（正規雇用）」が最も高くなっていますが、男性の方が割合が高く（女性：31.2%、男性：46.7%）、男女差も大きくなっています（15.5 ポイント差）。

一方、「勤め人（非正規雇用）」の割合については女性の方が高く（女性：28.5%、男性：11.4%）、男女差も大きくなっています（17.1 ポイント差）。



【問３で「専業主婦・主夫」、「無職（年金生活を含む）」と回答された方のみ】
問４　就業していない主な理由は何ですか。（単数回答）

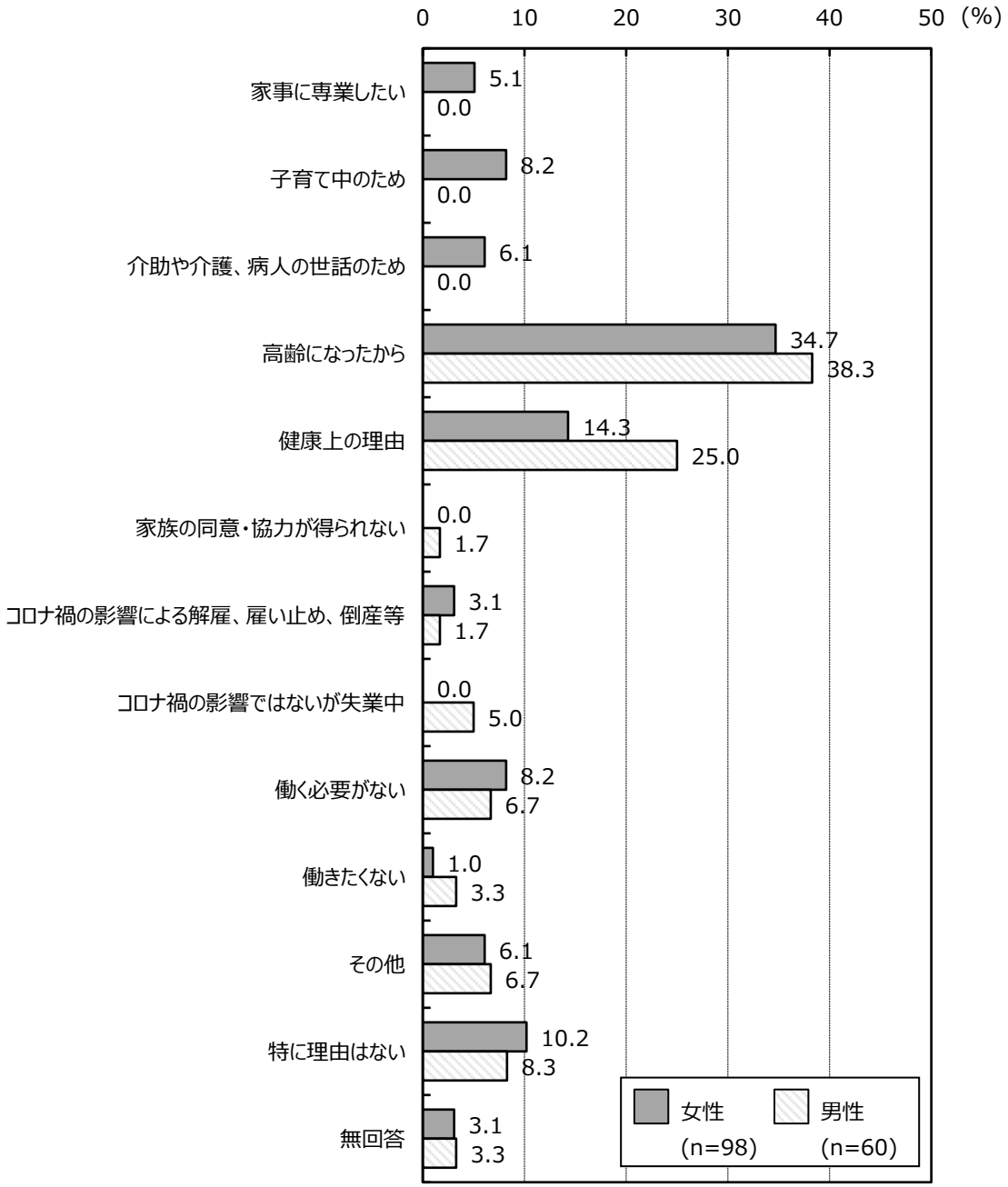
「高齢になったから」が 35.8%と最も高く、次いで、「健康上の理由」が 18.2%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

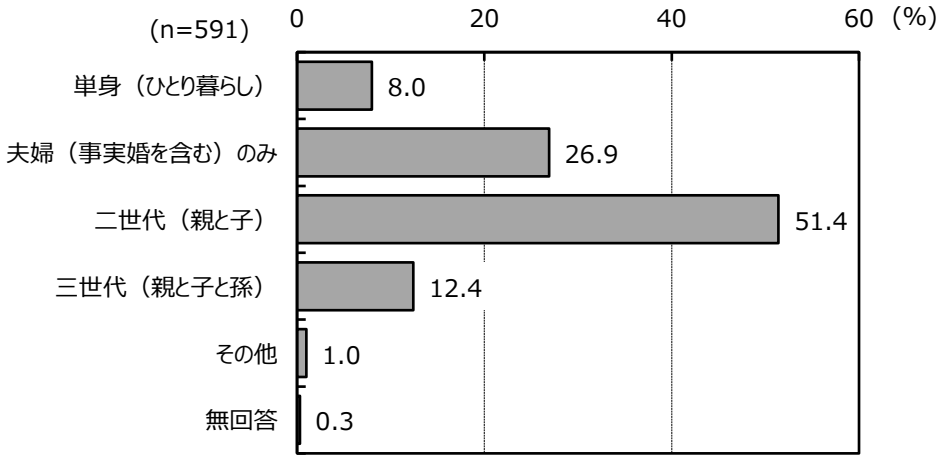
男女とも「高齢になったから」、「健康上の理由」の順で高くなっています。「健康上の理由」の割合については男女差が大きく、男性が女性を 10.7 ポイント上回っています（女性：14.3%、男性：25.0%）。

また、男性では「家事に専業したい」、「子育て中のため」、「介助や介護、病人の世話のため」の割合が0.0%となっています。



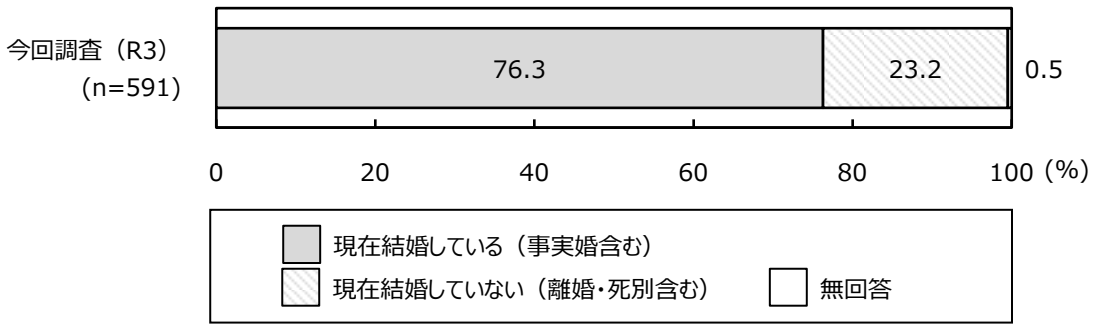
問５　あなたの世帯構成をお答えください。（単数回答）

「二世代（親と子）」が 51.4%と最も高く、次いで、「夫婦（事実婚を含む）のみ」が 26.9%、「三世代（親と子と孫）」が 12.4%となっています。



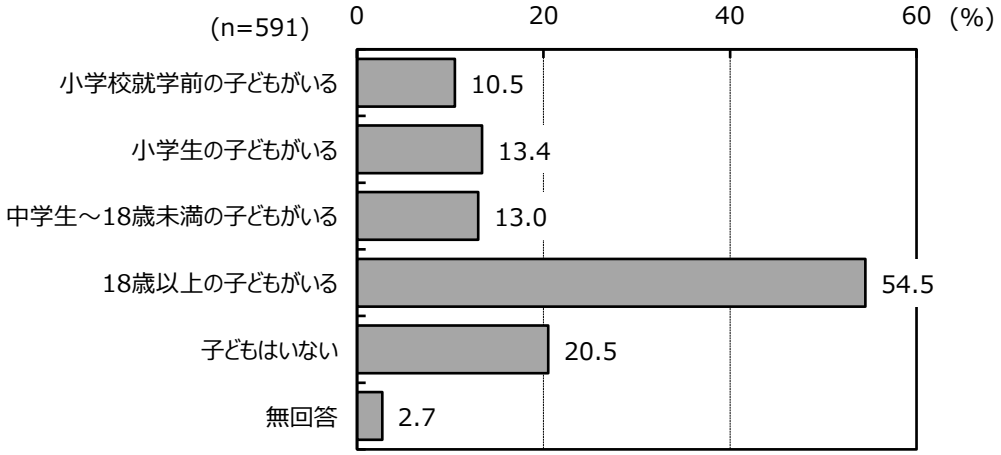
問６　あなたの婚姻状況をお答えください。（単数回答）

「現在結婚している（事実婚含む）」が 76.3%、「現在結婚していない（離婚・死別含む）」が 23.2%となっています。



問７　お子さんの有無についてお答えください。（複数回答）

「18 歳以上の子どもがいる」が 54.5%と最も高くなっています。「子どもはいない」は 20.5%となっています。

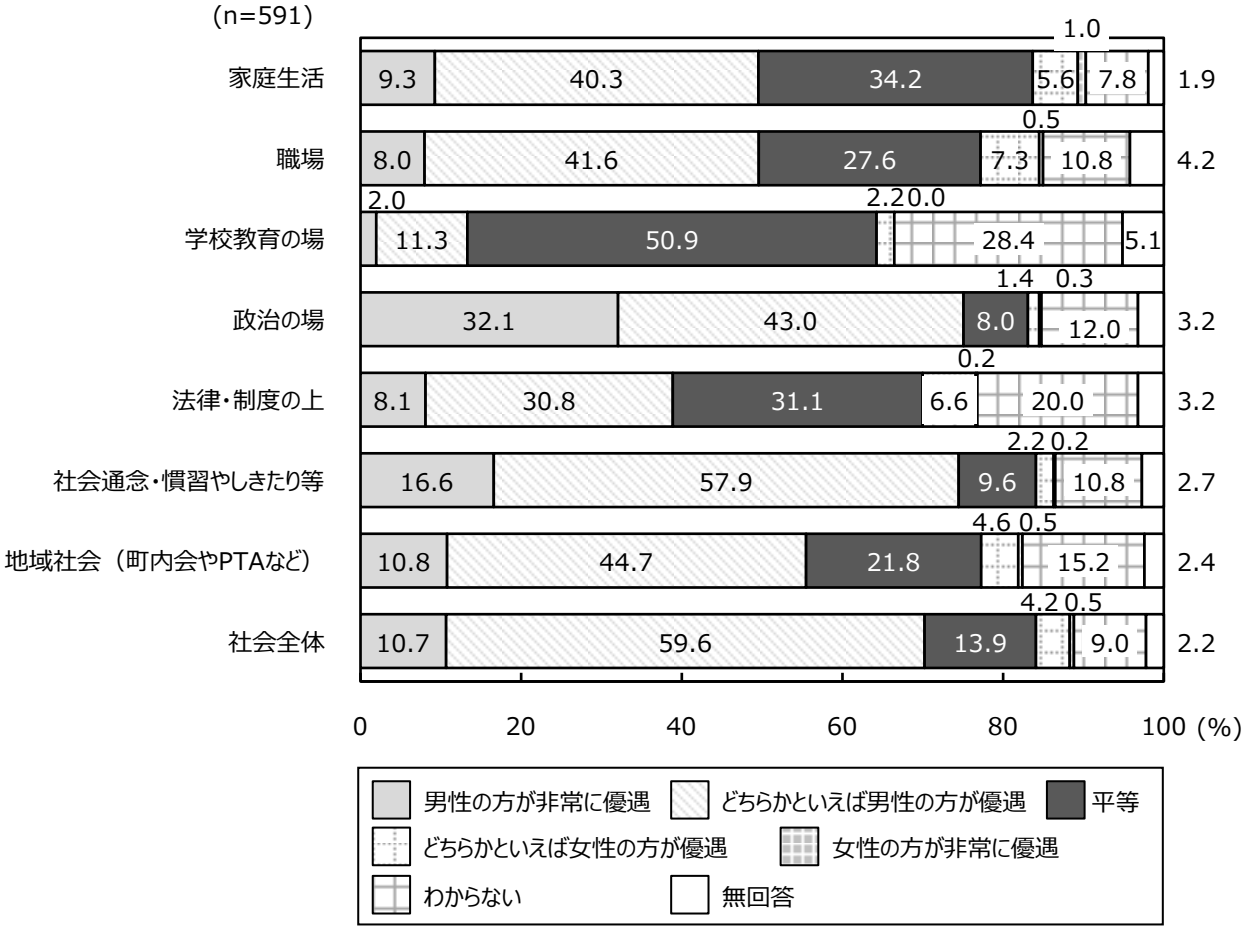


2. 男女の地位の平等感について

問８　次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。（項目ごとに単数回答）

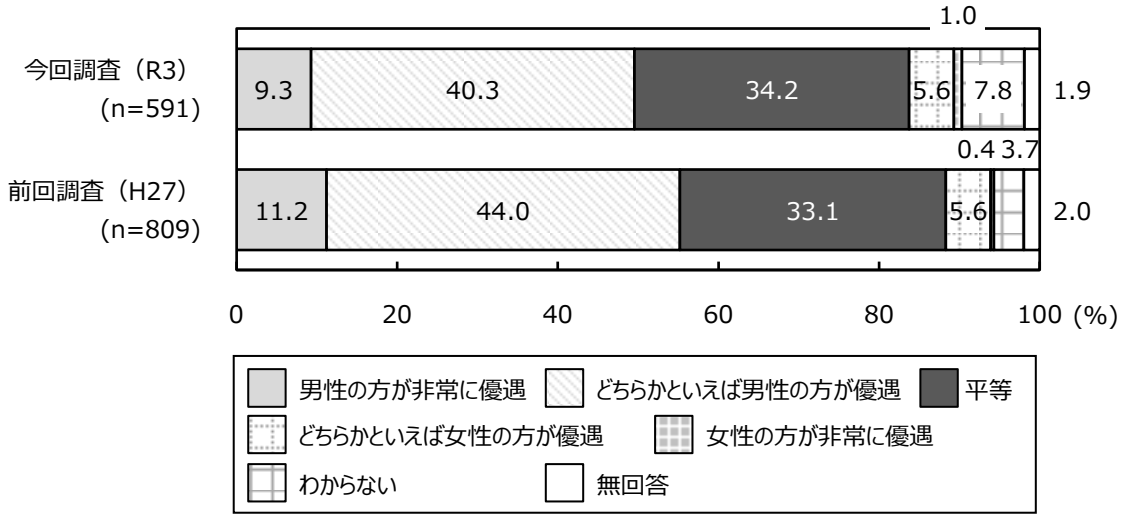
『男性が優遇』（「男性の方が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性の方が優遇」）、「平等」、『女性が優遇』（「女性の方が非常に優遇」＋「どちらかといえば女性の方が優遇」）で割合を比較すると、《学校教育の場》については「平等」が最も高くなっていますが、それ以外の分野では『男性が優遇』が最も高くなっています。《法律・制度の上》については、『男性が優遇』が最も高いものの、「平等」の割合との差は小さくなっています。

「平等」の割合についてみると、最も割合が高い《学校教育の場》では 50.9%となっており、その後は差が開き、《家庭生活》が 34.2%、《法律・制度の上》が 31.1%、《職場》が 27.6%、《地域社会（町内会やPTA など）》が 21.8%、《社会全体》が 13.9%と続いています。それ以外の分野では 10%未満となっています。



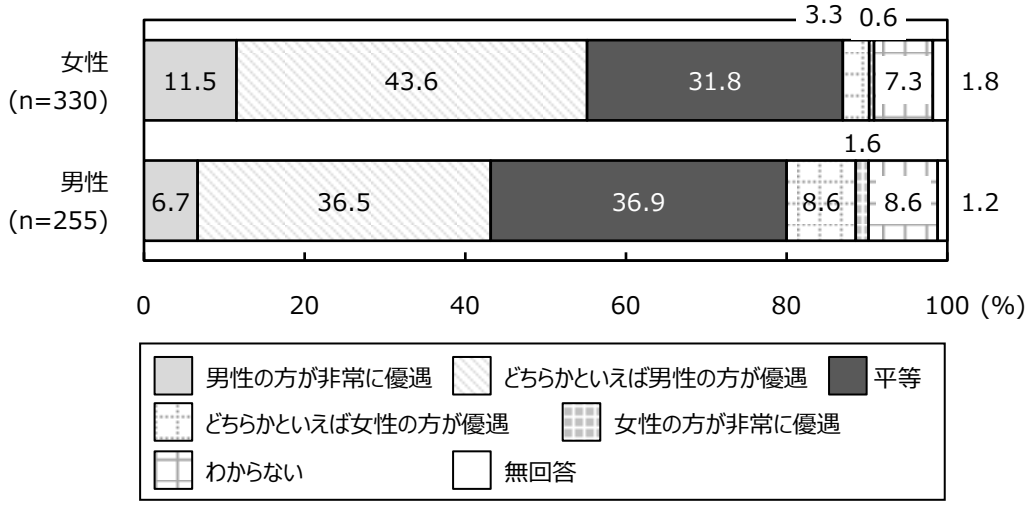
■ 家庭生活

前回調査と同様に『男性が優遇』が最も高くなっていますが、割合は減少しています（前回：55.2%、今回：49.6%）。「平等」の割合については 1.1 ポイント増加しています（前回：33.1%、今回：34.2%）。



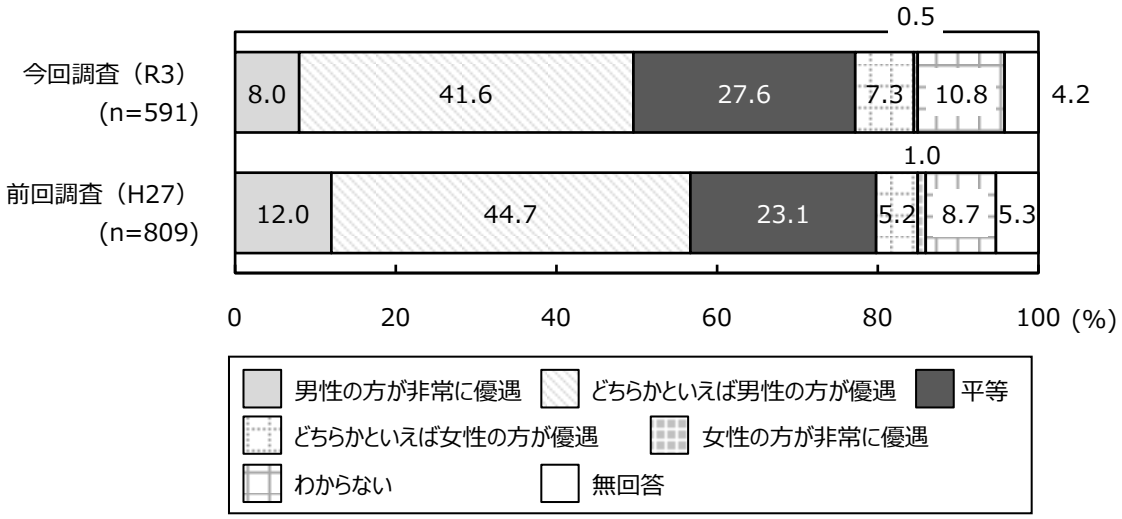
【クロス分析（性別）】

男女ともに『男性が優遇』が最も高くなっていますが、女性の方が割合が高くなっています（女性：55.1%、男性：43.2%）。「平等」の割合については男性の方が高くなっています（女性：31.8%、男性：36.9%）。



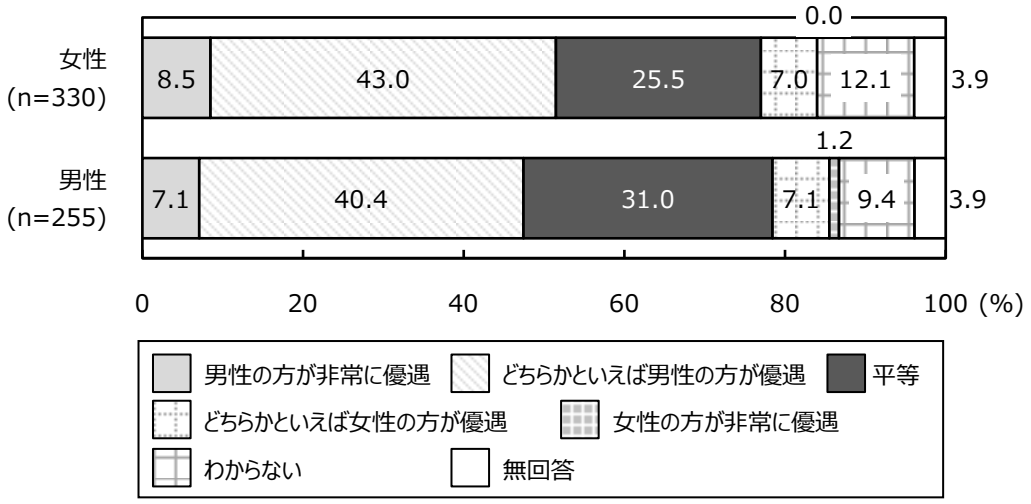
■ 職場

前回調査と同様に『男性が優遇』が最も高くなっていますが、割合は減少しています（前回：56.7%、今回：49.6%）。「平等」の割合については 4.5 ポイント増加しています（前回：23.1%、今回：27.6%）。



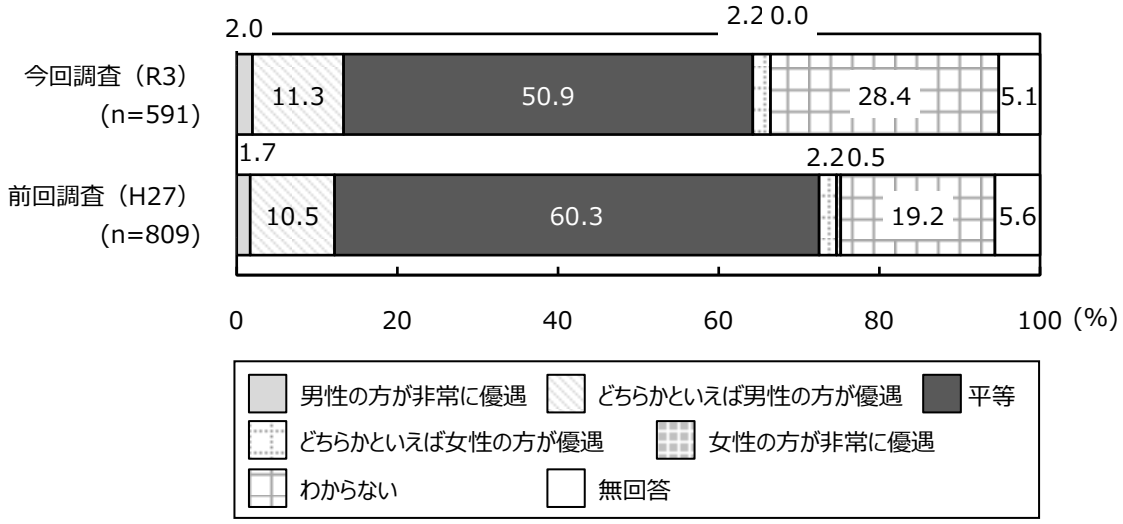
【クロス分析（性別）】

男女ともに『男性が優遇』が最も高くなっていますが、女性の方が割合が高くなっています（女性：51.5%、男性：47.5%）。「平等」の割合については男性の方が高くなっています（女性：25.5%、男性：31.0%）。



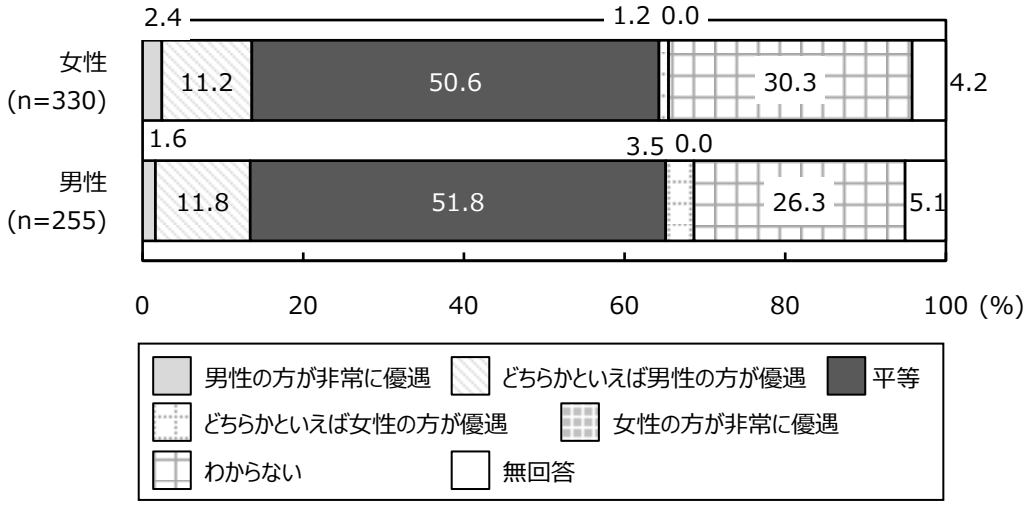
■ 学校教育の場

前回調査と同様に「平等」が最も高くなっていますが、割合は9.4ポイント減少しています（前回：60.3%、今回：50.9%）。



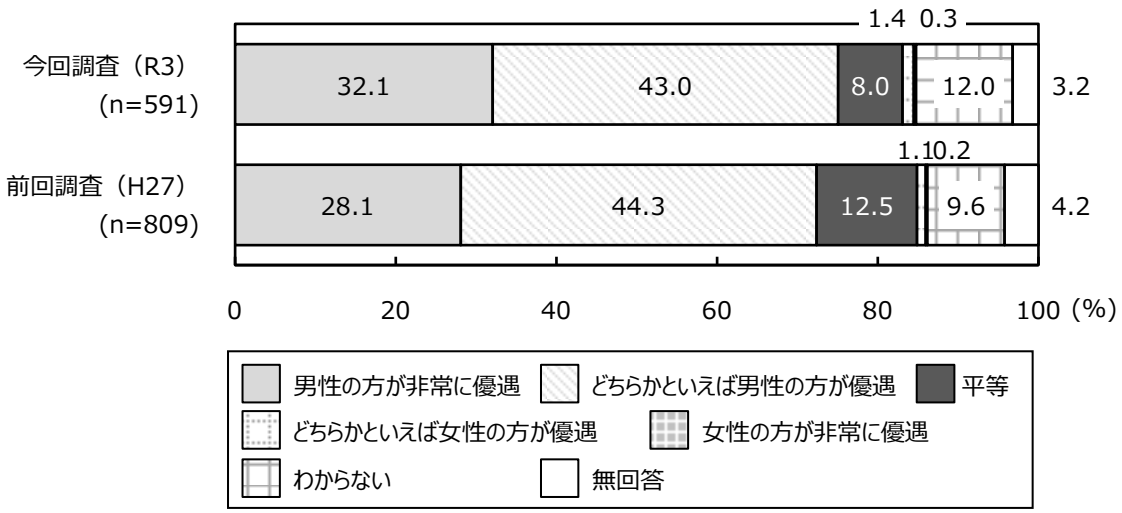
【クロス分析（性別）】

男女とも「平等」が最も高くなっていますが、男性の方が割合が高くなっています（女性：50.6%、男性：51.8%）。



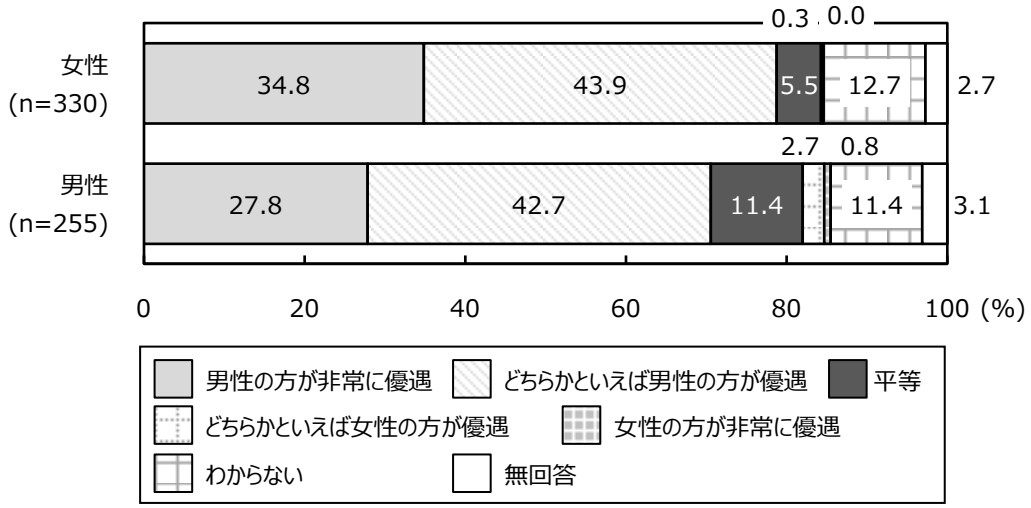
■ 政治の場

前回調査と同様に『男性が優遇』が 70%以上を占め、割合も増加しています（前回：72.4%、今回：75.1%）。「平等」の割合については 4.5 ポイント減少しています（前回：12.5%、今回：8.0%）。



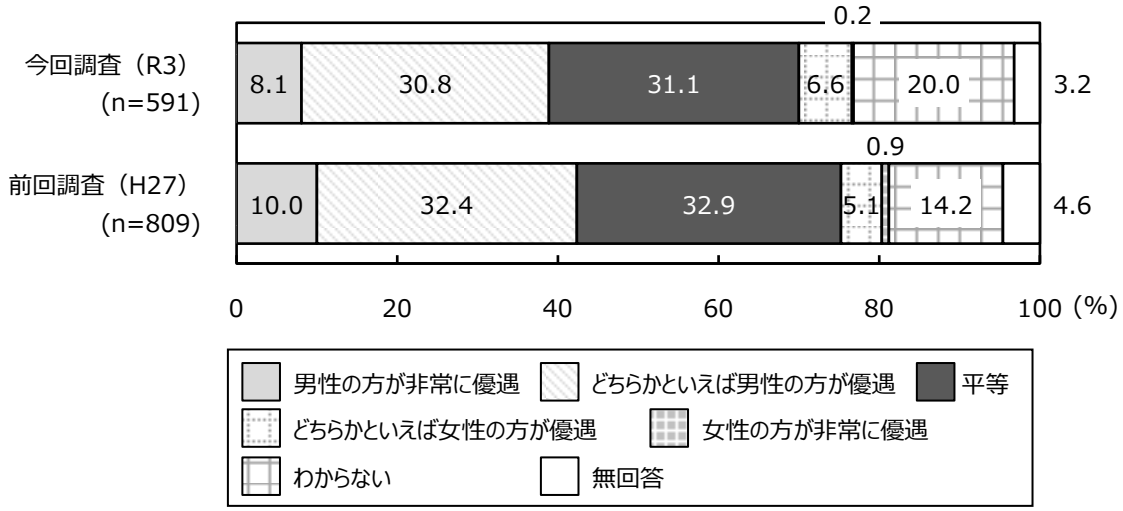
【クロス分析（性別）】

男女ともに『男性が優遇』が最も高くなっていますが、女性の方が割合が高くなっています（女性：78.7%、男性：70.5%）。「平等」の割合については男性の方が高くなっています（女性：5.5%、男性：11.4%）。



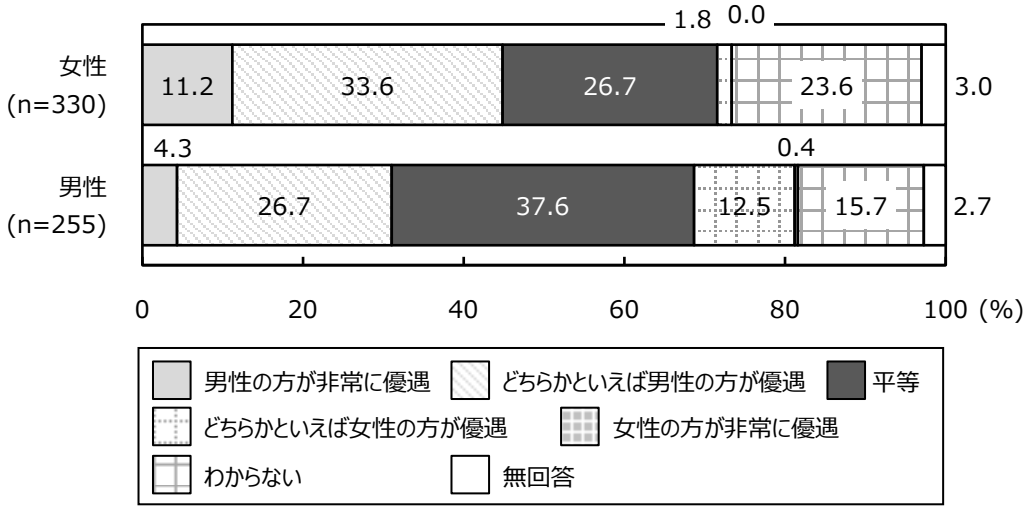
■ 法律・制度の上

前回調査と同様に『男性が優遇』が最も高くなっていますが、割合は減少しています（前回：42.4%、今回：38.9%）。「平等」の割合についても減少しており、1.8 ポイントの減少となっています（前回：32.9%、今回：31.1%）。



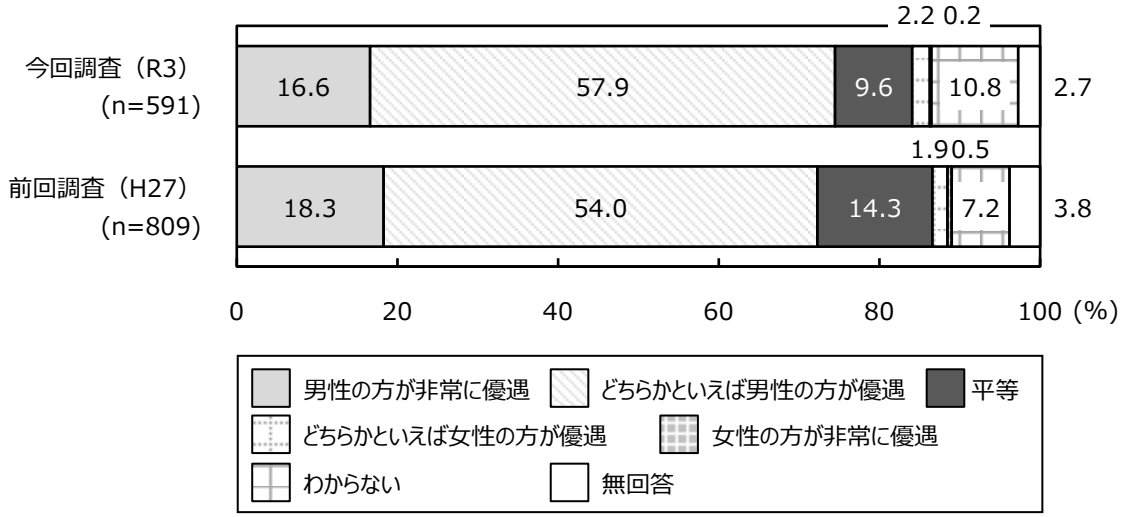
【クロス分析（性別）】

女性は『男性が優遇』が最も高いのに対し、男性は「平等」が最も高くなっています。「平等」の割合については男性の方が高く（女性：26.7%、男性：37.6%）、男女差も大きくなっています（10.9 ポイント差）。



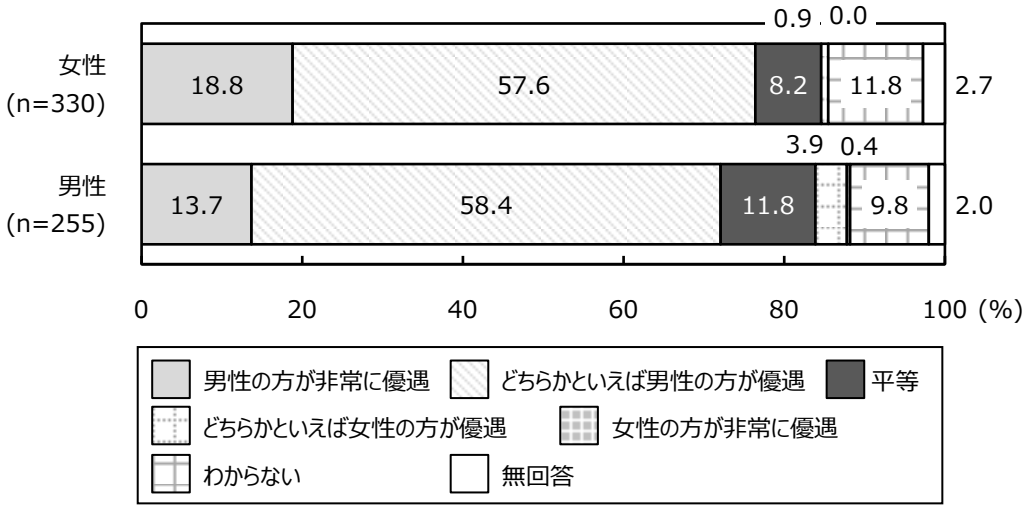
■ 社会通念・慣習やしきたり等

前回調査と同様に『男性が優遇』が 70%以上を占め、割合も増加しています（前回：72.3%、今回：74.5%）。「平等」の割合については 4.7 ポイント減少しています（前回：14.3%、今回：9.6%）。



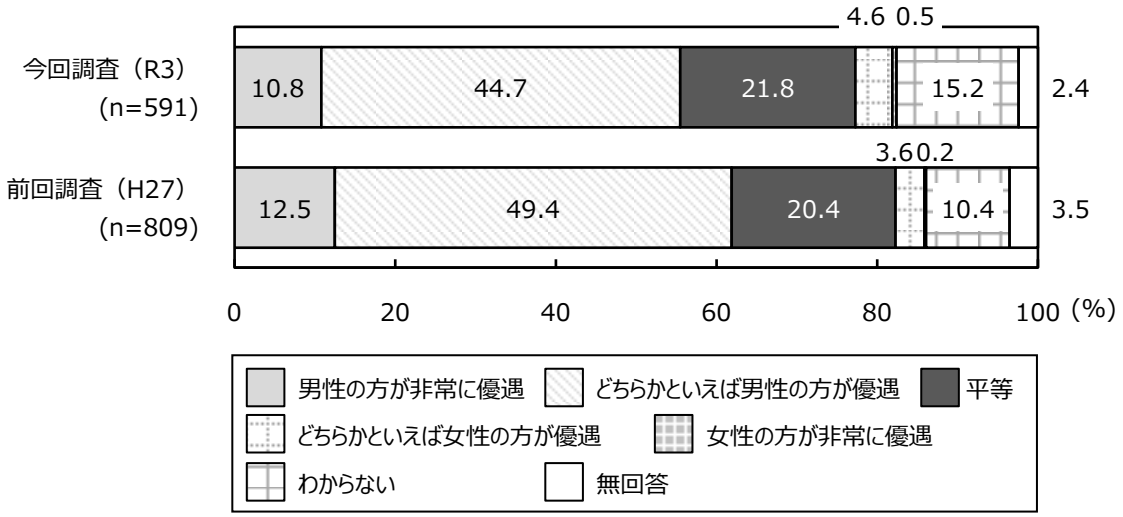
【クロス分析（性別）】

男女ともに『男性が優遇』が最も高くなっていますが、女性の方が割合が高くなっています（女性：76.4%、男性：72.1%）。「平等」の割合については男性の方が高くなっています（女性：8.2%、男性：11.8%）。



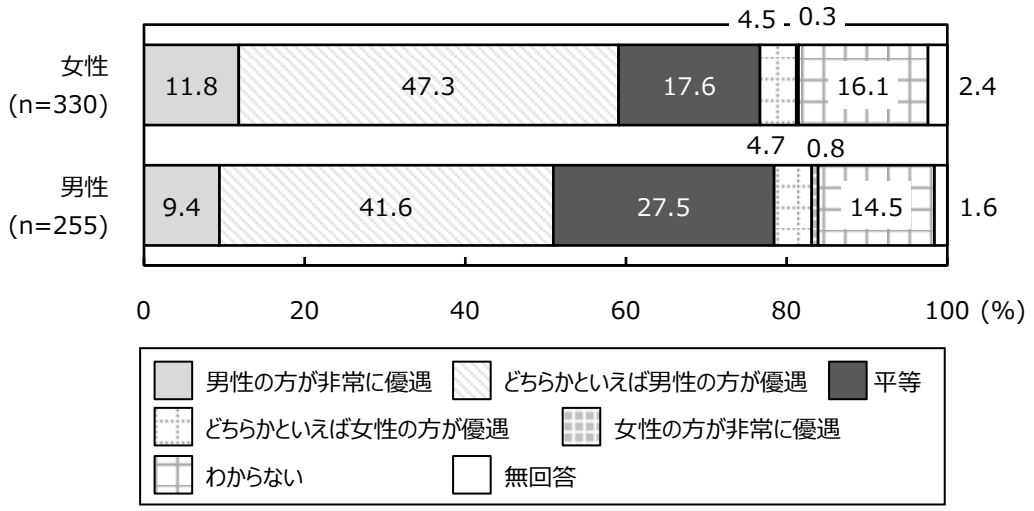
■ 地域社会（町内会や PTA など）

前回調査と同様に『男性が優遇』が最も高くなっていますが、割合は減少しています（前回：61.9%、今回：55.5%）。「平等」の割合については 1.4 ポイント増加しています（前回：20.4%、今回：21.8%）。



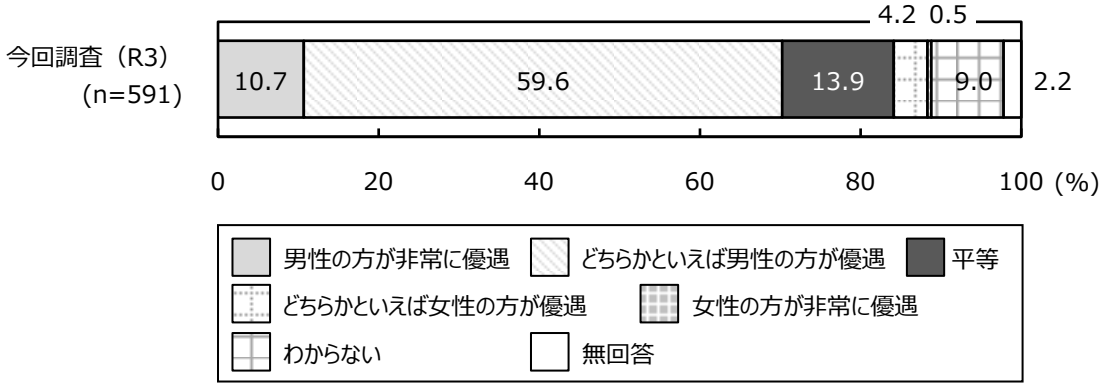
【クロス分析（性別）】

男女ともに『男性が優遇』が最も高くなっていますが、女性の方が割合が高くなっています（女性：59.1%、男性：51.0%）。「平等」の割合については男性の方が高くなっています（女性：17.6%、男性：27.5%）。



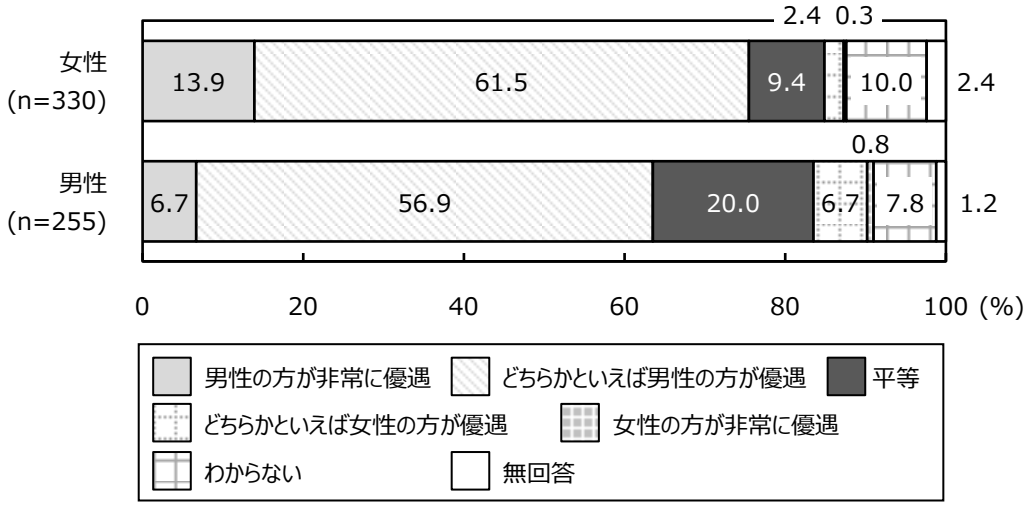
■ 社会全体

『男性が優位』が 70.3%と、70%以上を占めています。「平等」の割合については 13.9%となっています。



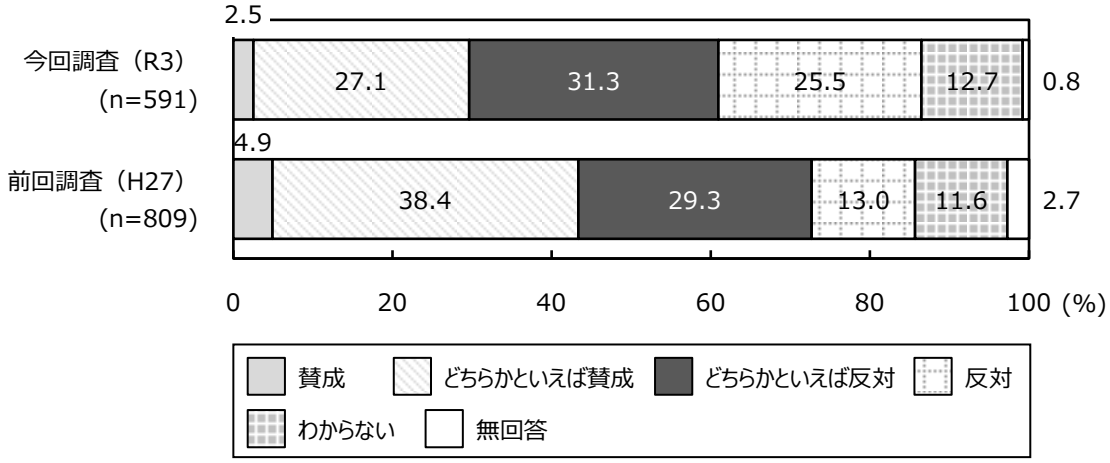
【クロス分析（性別）】

男女ともに『男性が優遇』が最も高くなっていますが、女性の方が割合が高くなっています（女性：75.4%、男性：63.6%）。「平等」の割合については男性の方が高く（女性：9.4%、男性：20.0%）、男女差も大きくなっています（10.6 ポイント差）。



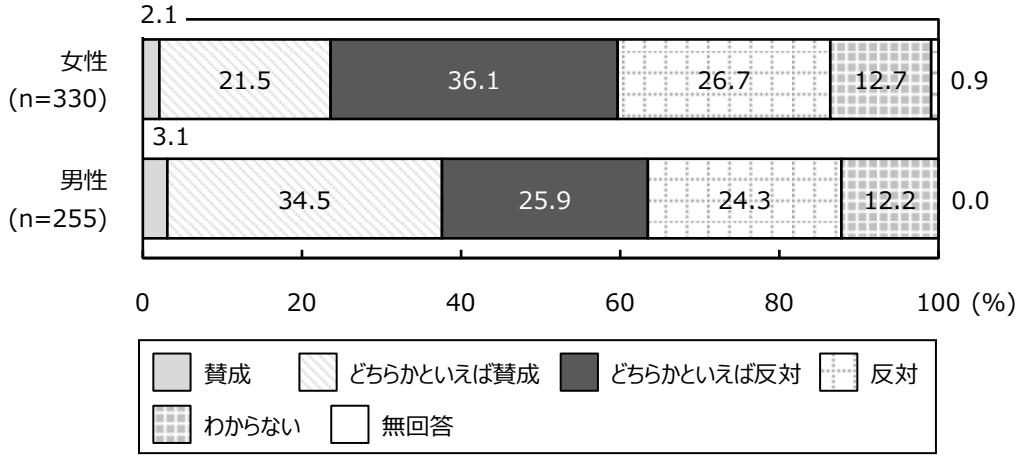
問９ 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。（単数回答）

『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）、『反対』（「反対」＋「どちらかといえば反対」）で割合を比較すると、前回調査では『賛成』の方が高かったのに対し、今回調査では『賛成』が 29.6%、『反対』が 56.8%と、『反対』の方が高くなっています。



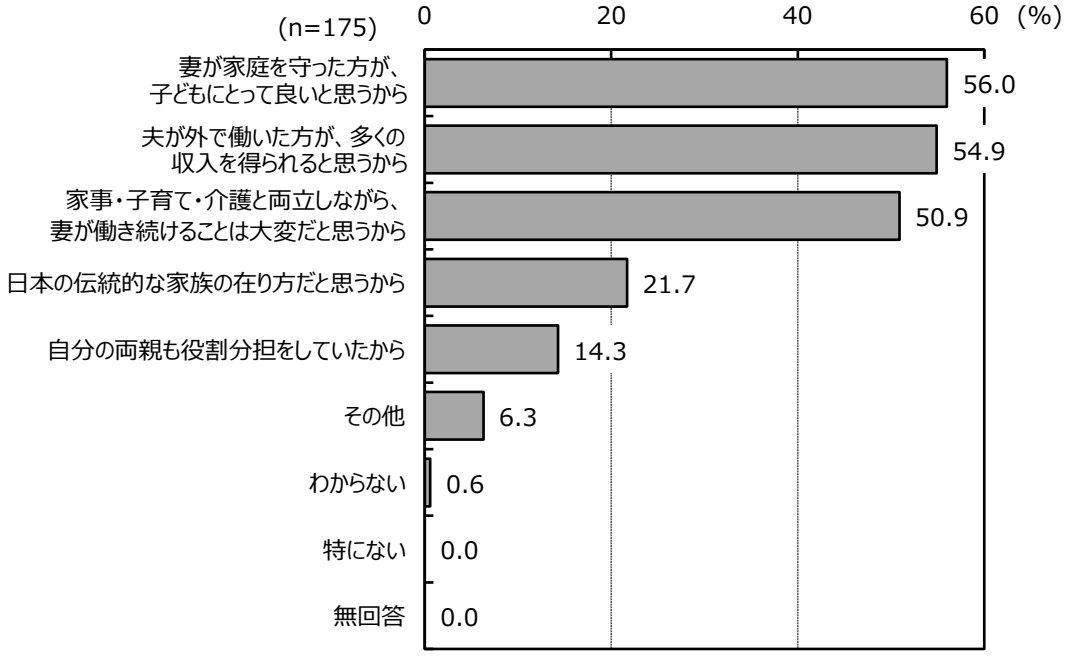
【クロス集計分析（性別）】

女性は『賛成』が 23.6%、『反対』が 62.8%、男性は『賛成』が 37.6%、『反対』が 50.2%と、ともに『反対』の方が高くなっていますが、女性の方が割合が高く、男女差も大きくなっています（12.6 ポイント差）。



【問９で「賛成」、「どちらかといえば賛成」と回答された方のみ】
問 10 「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成の理由は何ですか。（複数回答）

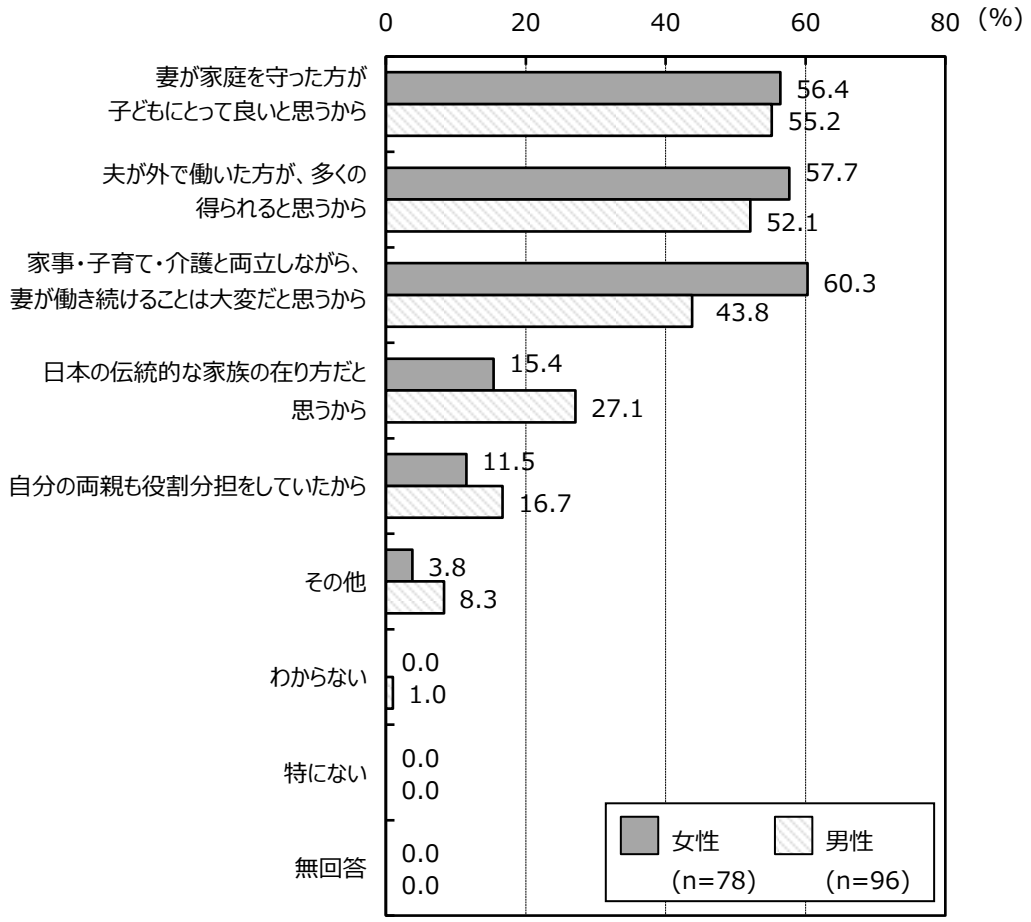
「妻が家庭を守った方が、子どもにとって良いと思うから」が 56.0%と最も高く、次いで、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が 54.9%、「家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が 50.9%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

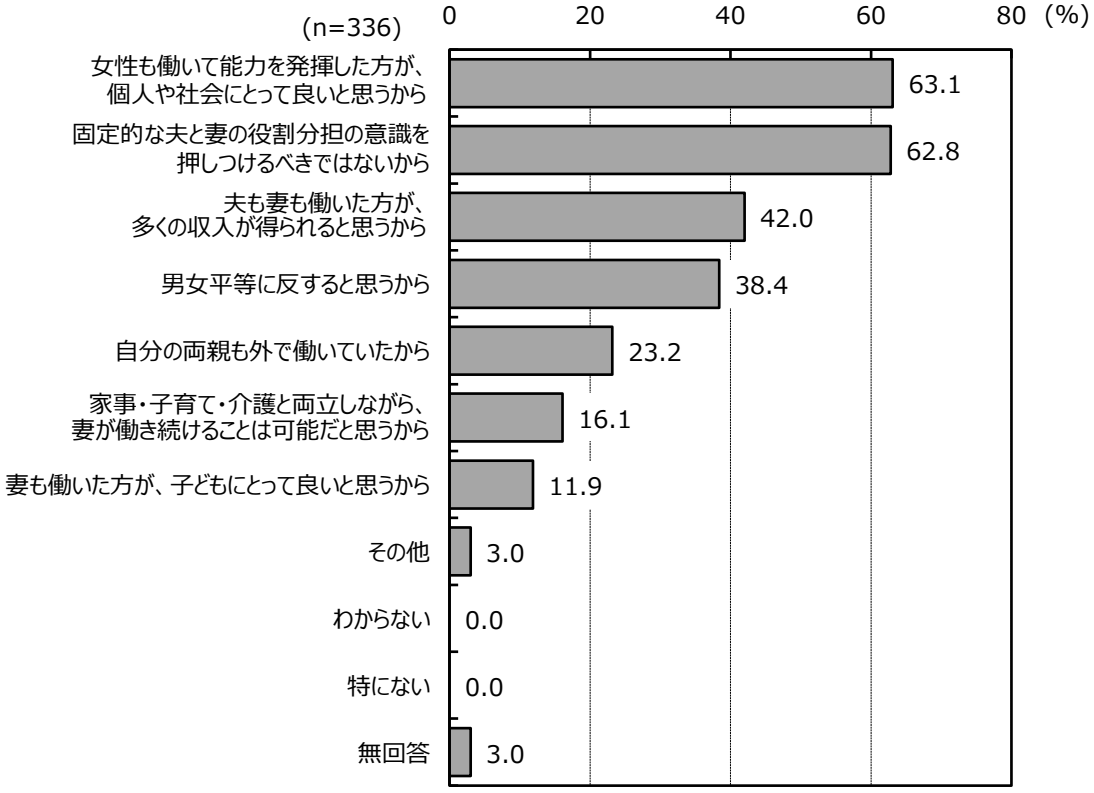
男女とも「妻が家庭を守った方が、子どもにとって良いと思うから」、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」、「家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が上位３位となっていますが、女性は「家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が最も高いのに対し、男性は「妻が家庭を守った方が、子どもにとって良いと思うから」が最も高くなっています。

「家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」の割合については男女差が大きく、女性が男性を 16.5 ポイント上回っています。



【問 9 で「どちらかといえば反対」、「反対」と回答された方のみ】
問 11 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対の理由は何ですか。（複数回答）

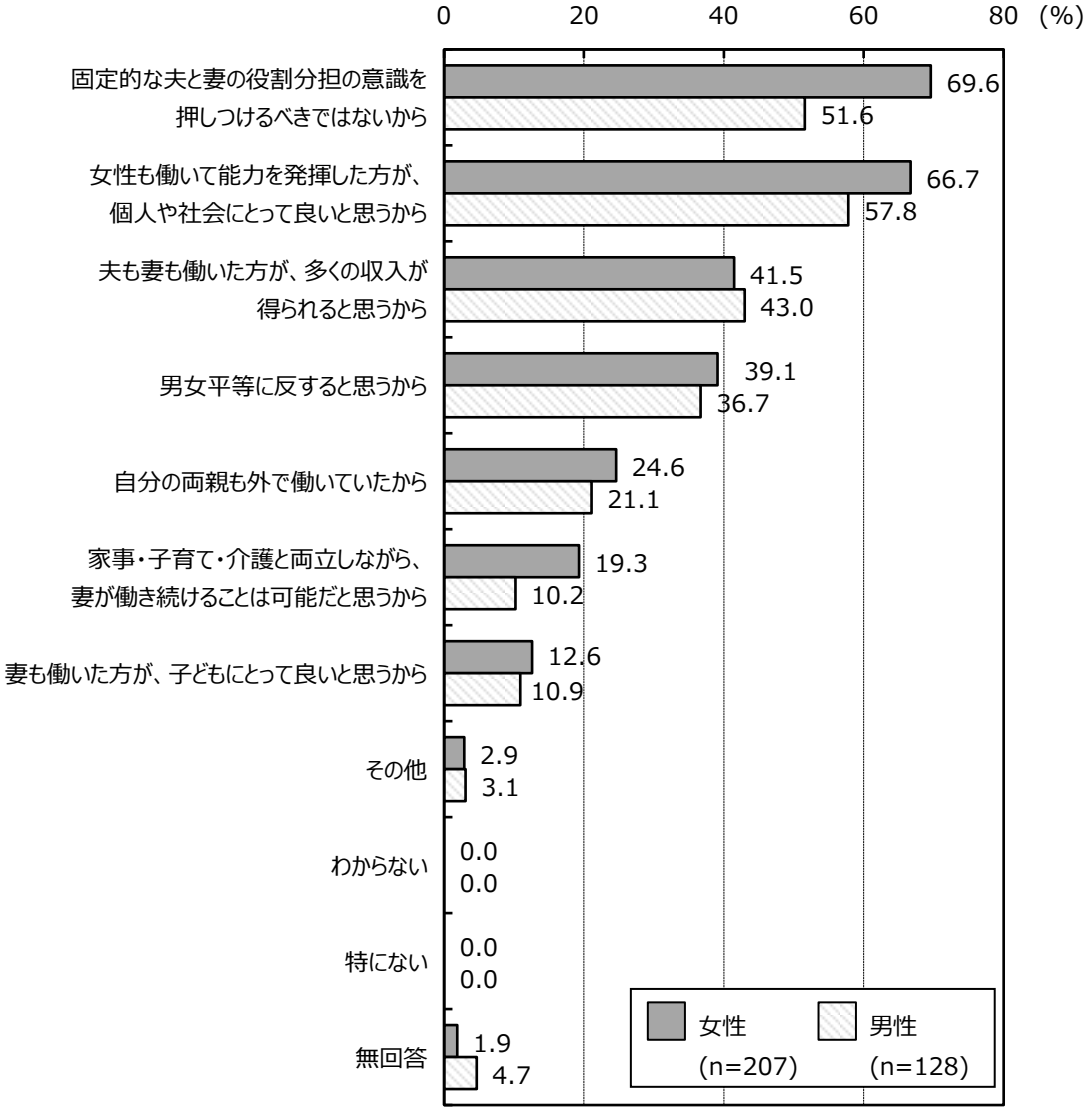
「女性も働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」が 63.1%と最も高く、次いで、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が 62.8%、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」が 42.0%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

男女とも「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」、「女性も働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」が上位３位となっていますが、女性は「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も高いのに対し、男性は「女性も働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」が最も高くなっています。

「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」、「女性も働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」の割合については男女差が大きく、女性が男性を上回っています（順に18.0 ポイント差、8.9 ポイントの差）。



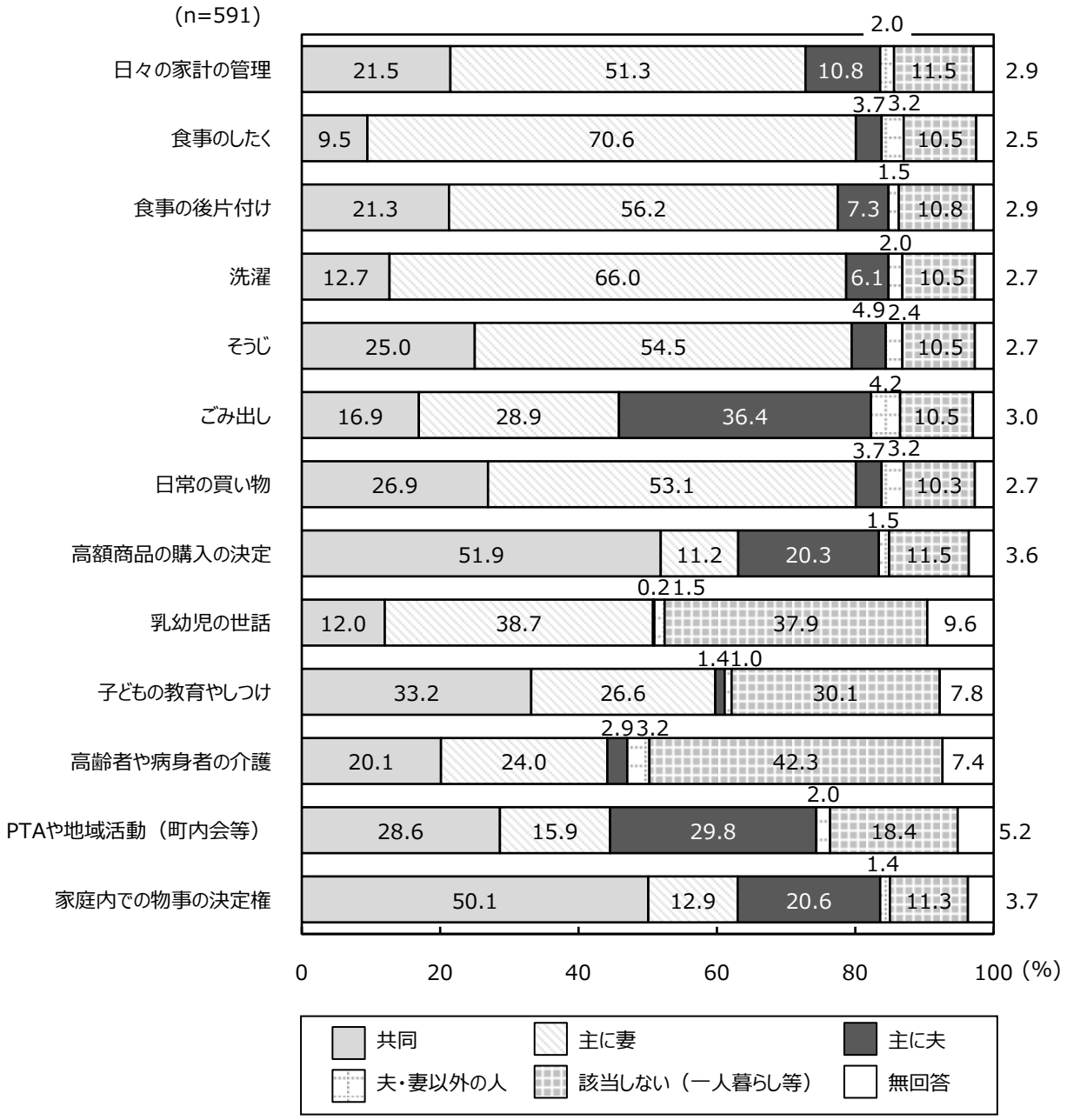
3. 日常の生活について

問 12　あなたのご家族では、次の事柄は主にどなたが担当されていますか。（単数回答）

《高齢者や病身者の介護》は「該当しない」が最も高くなっていますが、それ以外の項目についてみると、《高額商品の購入の決定》、《子どもの教育やしつけ》、《家庭内での物事の決定権》では「共同」が最も高いのに対し、《ごみ出し》、《PTA や地域活動（町内会等）》では「主に夫」、そのほかについては「主に妻」の割合が最も高くなっています。

「共同」の割合についてみると、最も割合が高い《高額商品の購入の決定》では 51.9%となっており、次いで、《家庭内での物事の決定権》が 50.1%、《子どもの教育やしつけ》が 33.2%となっています。

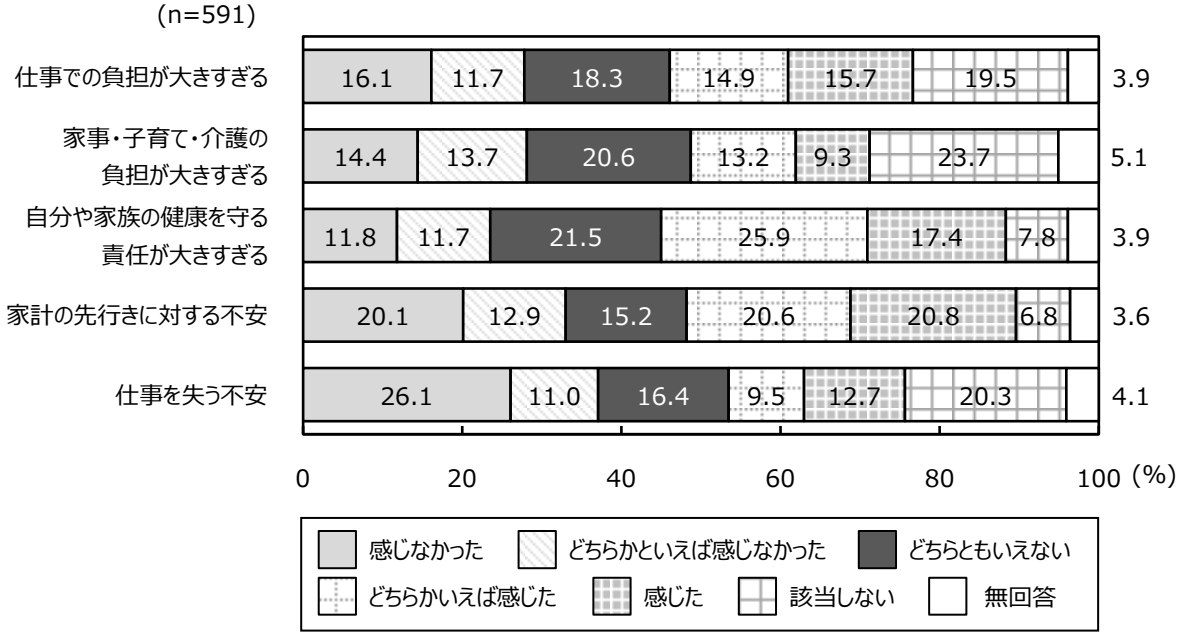
一方、《食事のしたく》、《洗濯》については「主に妻」の割合が特に高くなっています（順に 70.6%、66.0%）。



問 13　コロナ禍において、次のような不安を感じたことはどのぐらいありましたか。（単数回答）

『感じなかった』（「感じなかった」＋「どちらかといえば感じなかった」）、「どちらともいえない」、『感じた』（「感じた」＋「どちらかいえば感じた」）で割合を比較すると、《家事・子育て・介護の負担が大きすぎる》、《仕事を失う不安》については『感じなかった』が最も高く、《仕事での負担が大きすぎる》、《自分や家族の健康を守る責任が大きすぎる》、《家計の先行きに対する不安》については『感じた』が最も高くなっています。

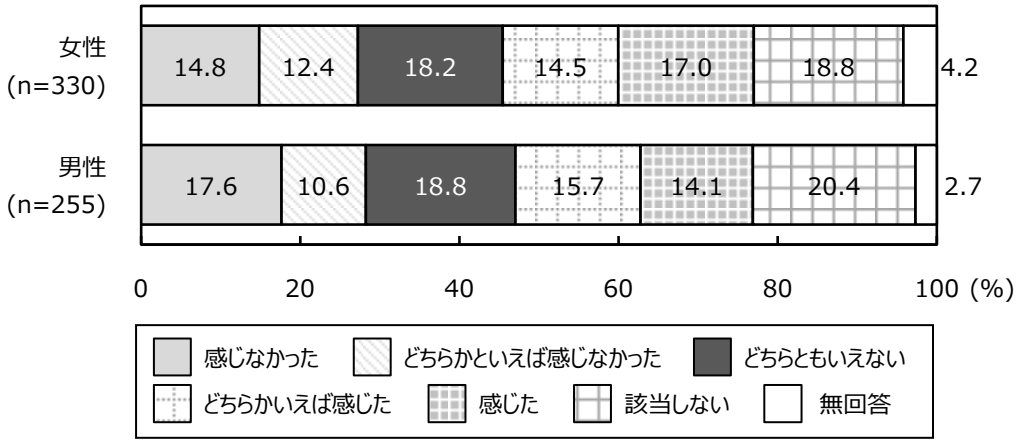
『感じた』の割合についてみると、最も割合が高い《自分や家族の健康を守る責任が大きすぎる》では 43.3%となっており、次いで、《家計の先行きに対する不安》が 41.4%、《仕事での負担が大きすぎる》が 30.6%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

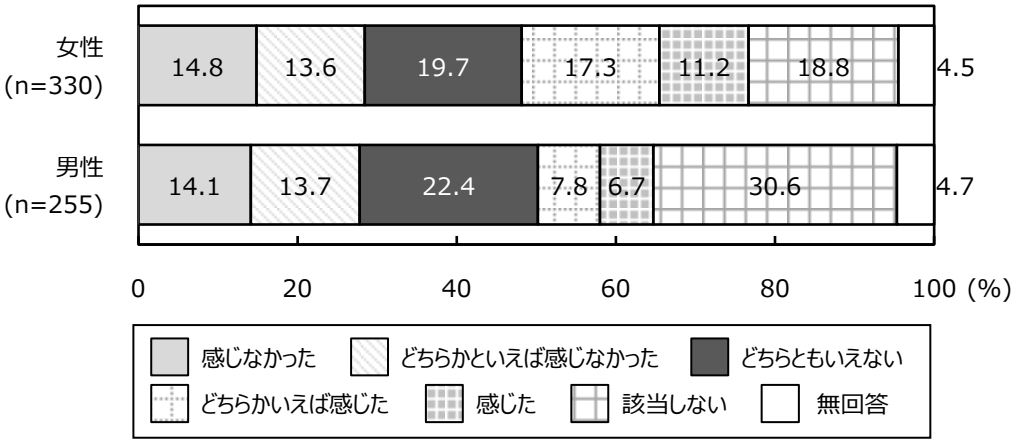
■ 仕事での負担が大きすぎる

男女とも『感じた』が最も高くなっていますが、女性の方が割合が高くなっています（女性：31.5%、男性：29.8%）。



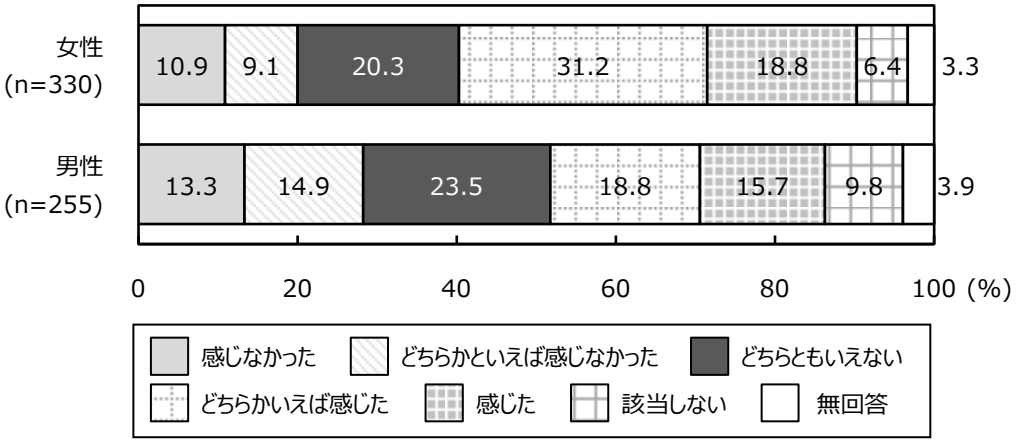
■ 家事・子育て・介護の負担が大きすぎる

女性は『感じた』が最も高いのに対し、男性は『感じなかった』が最も高くなっています。『感じた』の割合については女性の方が高く（女性：28.5%、男性：14.5%）、男女差も大きくなっています（14.0ポイント差）。



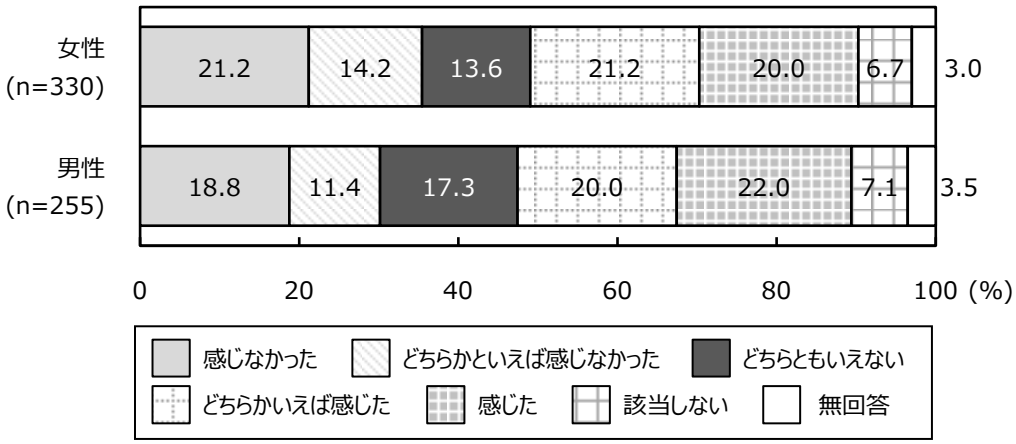
■ 自分や家族の健康を守る責任が大きすぎる

男女とも『感じた』が最も高くなっていますが、女性の方が割合が高く（女性：50.0%、男性：34.5%）、男女差も大きくなっています（15.5 ポイント差）。



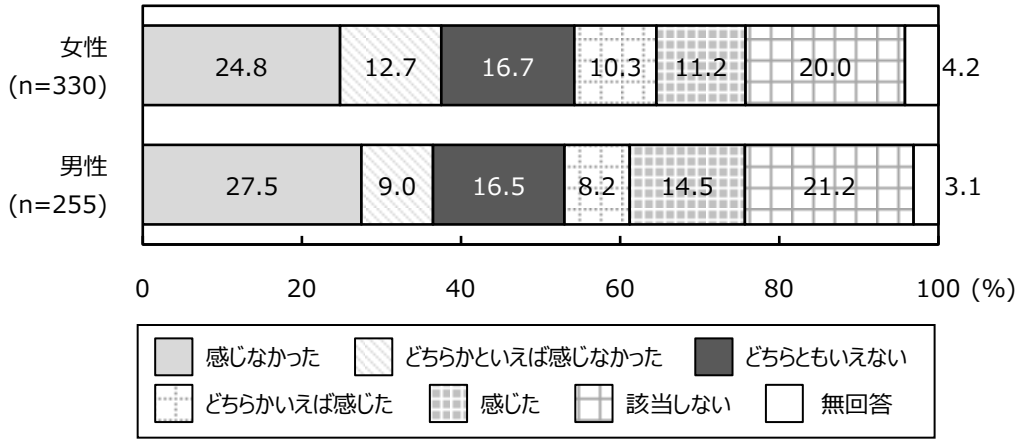
■ 家計の先行きに対する不安

男女とも『感じた』が最も高くなっていますが、男性の方が割合が高くなっています（女性：41.2%、男性：42.0%）。



■ 仕事を失う不安

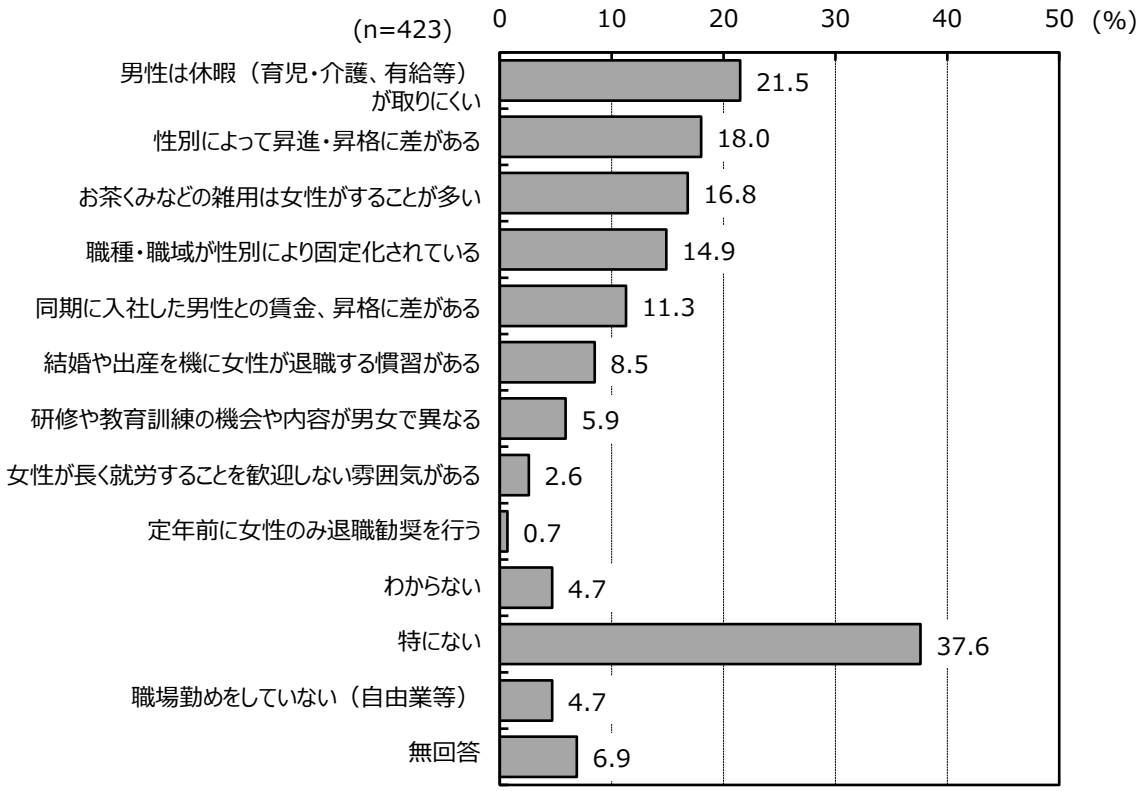
男女とも『感じなかった』が最も高くなっています。『感じた』の割合については男性の方が高くなっています（女性：21.5%、男性：22.7%）。



4. 仕事の状況や女性の活躍に関することについて

【現在働いている方のみ】
問 14　現在お勤めの職場において、男女差を感じることはどんなところですか。（複数回答）

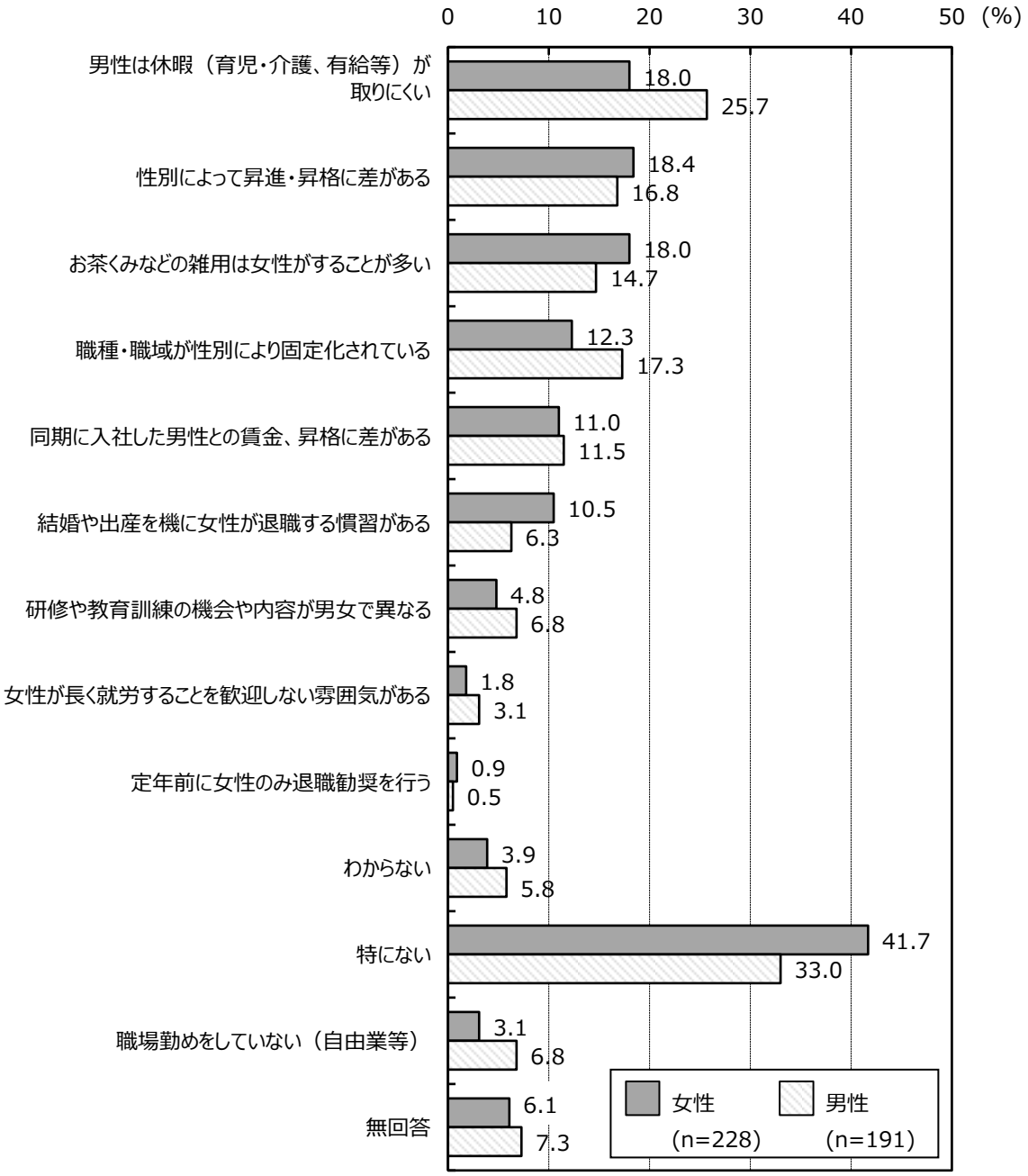
「特にない」（37.6%）が最も高くなっていますが、それ以外についてみると、「男性は休暇（育児・介護、有給等）が取りにくい」が 21.5%と最も高く、次いで、「性別によって昇進・昇格に差がある」が 18.0%、「お茶くみなどの雑用は女性がすることが多い」が 16.8%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

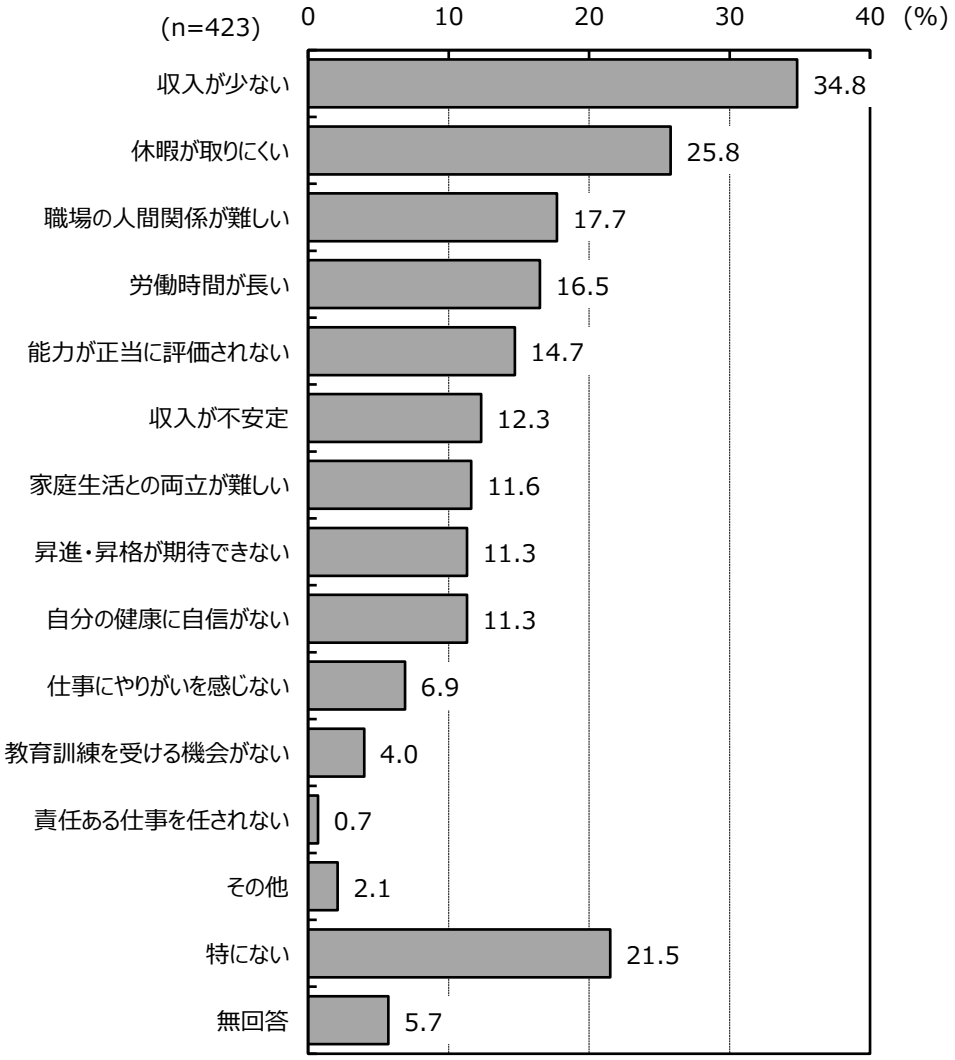
男女とも「特にない」が最も高くなっていますが、それ以外についてみると、女性は「性別によって昇進・昇格に差がある」が最も高いのに対し、男性は「男性は休暇（育児・介護、有給等）が取りにくい」が最も高くなっています。

「特にない」、「男性は休暇（育児・介護、有給等）が取りにくい」の割合については男女差が大きく、「特にない」は女性が男性を 8.7 ポイント、「男性は休暇（育児・介護、有給等）が取りにくい」は男性が女性を 7.7 ポイント上回っています。



【現在働いている方のみ】
問 15　仕事をする上での悩みは何ですか。（複数回答）

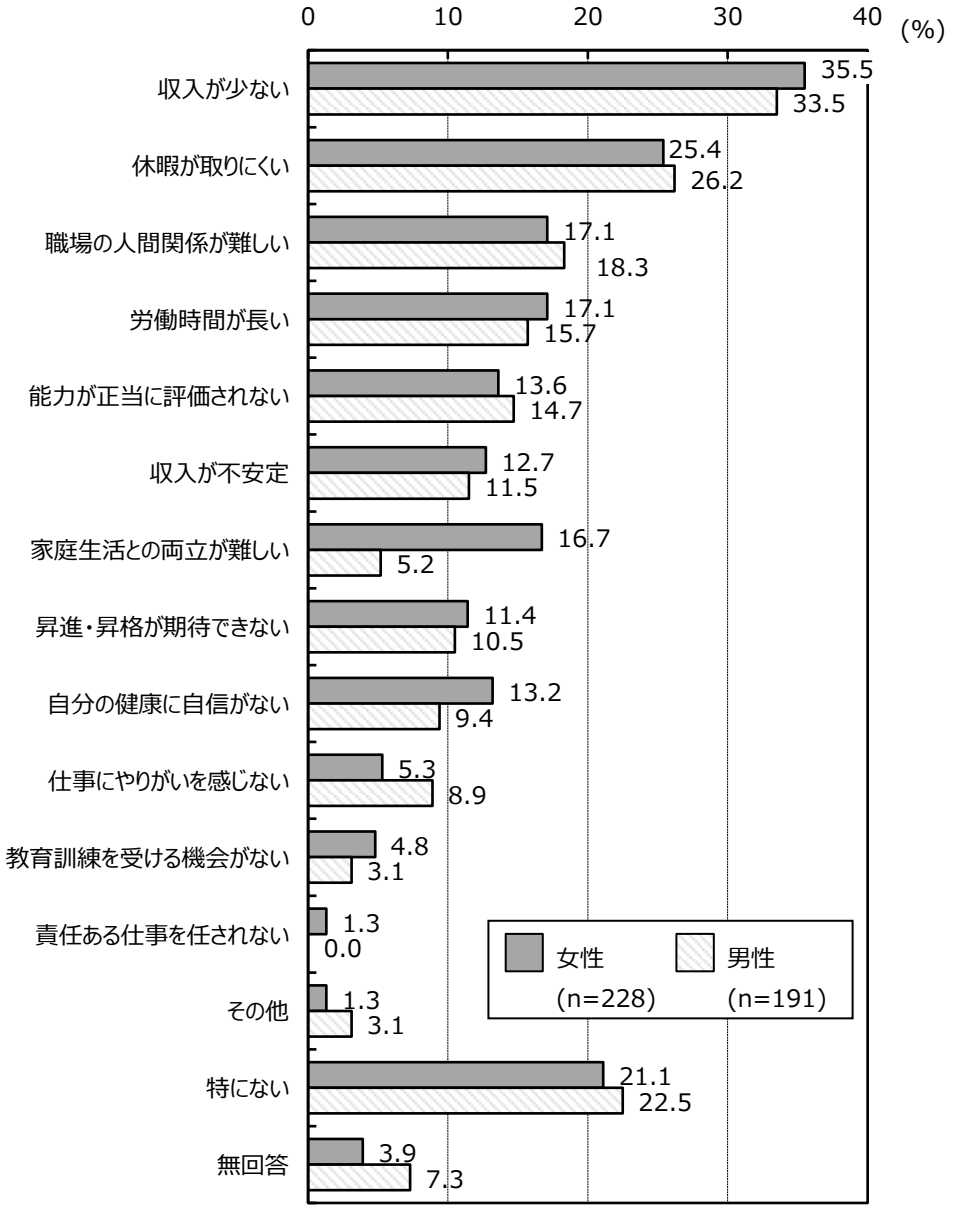
「収入が少ない」が 34.8%と最も高く、次いで、「休暇が取りにくい」が 25.8%となっています。「特にない」の割合も比較的高く、21.5%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

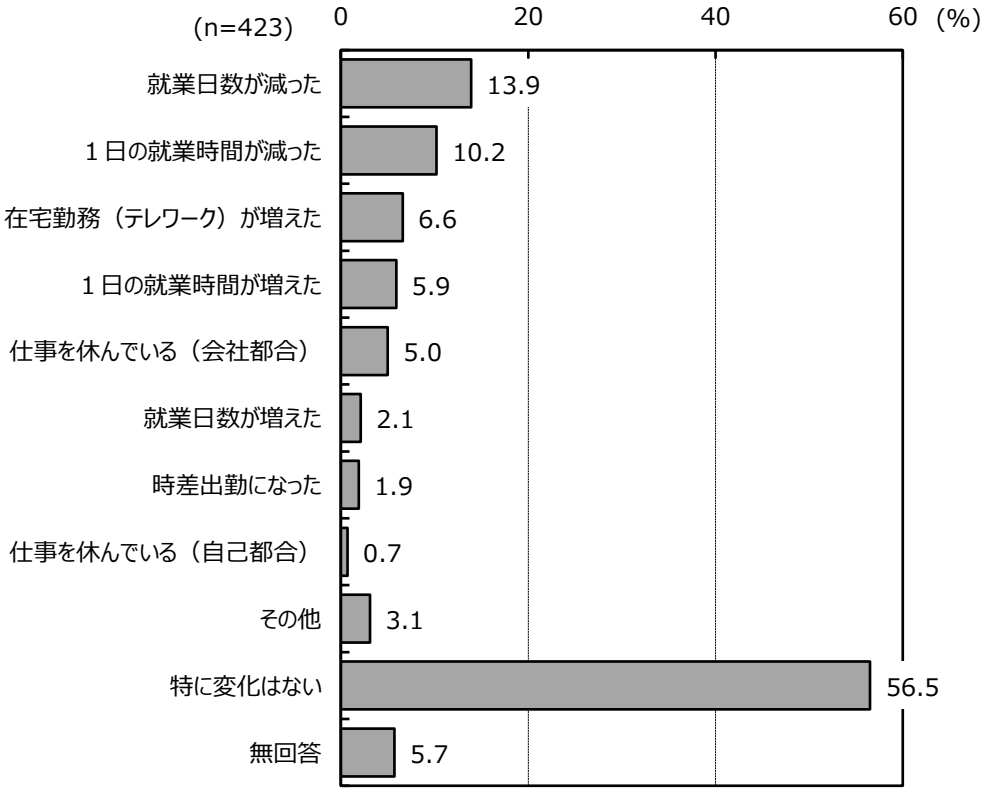
男女ともに「収入が少ない」、「休暇が取りにくい」の順で割合が高くなっています。

また、「家庭生活との両立が難しい」の割合については男女差が大きく、女性が男性を 11.5 ポイント上回っています。



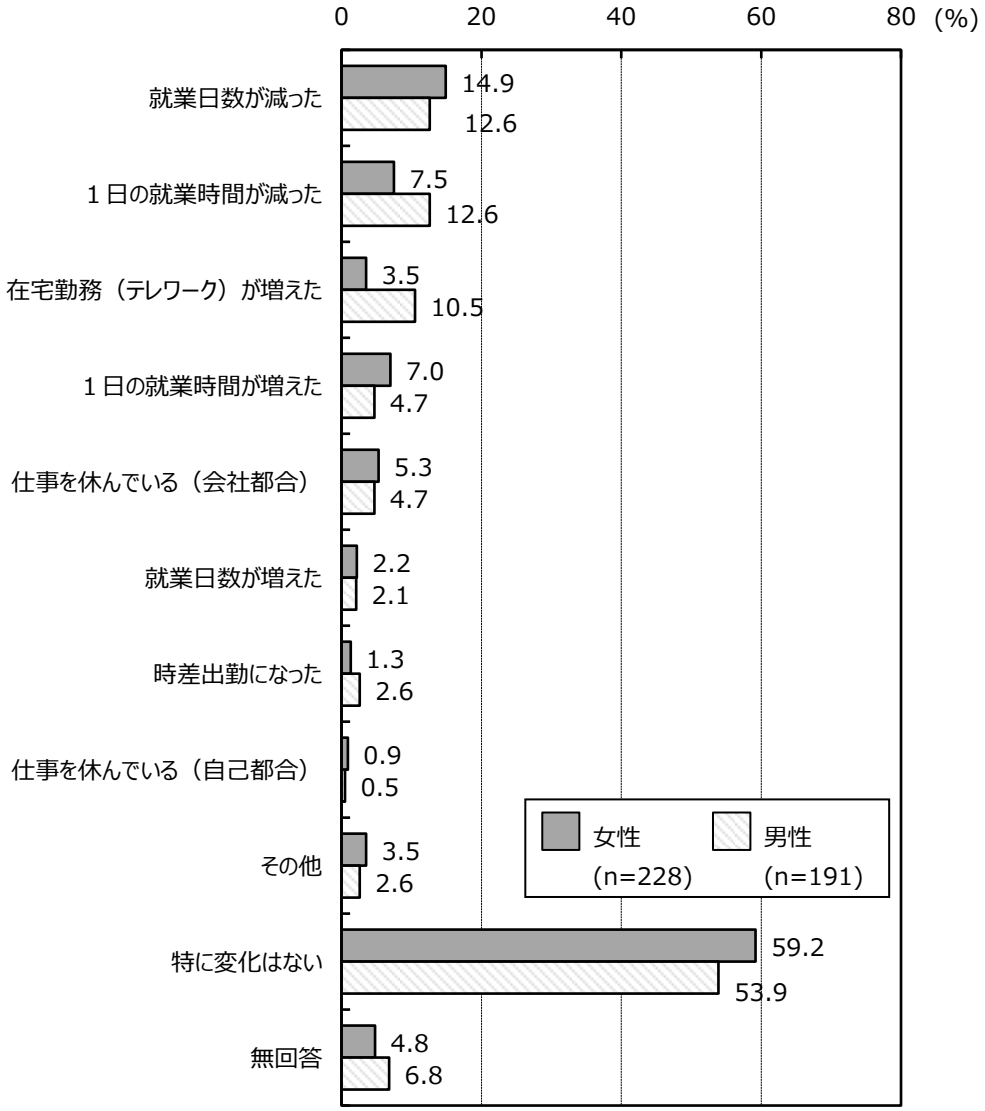
【現在働いている方のみ】
問 16　コロナ禍の影響により働き方に変化はありましたか。（複数回答）

「特に変化はない」（56.5%）が最も高くなっていますが、それ以外についてみると、「就業日数が減った」が13.9%と最も高く、次いで、「１日の就業時間が減った」が 10.2%となっています。



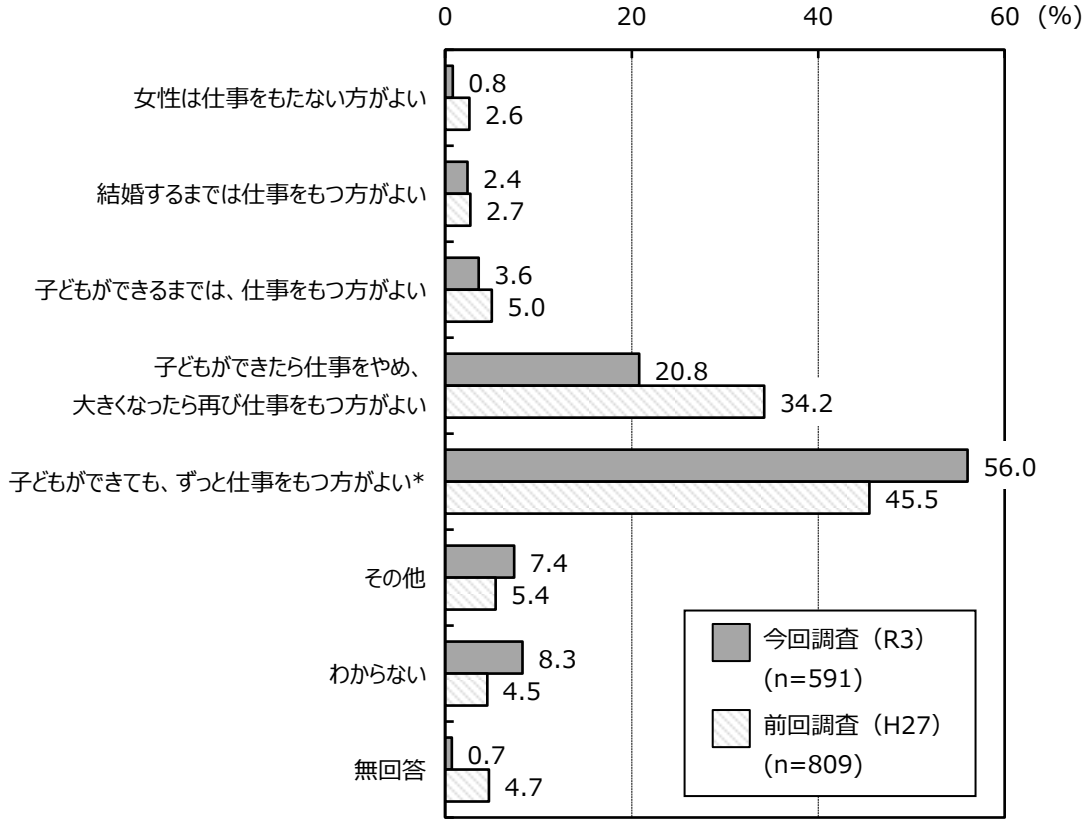
【クロス集計分析（性別）】

男女とも「特に変化はない」が最も高くなっています。それ以外についてみると、男女とも「就業日が減った」が最も高くなっていますが、男性は「１日の就業時間が減った」と同率となっています。



問 17　一般的に女性が仕事をもつことについて、どう思いますか。（単数回答）

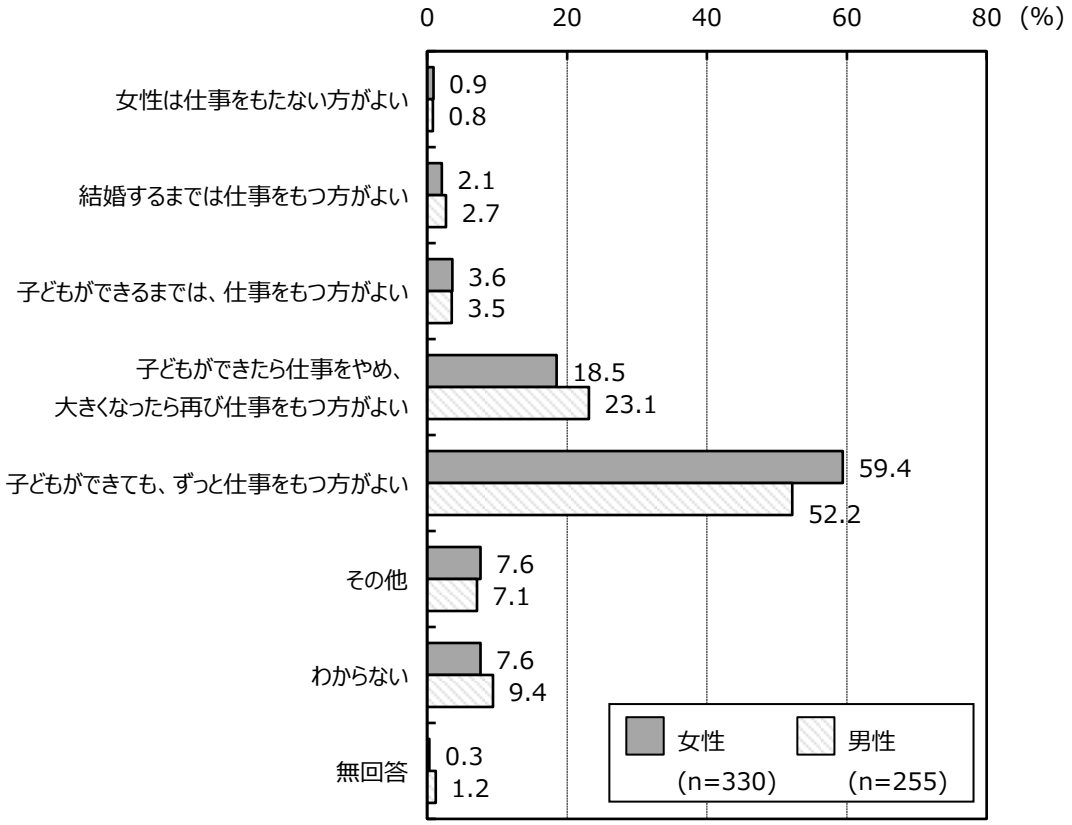
前回調査と同様に「子どもができても、ずっと仕事をもつ方がよい」が最も高くなっており、割合は 10.5 ポイント増加しています（前回：45.5%、今回：56.0%）。次いで、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が 20.8%となっています。



＊前回調査では「子どもができても、ずっと仕事を続ける方がよい」

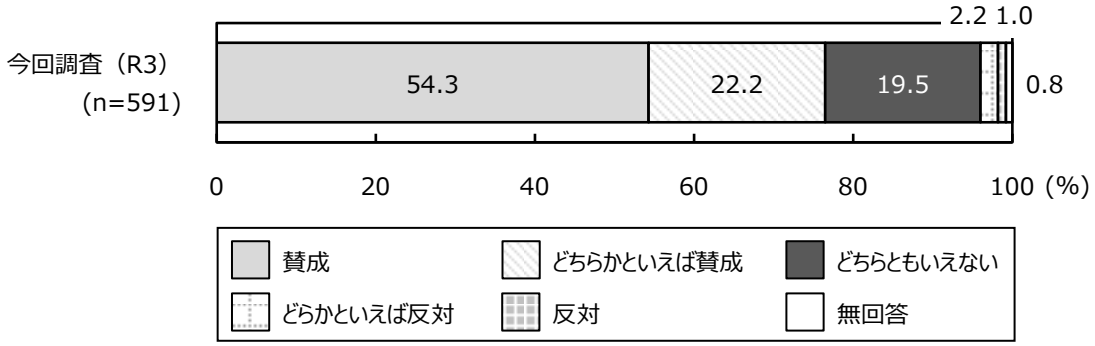
【クロス集計分析（性別）】

男女とも「子どもができても、ずっと仕事をもつ方がよい」が最も高くなっていますが、女性の方が割合が高くなっています（女性：59.4%、男性：52.2%）。



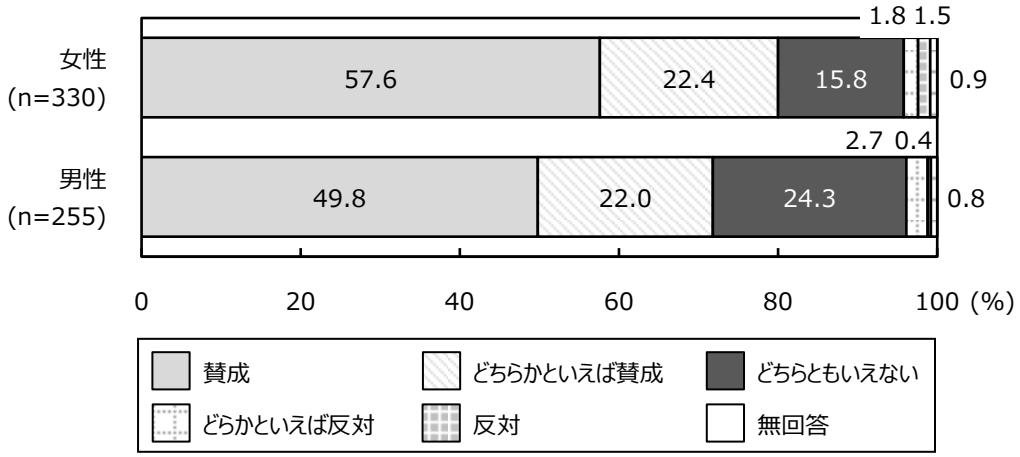
問 18　女性が管理職に昇進することについて、どう思いますか。（単数回答）

『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）、『反対』（「反対」＋「どちらかといえば反対」）で割合を比較すると、『賛成』は 76.5%、『反対』は 3.2%と、『賛成』の方が高くなっています。



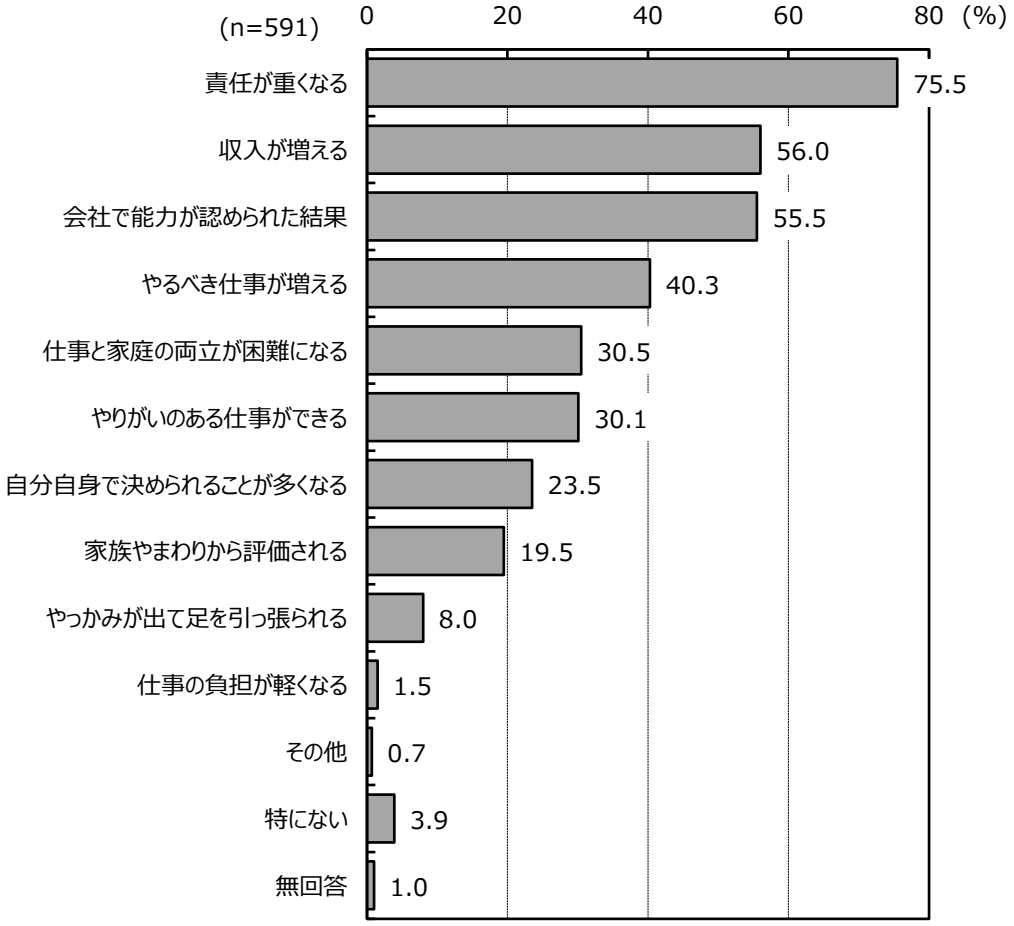
【クロス集計分析（性別）】

女性は『賛成』が 80.0%、『反対』が 3.3%、男性は『賛成』が 71.8%、『反対』が 3.1%と、ともに『賛成』の方が高くなっていますが、女性の方が割合が高く、男女差も大きくなっています（8.2 ポイント差）。



問 19　一般的に管理職以上の役職に昇進することについて、どのようなイメージをもっていますか。
（複数回答）

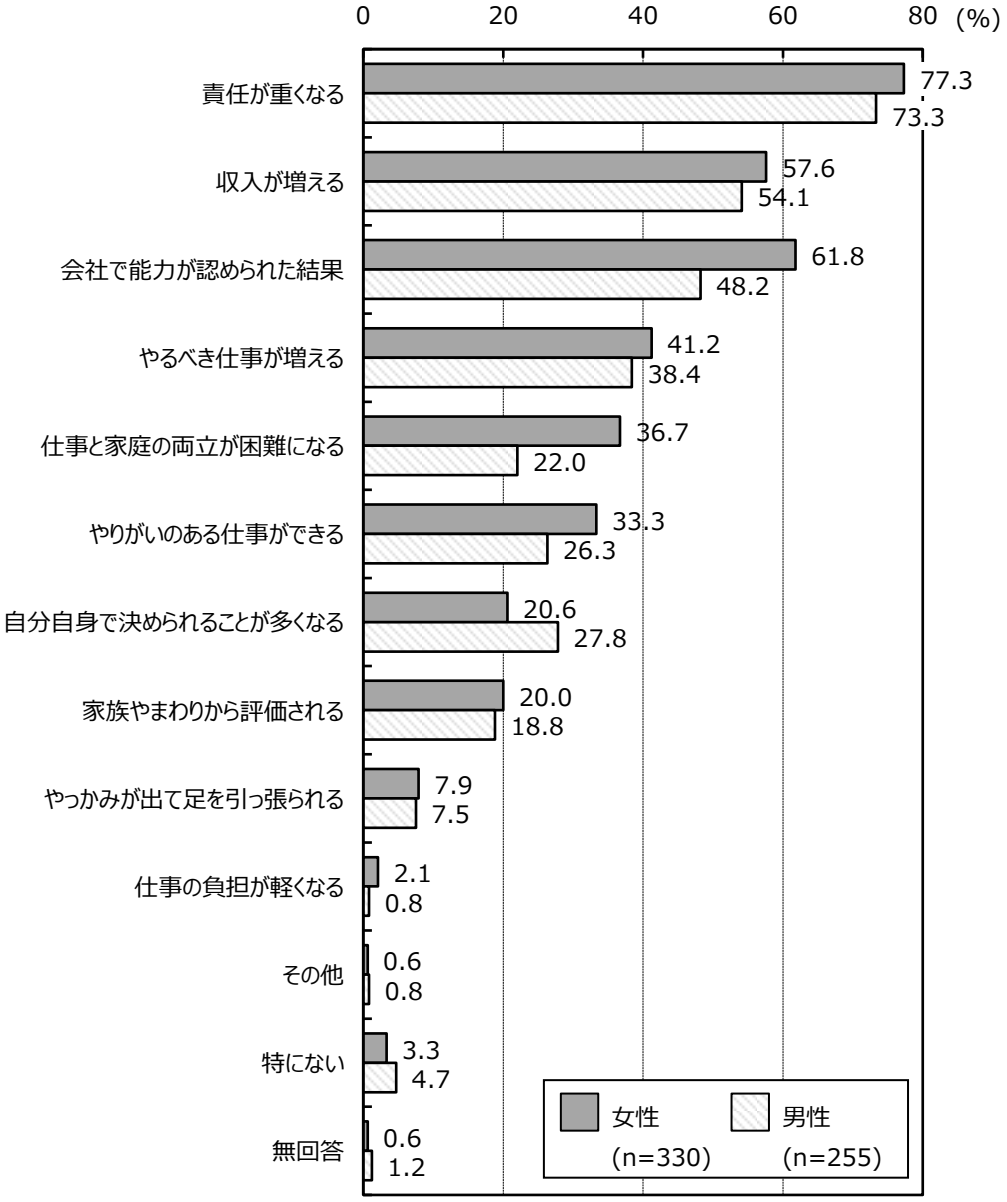
「責任が重くなる」が 75.5%と最も高く、次いで、「収入が増える」が 56.0%、「会社で能力が認められた結果」が 55.5%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

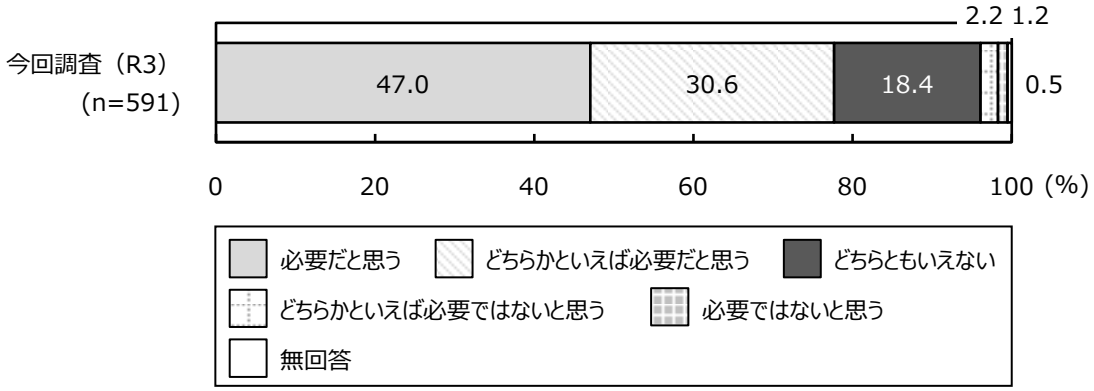
男女とも「責任が重くなる」、「収入が増える」、「会社で能力が認められた結果」が上位３位となっており、「責任が重くなる」が最も高くなっています。

「会社で能力が認められた結果」の割合については男女差が大きく、女性が男性を 13.6 ポイント上回っています。



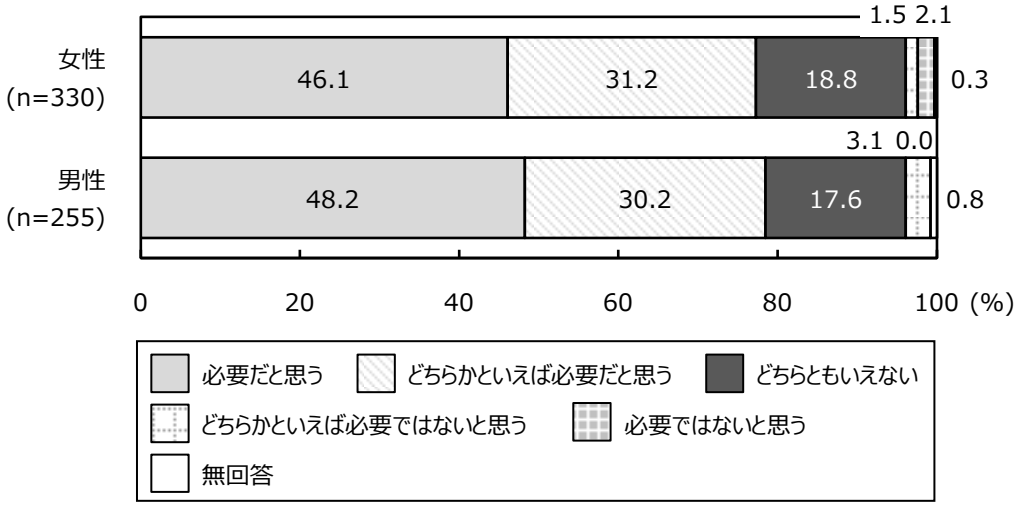
問 20　役員など地域の意思決定の場へ女性が参画することについて、どう思いますか。（単数回答）

『必要』（「必要だと思う」＋「どちらかといえば必要だと思う」）、『必要でない』（「必要ではないと思う」＋「どちらかといえば必要ではないと思う」）で割合を比較すると、『必要』は 77.6%、『必要でない』は 3.4%と、『必要』の方が割合が高くなっています。



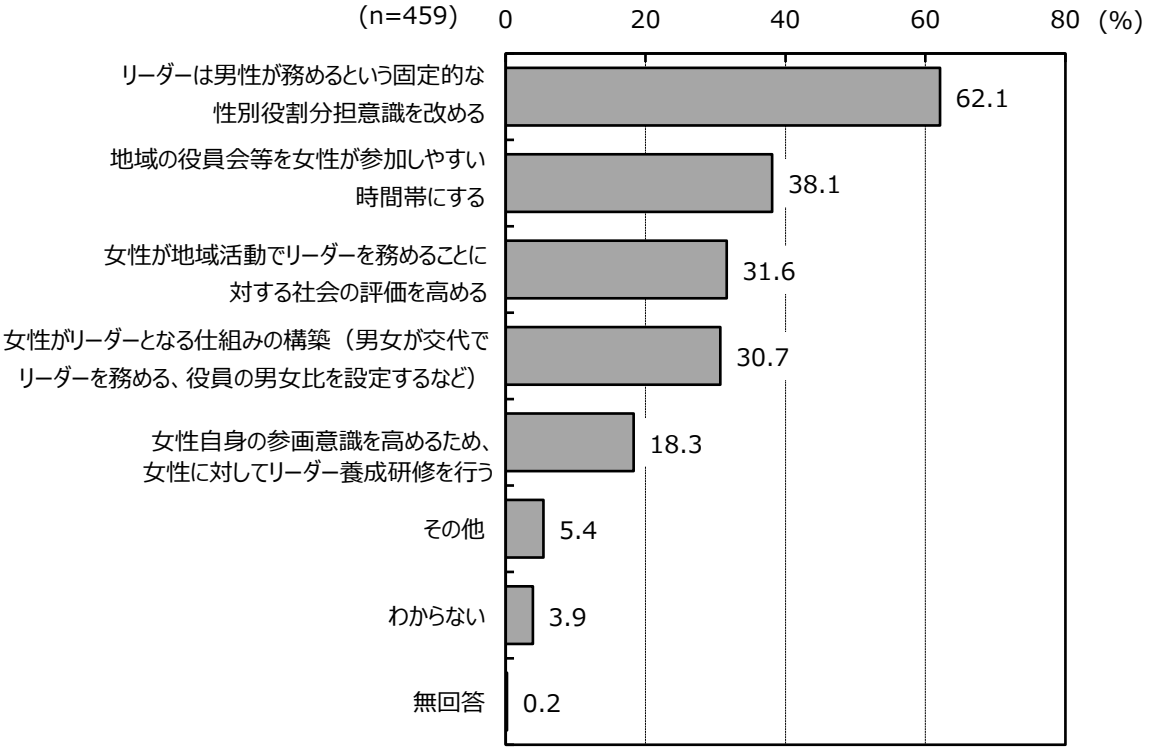
【クロス集計分析（性別）】

女性は『必要』が 77.3%、『必要でない』が 3.6%、男性は『必要』が 78.4%、『必要でない』が 3.1%と、男女ともに『必要』の方が割合が高くなっています。



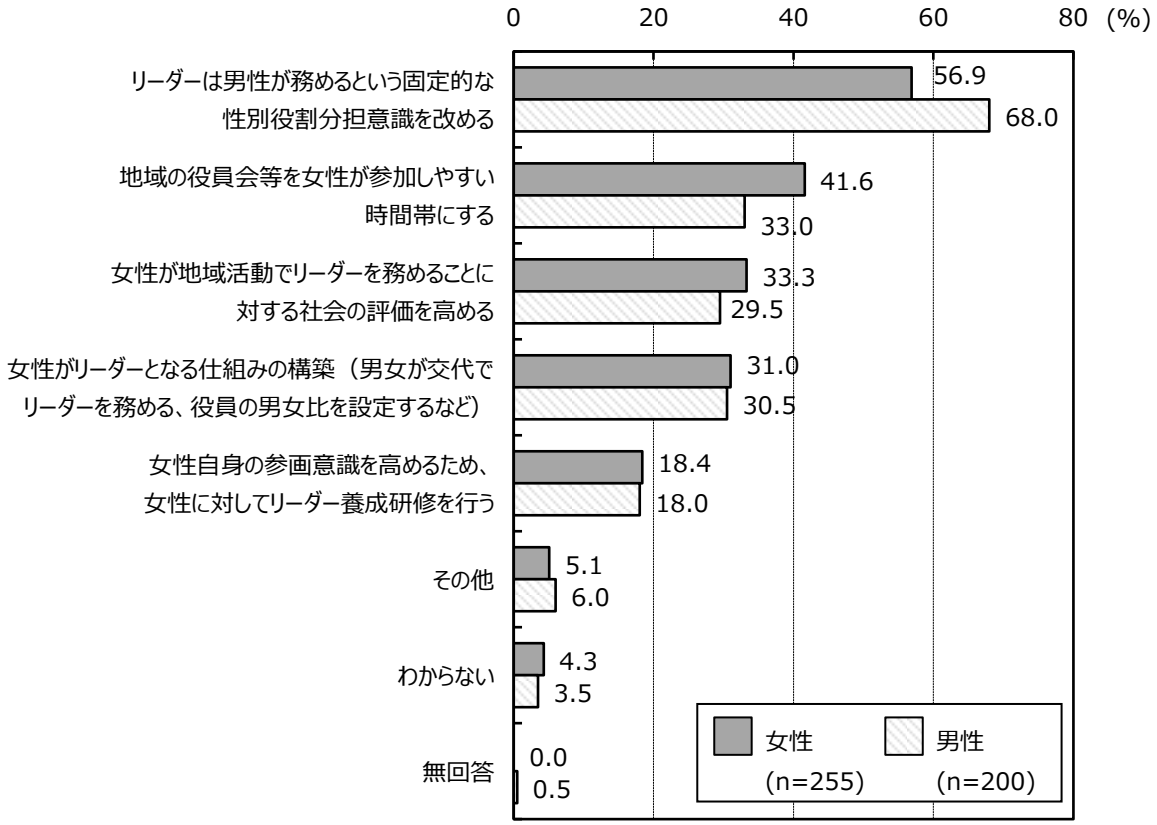
【問 20 で「必要だと思う」、「どちらかといえば必要だと思う」と回答された方のみ】
問 21　女性の参画を進めるためには何が必要だと思いますか。（複数回答）

「リーダーは男性が務めるという固定的な性別役割分担意識を改める」が 62.1%と最も高く、次いで、「地域の役員会等を女性が参加しやすい時間帯にする」が 38.1%、「女性が地域活動でリーダーを務めることに対する社会の評価を高める」が 31.6%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

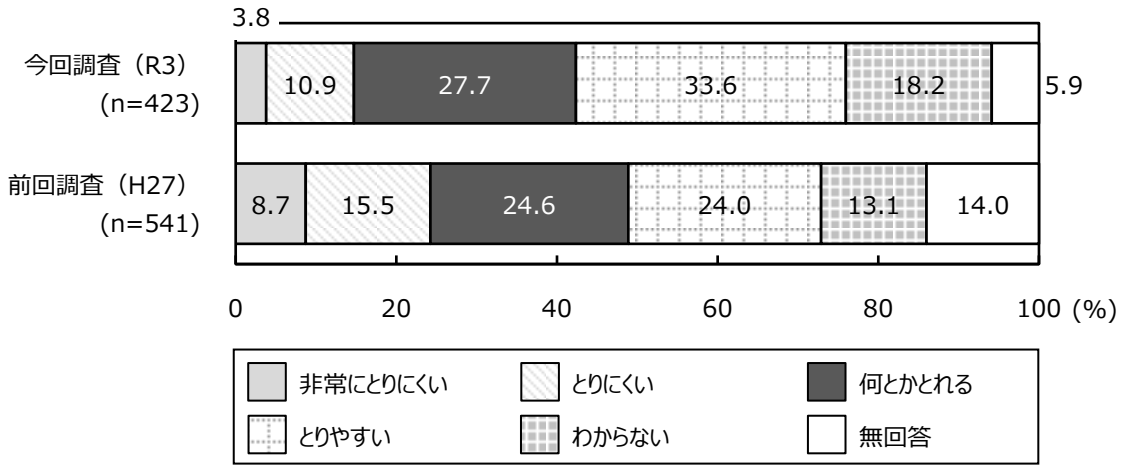
男女とも「リーダーは男性が務めるという固定的な性別役割分担意識を改める」、「地域の役員会等を女性が参加しやすい時間帯にする」の順で割合が高くなっていますが、どちらとも男女差が大きく、「リーダーは男性が務めるという固定的な性別役割分担意識を改める」については男性が女性を 11.1 ポイント上回り、「地域の役員会等を女性が参加しやすい時間帯にする」については女性が男性を 8.6 ポイント上回っています。



5. 仕事と家庭の両立について

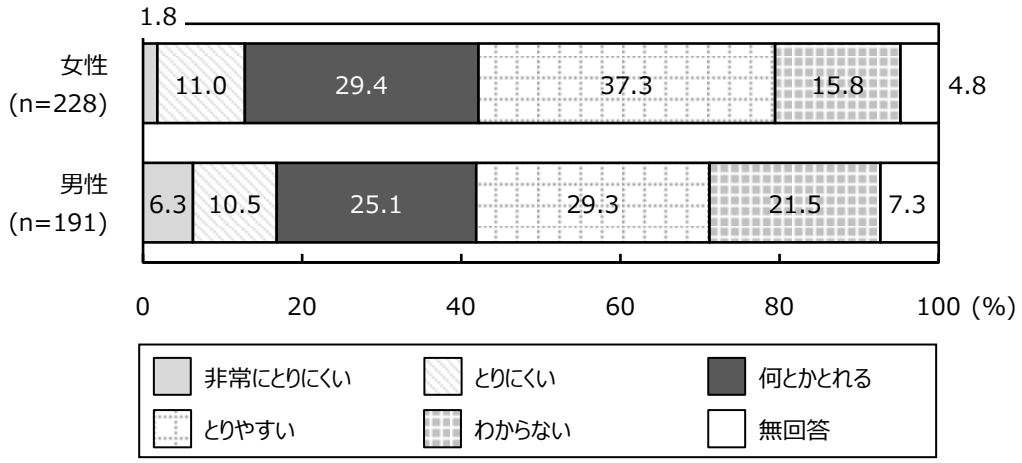
【現在働いている方のみ】
問 22　あなたの職場は、育児や介護のための休暇をとりやすいですか。（単数回答）

前回調査では「何とかとれる」が最も高かったのに対し、今回調査では、「とりやすい」が最も高く、33.6%となっています。次いで、「何とかとれる」が 27.7%、「わからない」が 18.2%となっています。
「とりやすい」の割合については 9.6 ポイント増加しています（前回：24.0%、今回：33.6%）。



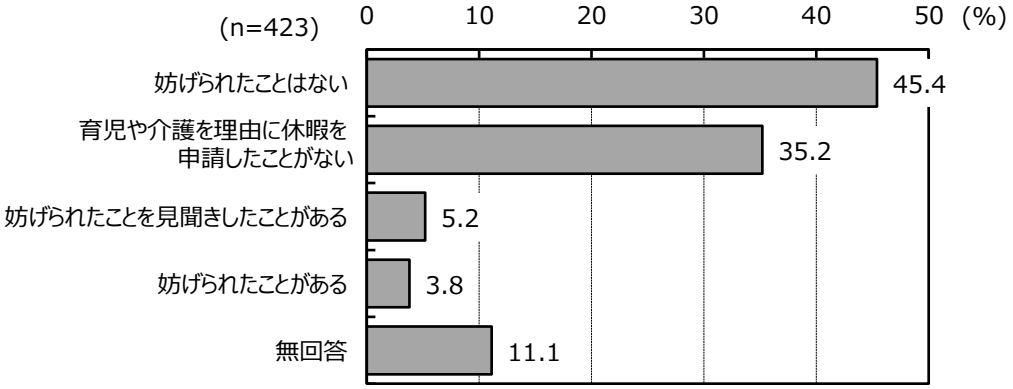
【クロス集計分析（性別）】

男女とも「とりやすい」が最も高くなっていますが、女性の方が割合が高く（女性：37.3%、男性：29.3%）、男女差も大きくなっています（8.0 ポイント差）。



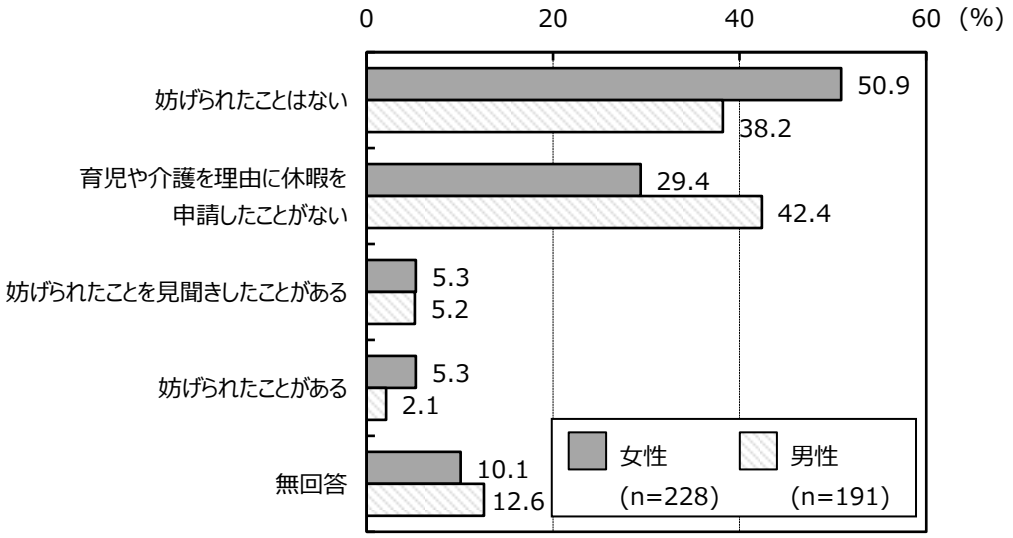
【現在働いている方のみ】
問 23　育児や介護のための休暇を申請しようとして、上司や同僚に妨げられたことはありますか。
（複数回答）

「妨げられたことはない」が 45.4%と最も高く、次いで、「育児や介護を理由に休暇を申請したことがない」が 35.2%、「妨げられたことを見聞きしたことがある」が 5.2%となっています。



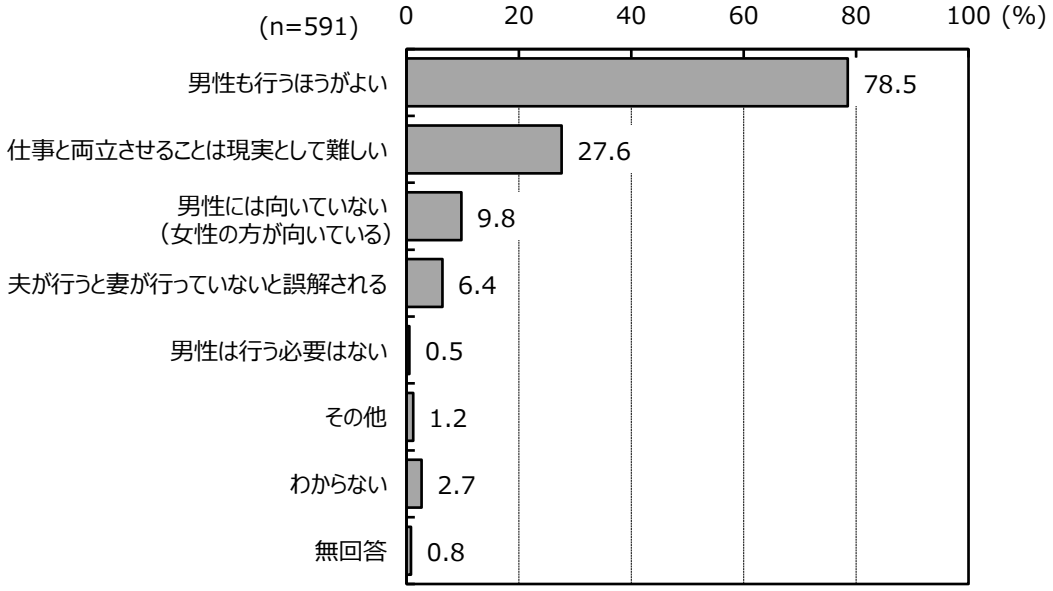
【クロス集計分析（性別）】

女性は「妨げられたことはない」が最も高いのに対し、男性は「育児や介護を理由に休暇を申請したことがない」が最も高くなっています。どちらの割合も男女差が大きく、「妨げられたことはない」については女性が男性を 12.7 ポイント上回り、「育児や介護を理由に休暇を申請したことがない」については男性が女性を 13.0 ポイント上回っています。



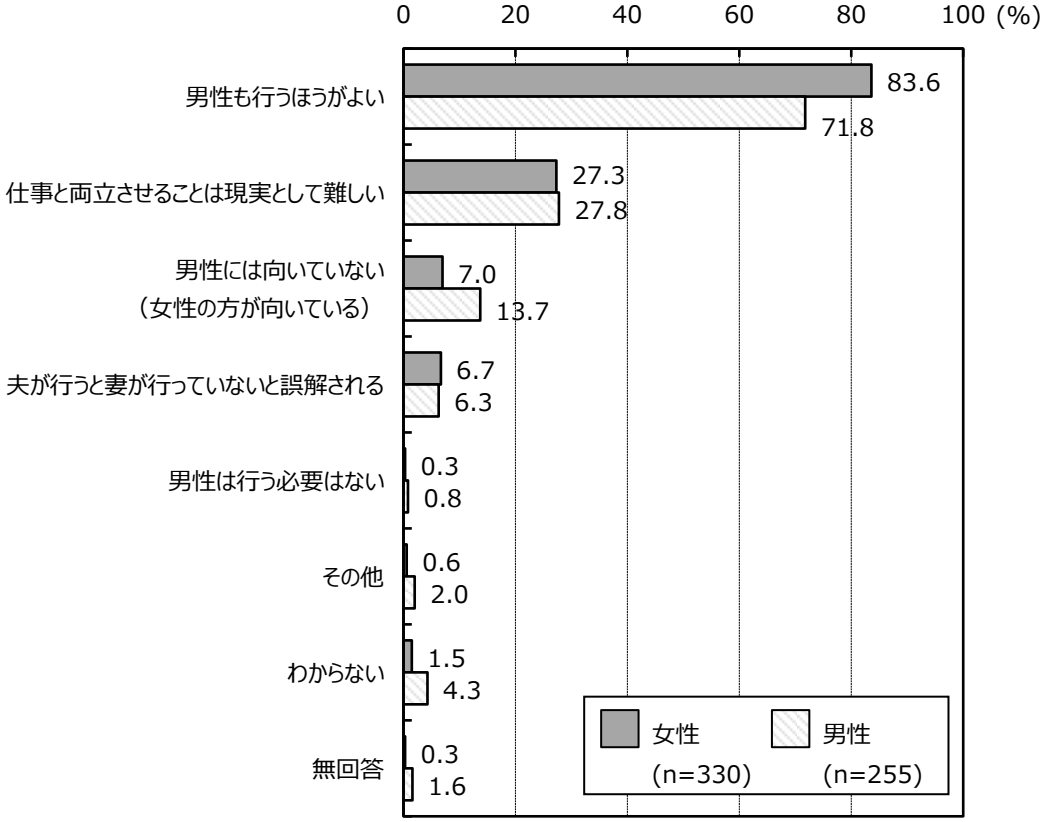
問 24　男性が家事・子育て・介護を行うことについて、あなたはどう思いますか。（複数回答）

「男性も行うほうがよい」が 78.5%と大半を占めています。次いで、「仕事と両立させることは現実として難しい」が 27.6%となっています。



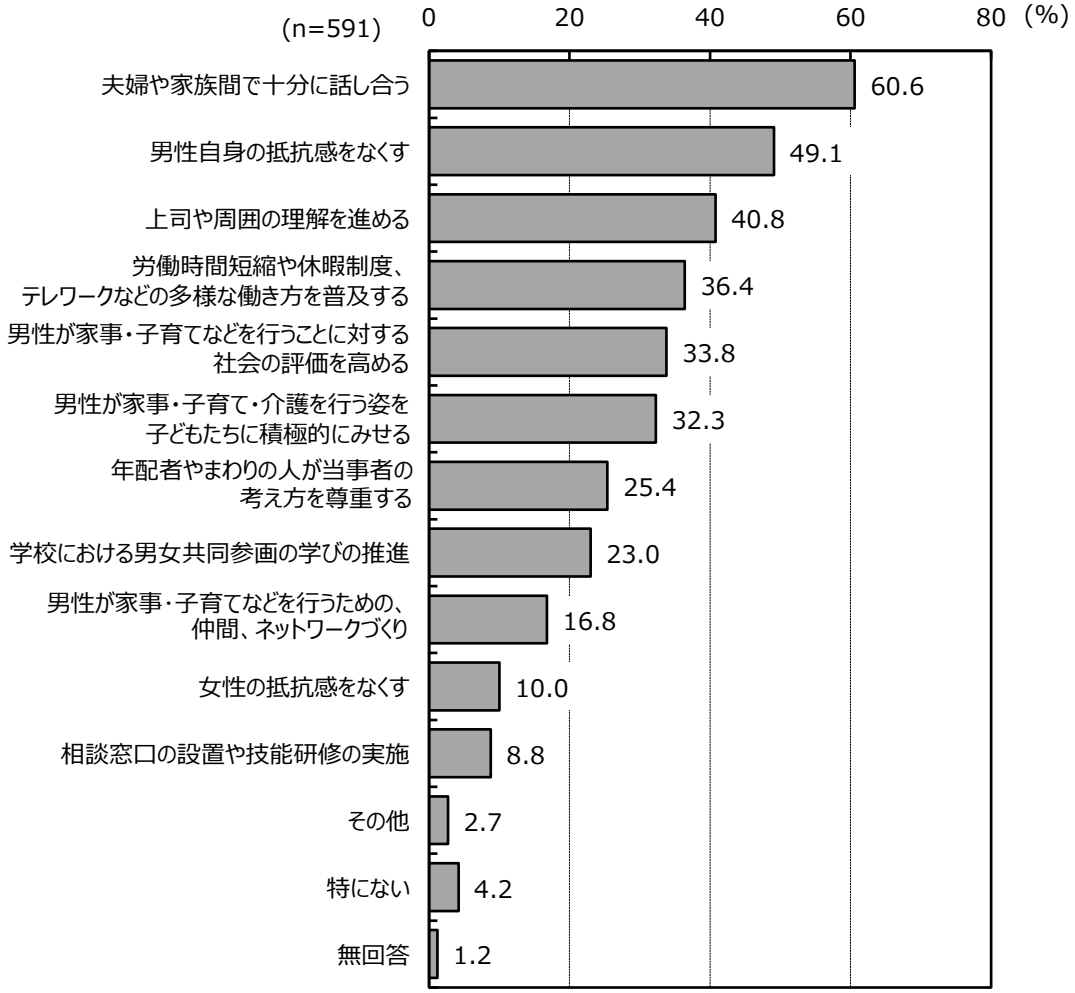
【クロス集計分析（性別）】

男女とも「男性も行うほうがよい」が大半を占めていますが、男女差が大きく、女性が男性を 11.8 ポイント上回っています。



問 25　あなたは、男性が家事や子育て、介護へ積極的に参加を進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

「夫婦や家族間で十分に話し合う」が 60.6%と最も高く、次いで、「男性自身の抵抗感をなくす」が 49.1%、「上司や周囲の理解を進める」が 40.8%となっています。

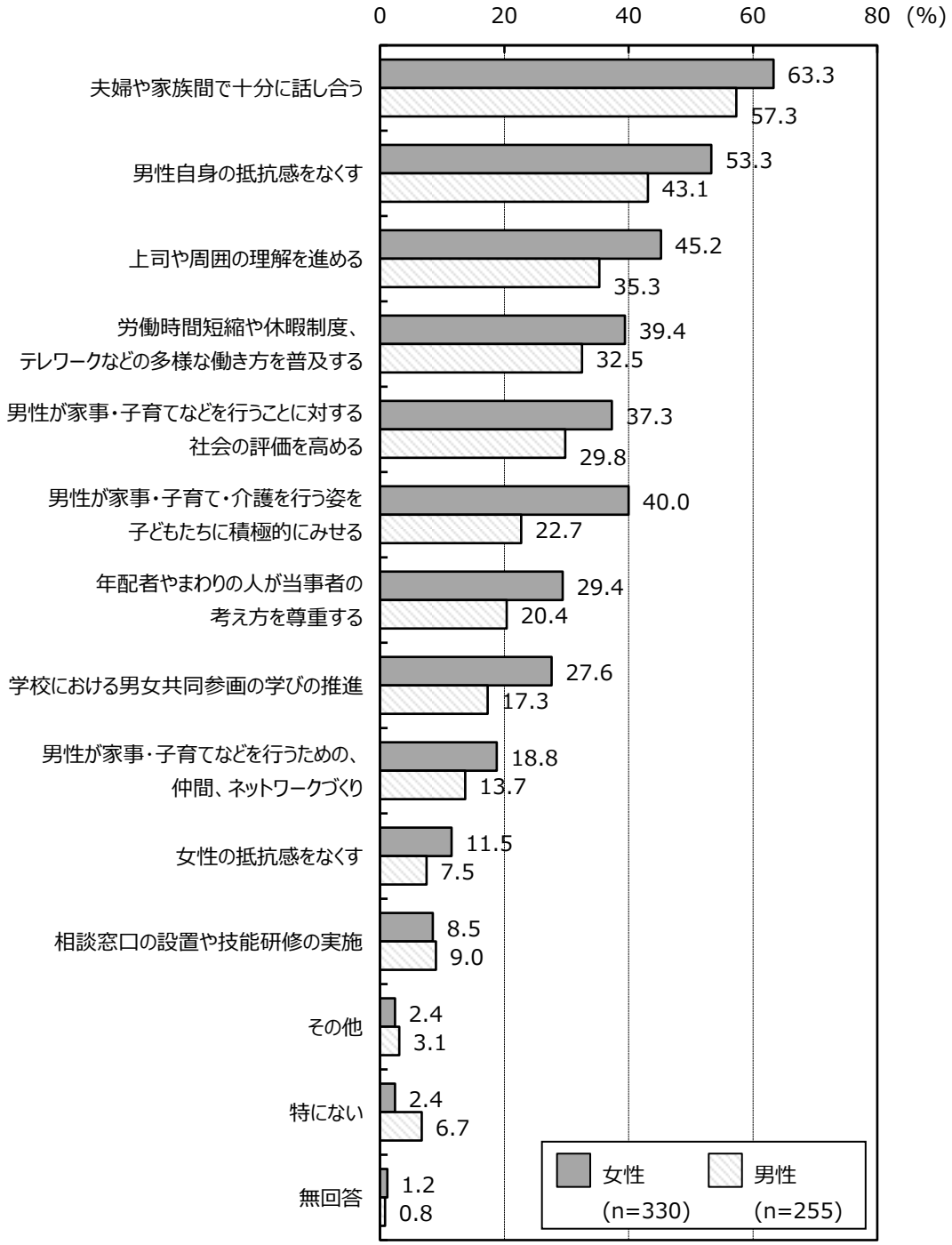


【クロス集計分析（性別）】

男女とも「夫婦や家族間で十分に話し合う」、「男性自身の抵抗感をなくす」、「上司や周囲の理解を進める」の順で高くなっています。

「男性自身の抵抗感をなくす」の割合については男女差が大きく、女性が男性を 10.2 ポイント上回っています。

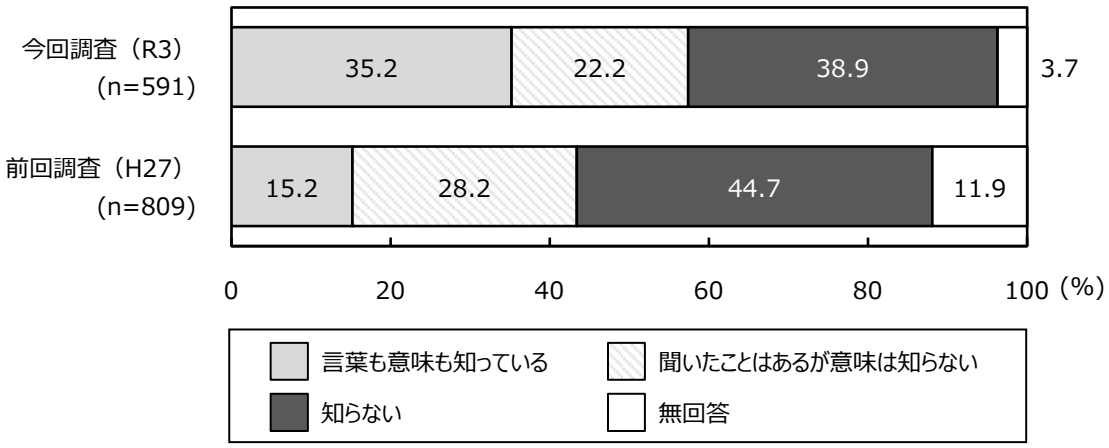
また、「男性が家事・子育て・介護を行う姿を子どもたちに積極的にみせる」の割合についても男女差が大きく、女性が男性を 17.3 ポイント上回っています。



問 26 「ワーク・ライフ・バランス」（仕事と生活の調和）という言葉や意味を知っていますか。
（単数回答）

前回調査と同様に「知らない」が最も高くなっていますが、割合は減少しています（前回：44.7%、今回：38.9%）。

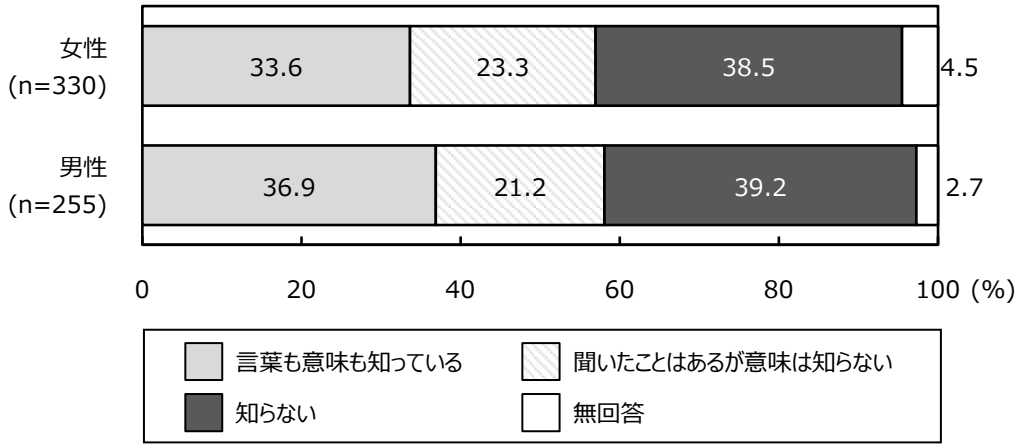
「言葉も意味も知っている」の割合については 20.0 ポイント増加しています（前回：15.2%、今回：35.2%）。



＊前回調査では「言葉と内容を知っている」、「言葉は知っている」、「知らない」の三択

【クロス集計分析（性別）】

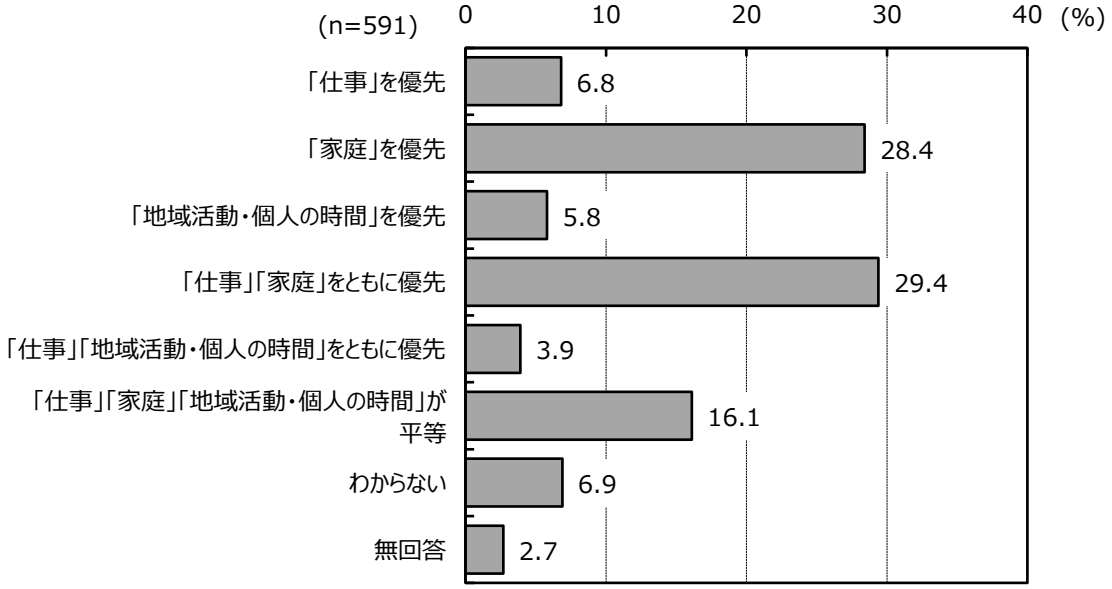
男女とも「知らない」が最も高くなっています。「言葉も意味も知っている」の割合についてみると、男性の方が高くなっています（女性：33.6%、男性：36.9%）。



問 27 「仕事」、「家庭」、「地域活動・個人の時間」について、あなたの①希望の優先度と②現実の優先度をお答えください。（①②について、それぞれ単数回答）

①希望の優先度

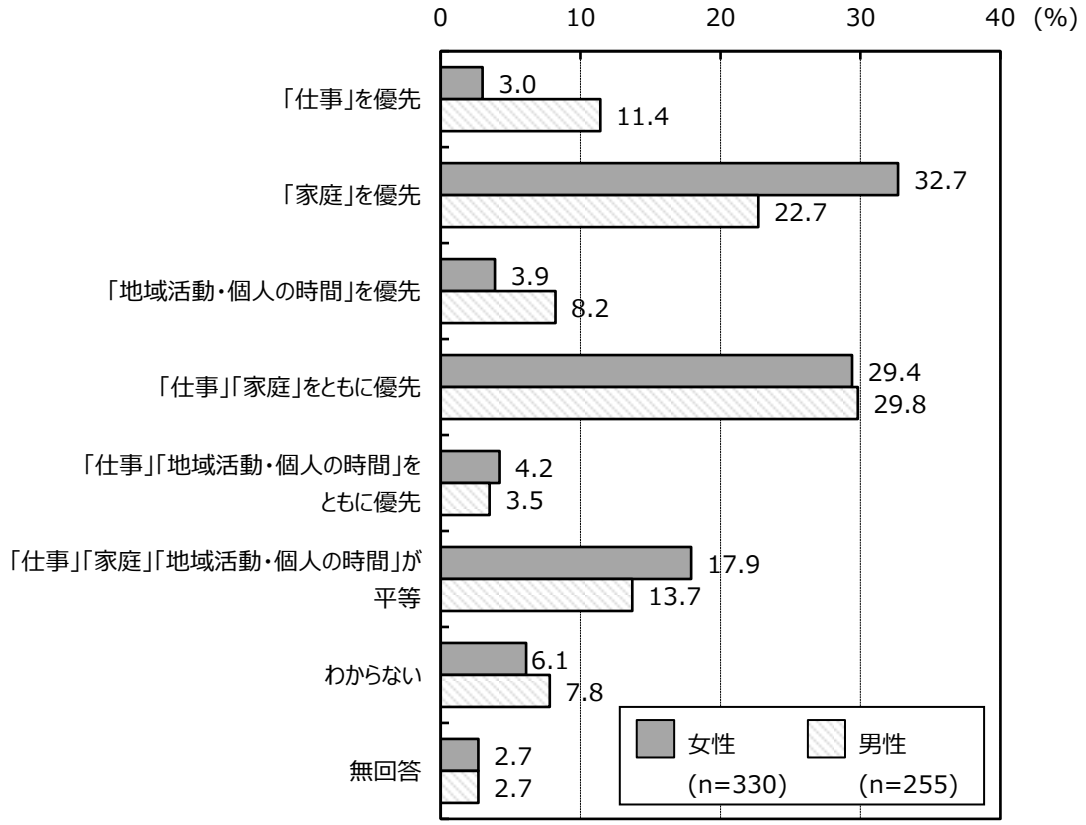
「仕事」「家庭」をともに優先」が 29.4%と最も高く、次いで、「「家庭」を優先」が 28.4%、「「仕事」「家庭」「地域活動・個人の時間」が平等」が 16.1%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

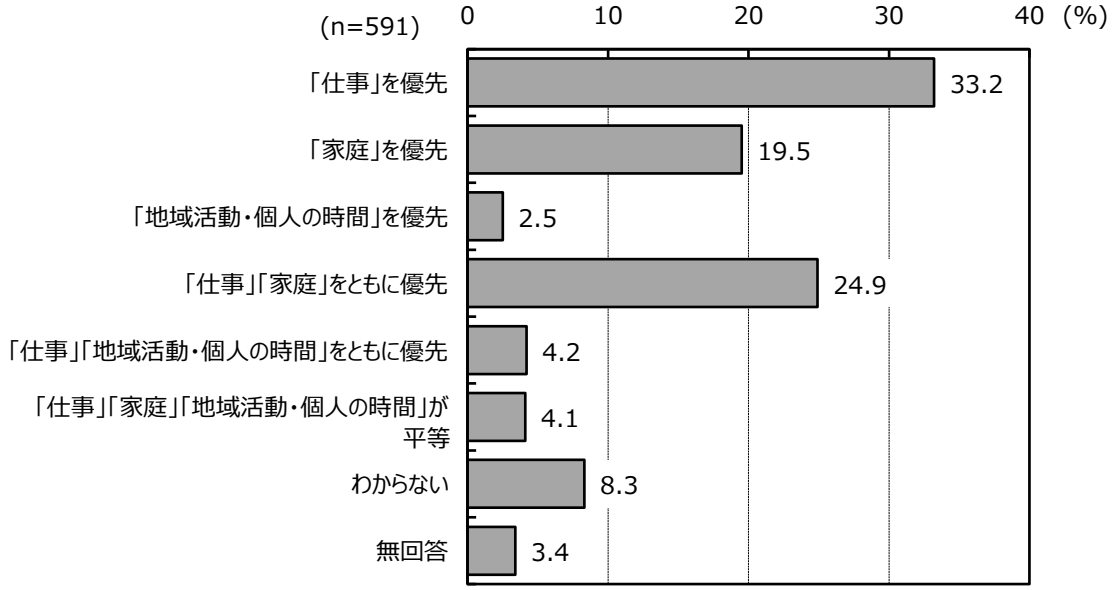
女性は「「家庭」を優先」（32.7%）が最も高いのに対し、男性は「「仕事」「家庭」をともに優先」（29.8%）が最も高くなっています。

「「家庭」を優先」の割合については女性の方が高く（女性：32.7%、男性：22.7%）、男女差も大きくなっています（10.0 ポイント差）。



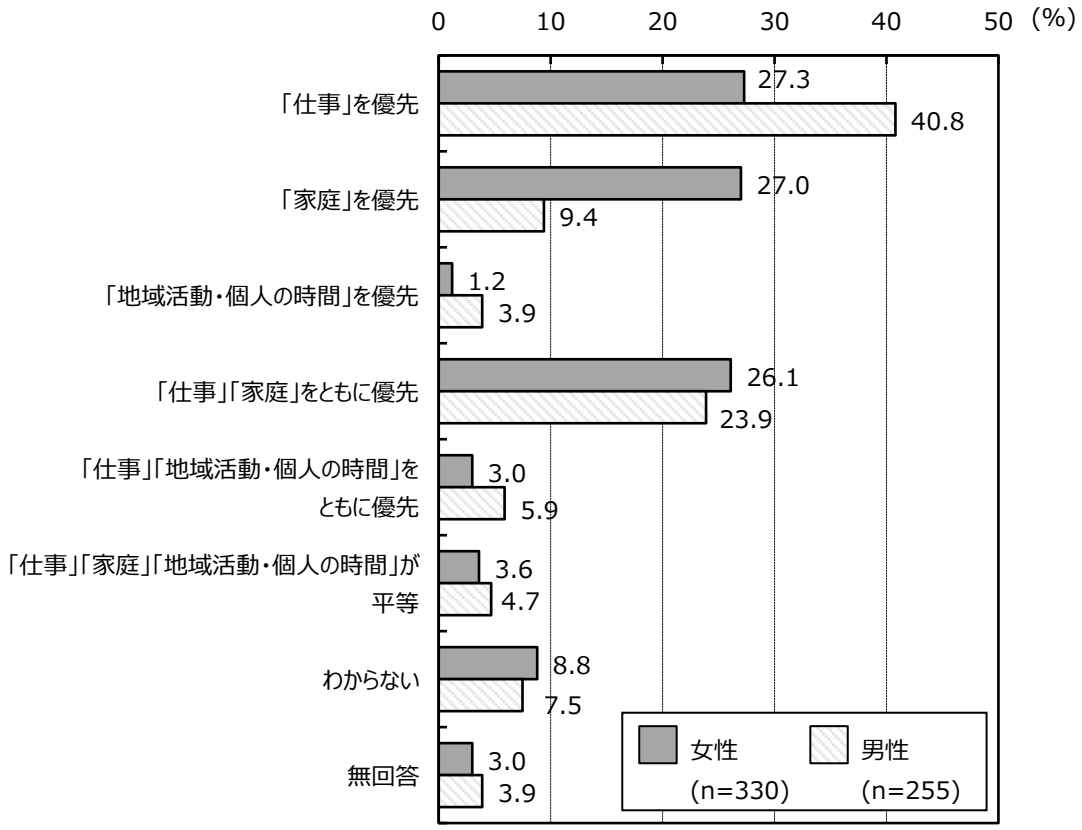
②現実の優先度

「「仕事」を優先」が 33.2%と最も高く、次いで、「「仕事」「家庭」をともに優先」が 24.9%、「「家庭」を優先」が 19.5%となっています。



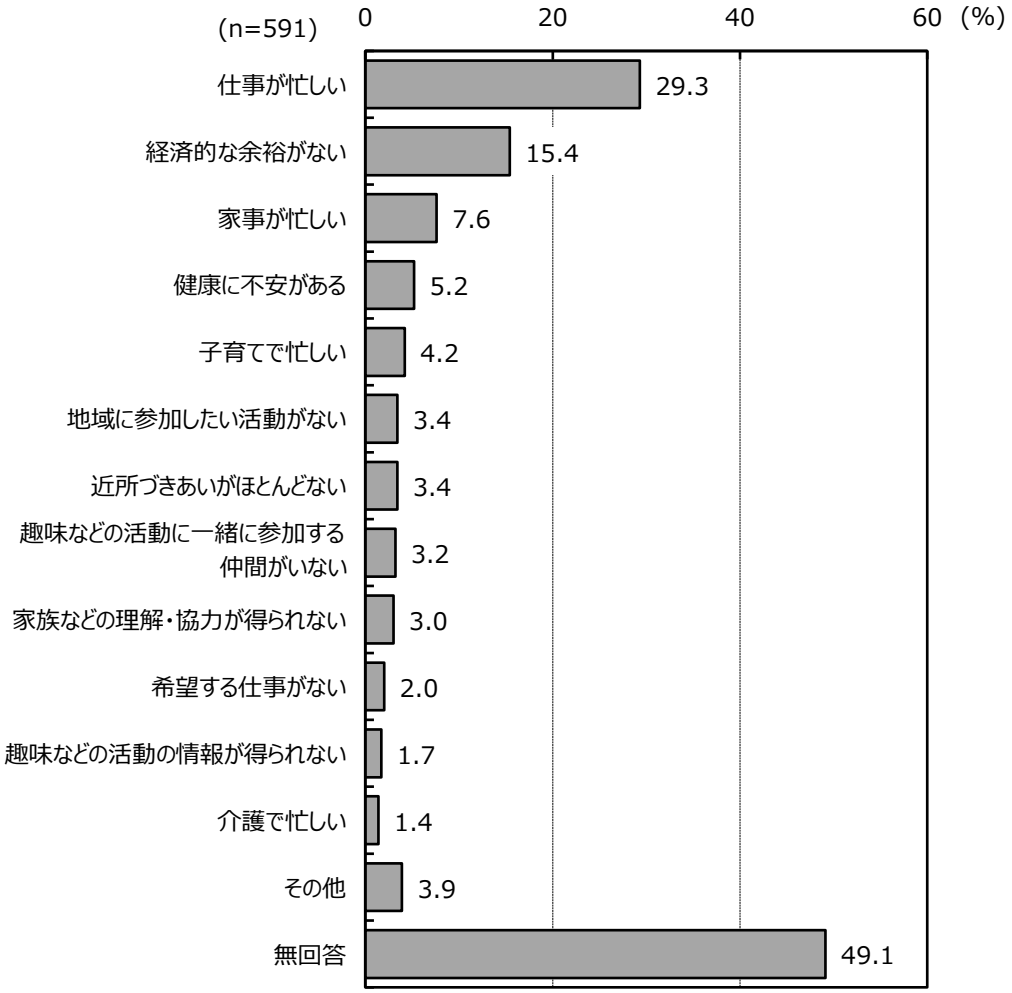
【クロス集計分析（性別）】

男女とも「「仕事」を優先」が最も高くなっていますが、男性の方が割合が高く（女性：27.3%、男性：40.8%）、男女差も大きくなっています（13.5 ポイント差）。



【問 27 の希望と現実が一致していない方のみ】
問 28　希望と現実が一致していない理由は何ですか。（複数回答）

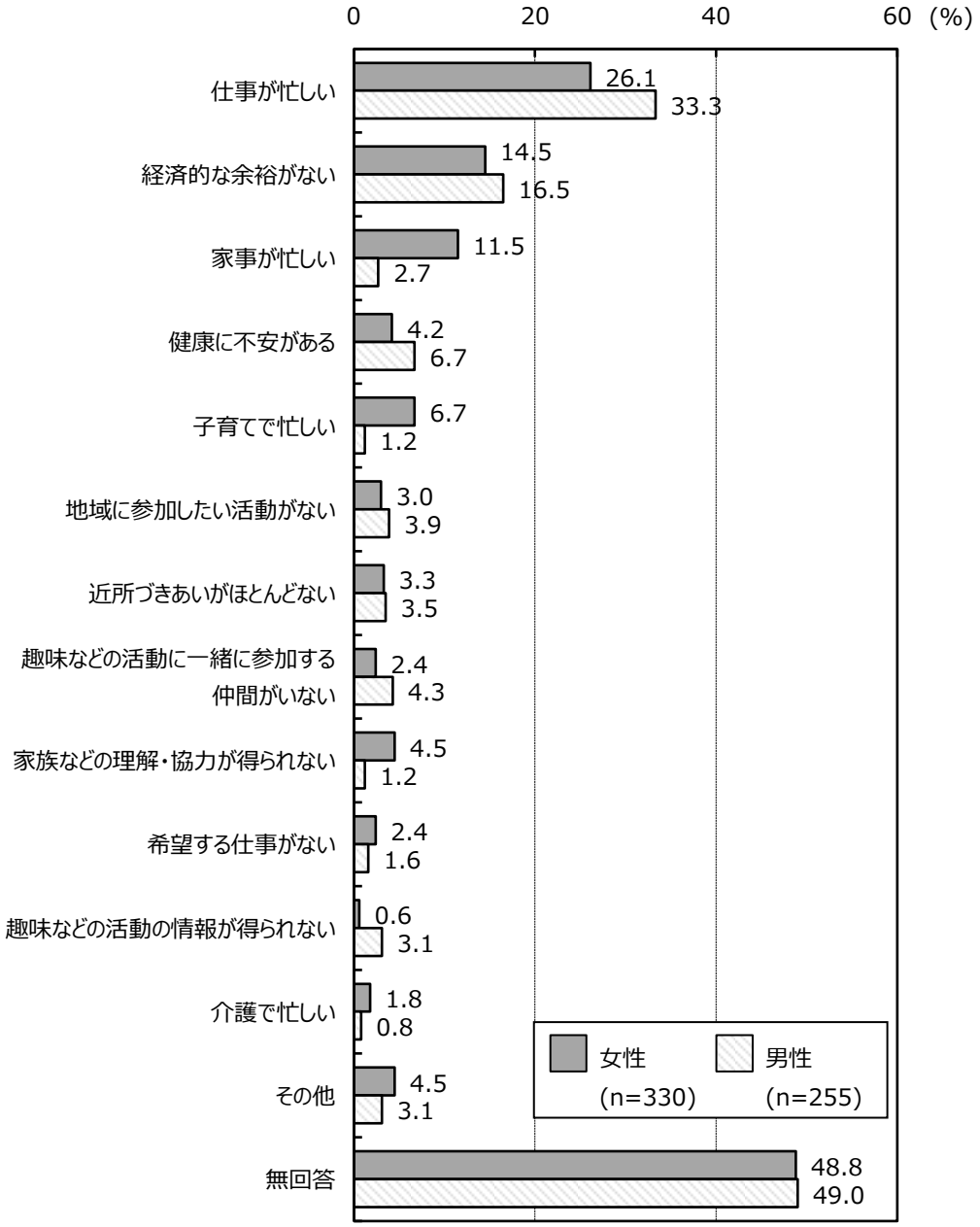
「仕事が忙しい」が 29.3%と最も高く、次いで、「経済的な余裕がない」が 15.4%、「家事が忙しい」が 7.6%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

男女とも「仕事が忙しい」、「経済的な余裕がない」の順で高くなっています。

「家事が忙しい」の割合については女性の方が高く（女性：11.5%、男性：2.7%）、男女差も大きくなっています（8.8 ポイント差）。



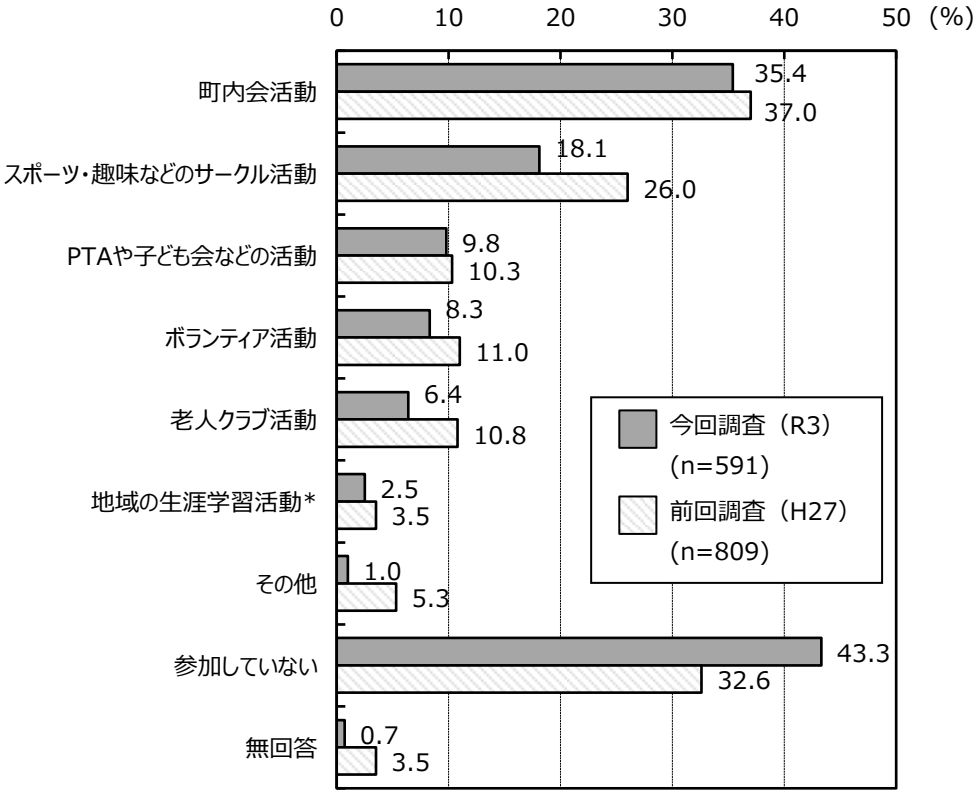
6. 地域活動等について

問 29　日頃どのような地域活動に参加していますか。（複数回答）

前回調査と同様に「参加していない」が最も高くなっており、割合は 10.7 ポイント増加しています（前回：32.6%、今回：43.3%）。

それ以外についてみると、「町内会活動」が 35.4%と最も高く、次いで、「スポーツ・趣味などのサークル活動」が 18.1%となっています。その後は差が開き、「PTA や子ども会などの活動」が 9.8%となっています。

「スポーツ・趣味などのサークル活動」の割合については大きく減少し、7.9 ポイント減となっています（前回：26.0%、今回：18.1%）。



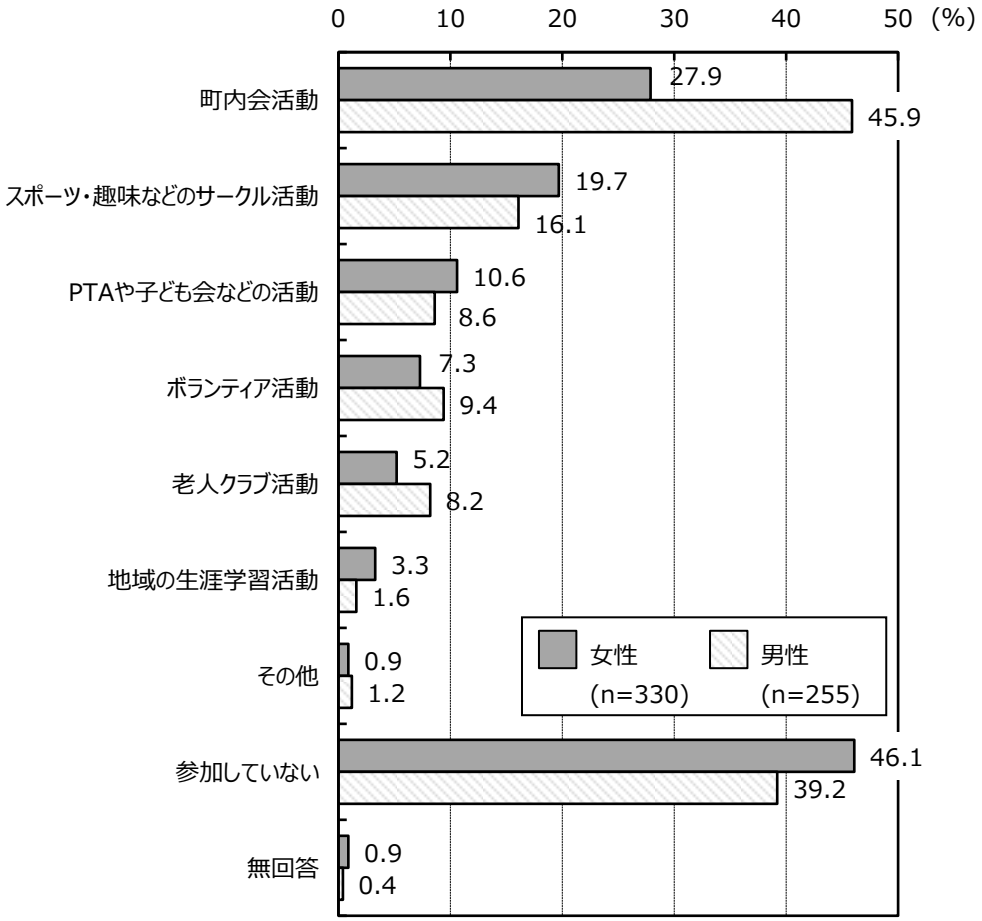
＊前回調査では「学習活動」

※前回調査の「その他」は「その他」と「女性団体などの活動」の割合の合計

【クロス集計分析（性別）】

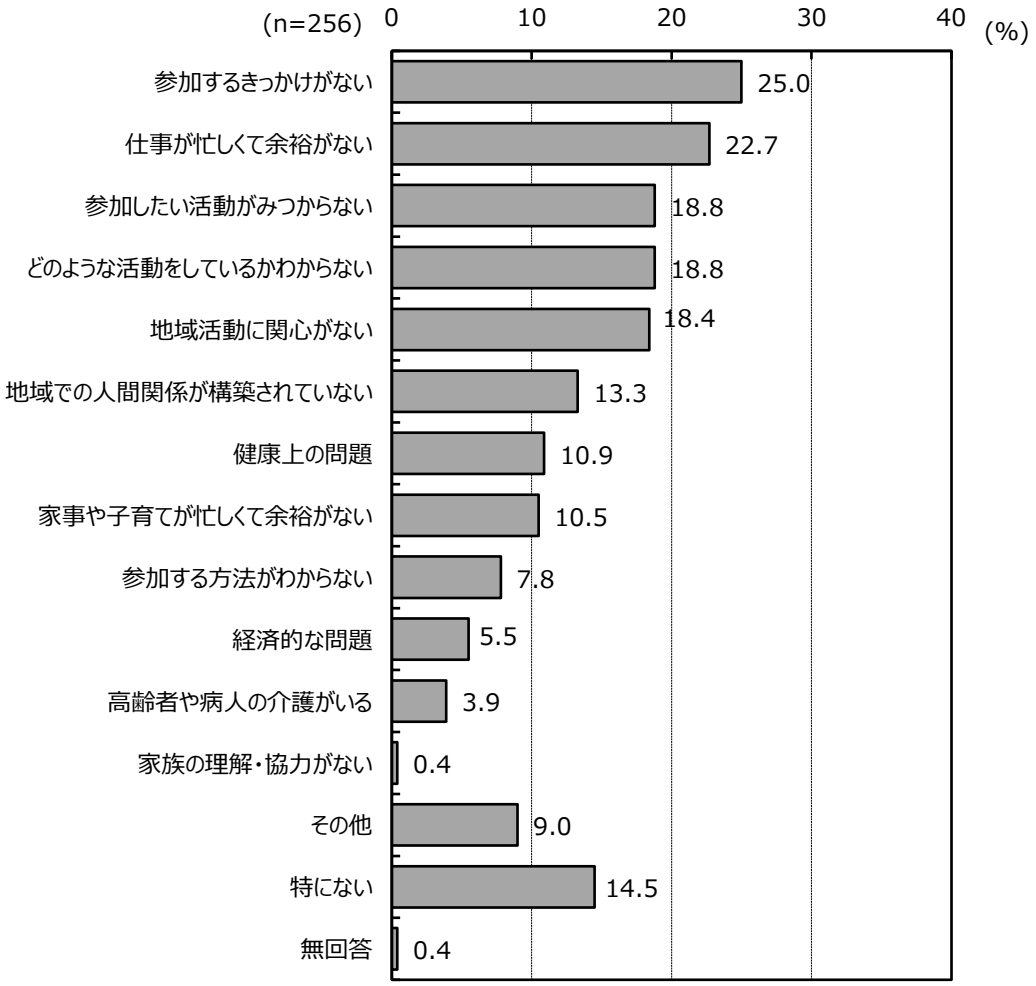
男女とも「参加していない」が最も高くなっていますが、女性の方が割合が高くなっています（女性：46.1%、男性：39.2%）。

それ以外については、男女とも「町内会活動」が最も高くなっていますが、男女差が大きく、男性が女性を18.0 ポイント上回っています（女性：27.9%、男性：45.9%）。



【問 29 で「参加していない」と回答された方のみ】
問 30　何もしていない理由は何ですか。（複数回答）

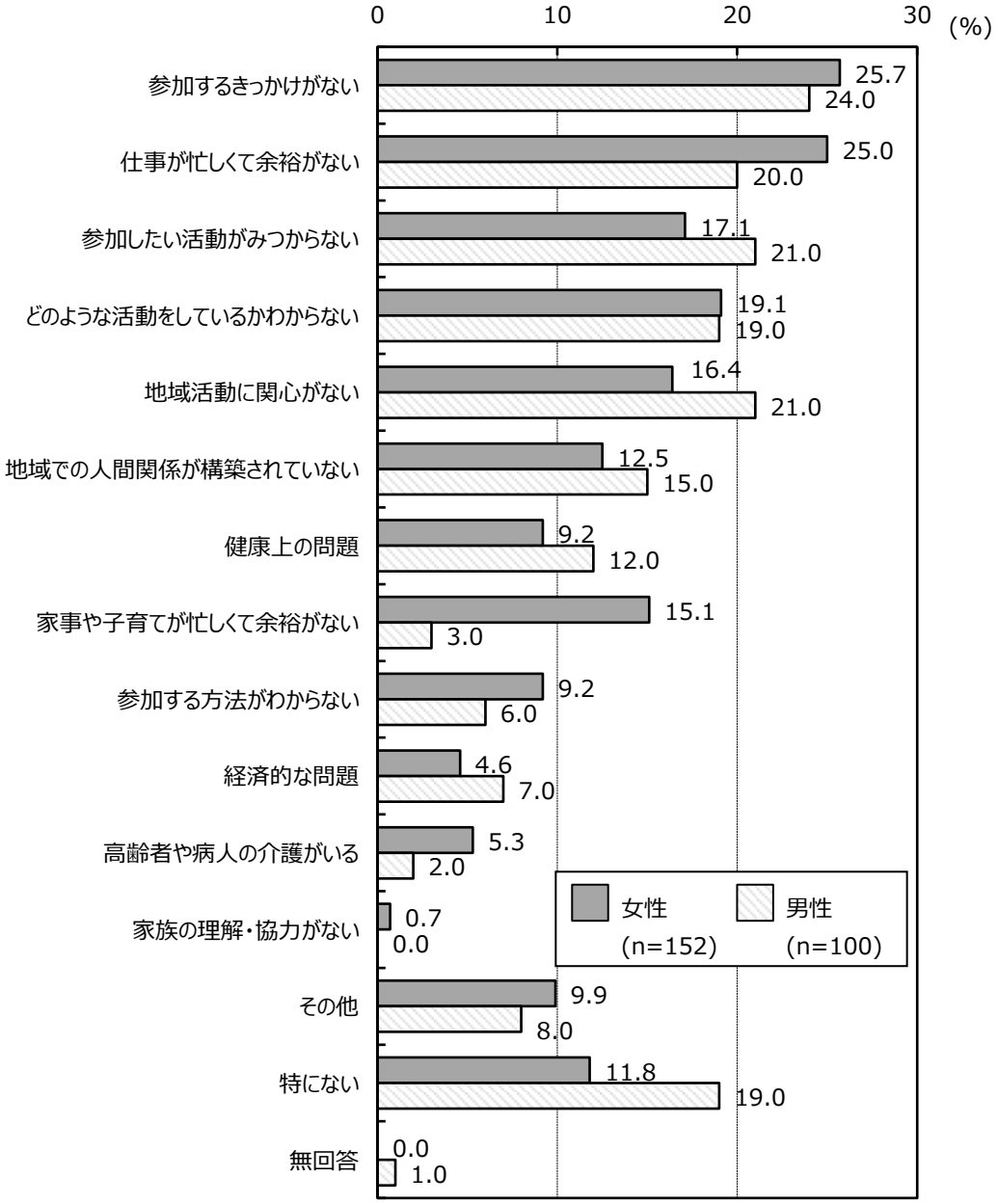
「参加するきっかけがない」が 25.0%と、最も高くなっています。次いで、「仕事が忙しくて余裕がない」が 22.7%、「参加したい活動がみつからない」、「どのような活動をしているかわからない」がそれぞれ 18.8%、「地域活動に関心がない」が 18.4%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

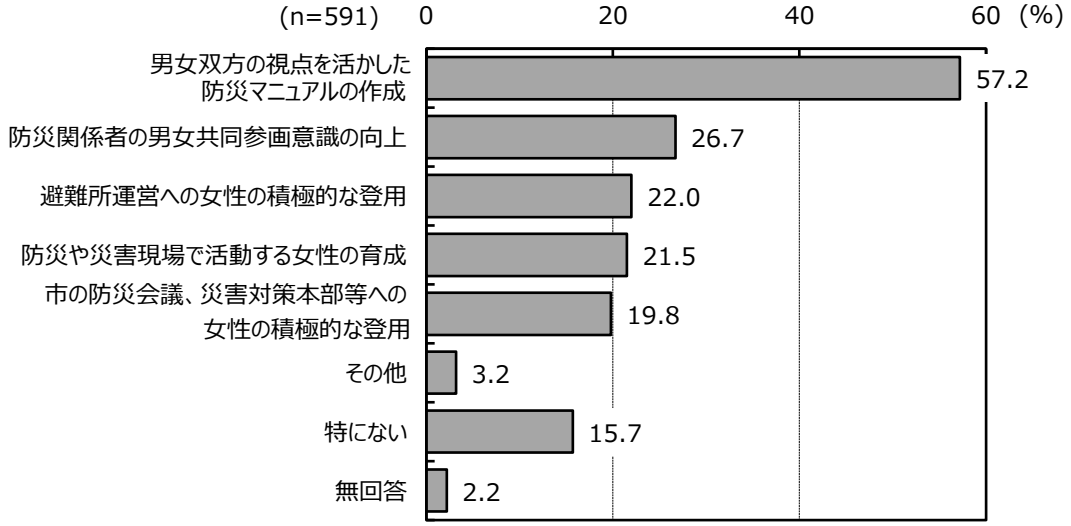
男女とも「参加するきっかけがない」が最も高く、そのほかは「仕事が忙しくて余裕がない」、「参加したい活動がみつからない」、「どのような活動をしているかわからない」、「地域活動に関心がない」が上位となっています。

また、「家事や子育てが忙しくて余裕がない」の割合については割合は低いものの男女差が大きく、女性が男性を 12.1 ポイント上回っています。



問 31　地域において男女双方にとって安心・安全な防災体制を整えるためには、何が必要だと思いますか。（複数回答）

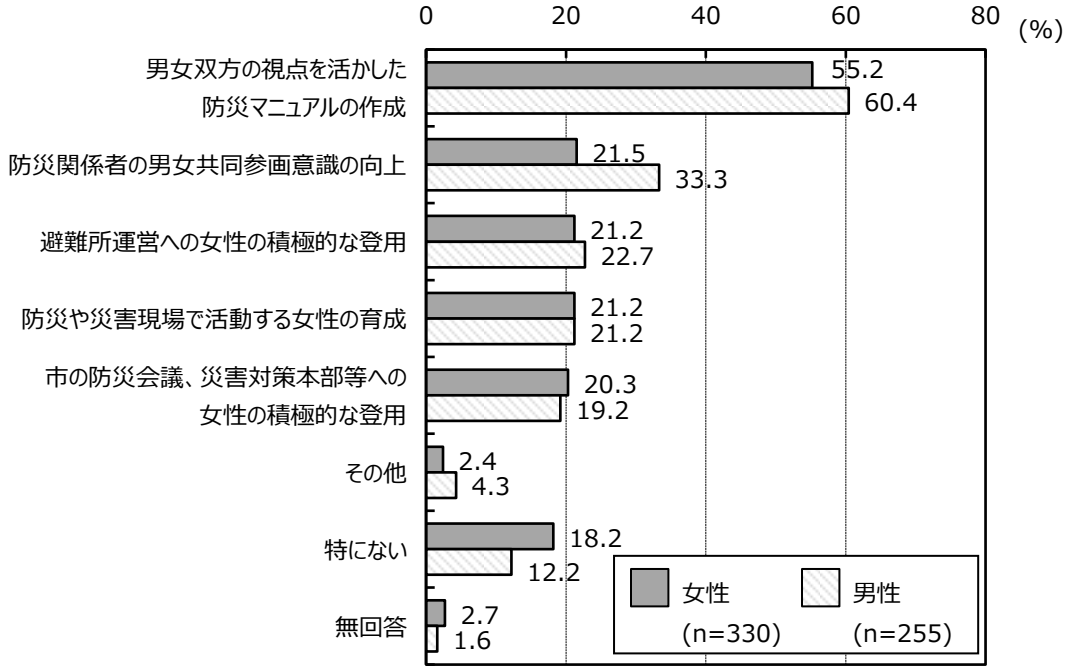
「男女双方の視点を活かした防災マニュアルの作成」が 57.2%と最も高く、次いで、「防災関係者の男女共同参画意識の向上」が 26.7%、「避難所運営への女性の積極的な登用」が 22.0%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

男女とも「男女双方の視点を活かした防災マニュアルの作成」が最も高く、他の項目の割合を大きく上回っています。

また、「防災関係者の男女共同参画意識の向上」の割合については男女差が大きく、男性が女性を 11.8 ポイント上回っています。

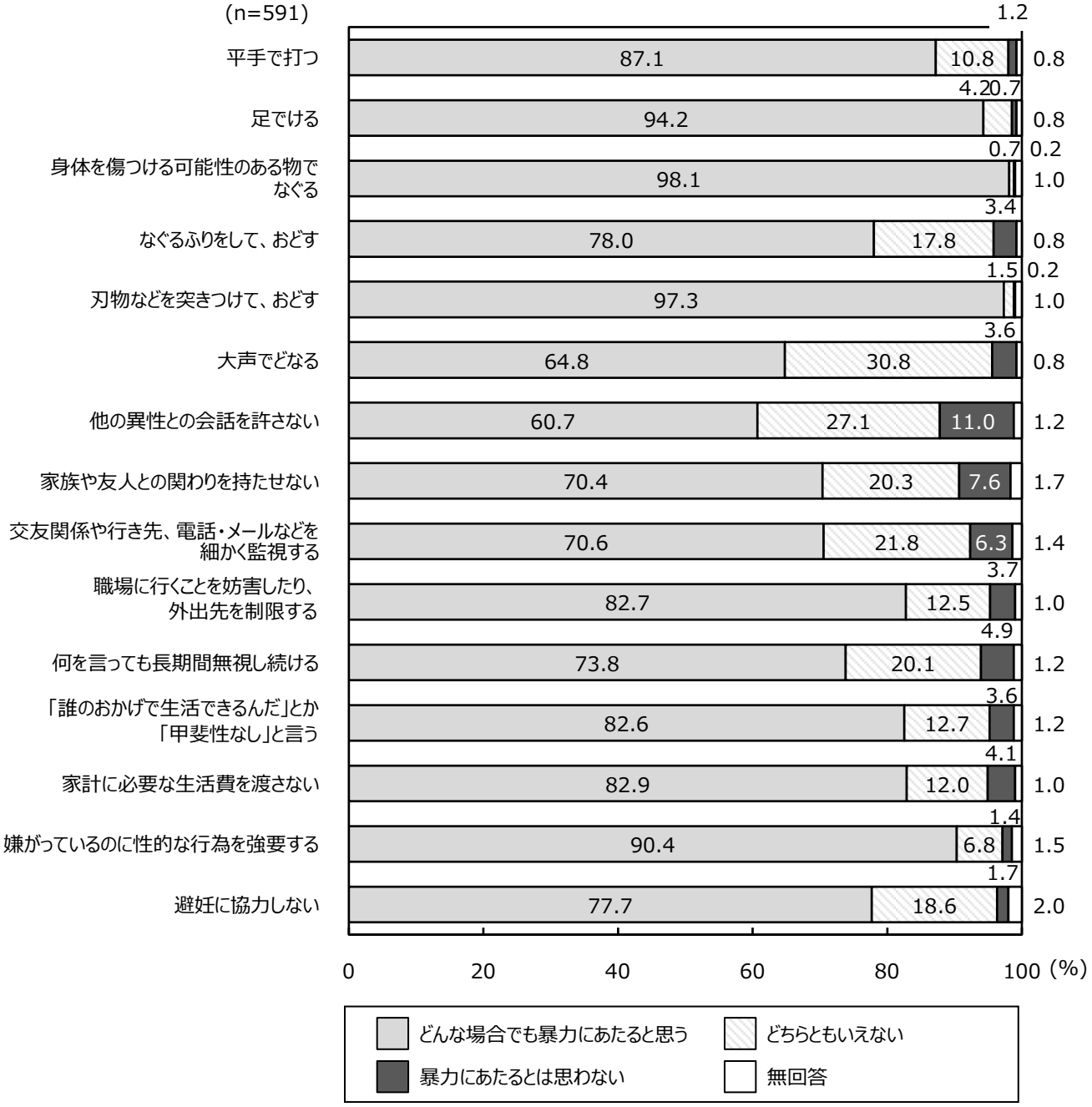


7. 人権や多様性について

問 32　次のようなことが夫婦またはパートナー、交際相手の間で行われた場合、あなたはそれを暴力だと思いますか。（項目ごとに単数回答）

いずれの項目も「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、《足でける》、《身体を傷つける可能性のある物でなぐる》、《刃物などを突きつけて、おどす》、《嫌がっているのに性的な行為を強要する》での割合が特に高く、90%以上となっています。

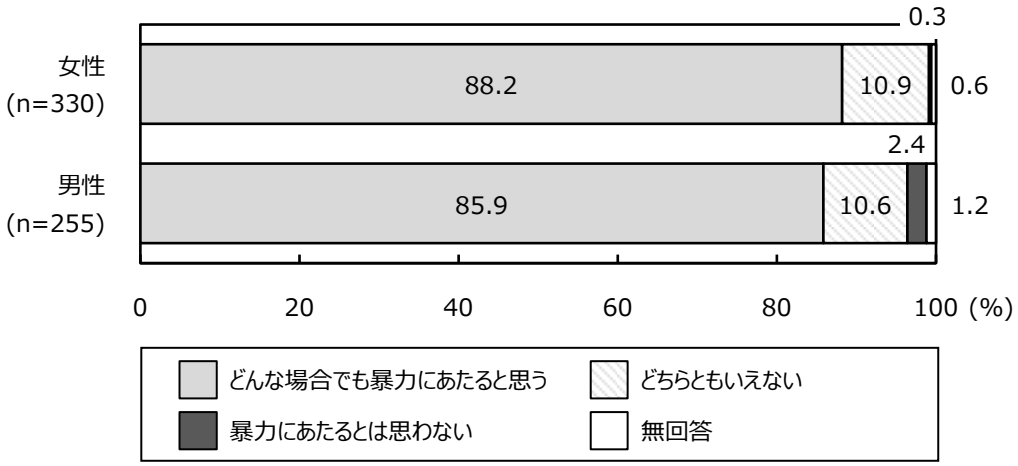
一方、《大声でどなる》、《他の異性との会話を許さない》での割合は低い傾向にあり、60%台となっています。



【クロス集計分析（性別）】

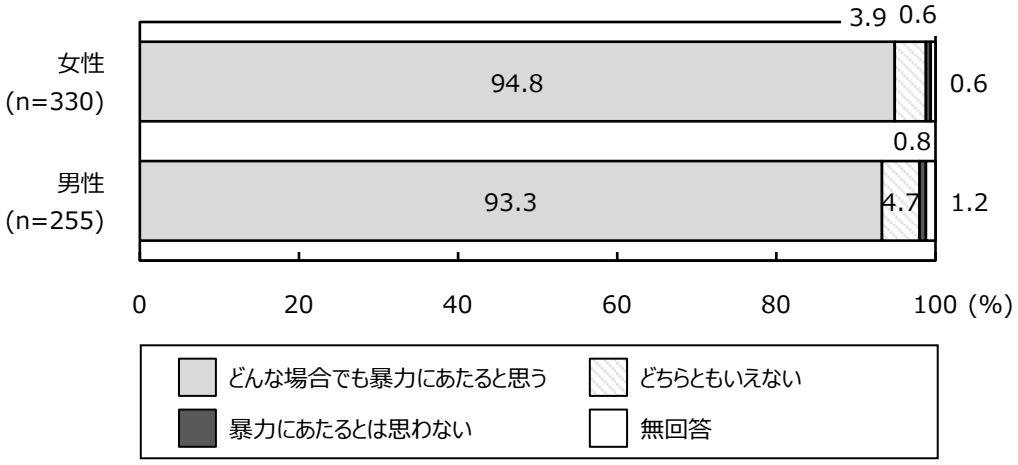
■ 平手で打つ

男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、女性が 88.2%、男性が 85.9%と、女性の方が割合が高くなっています（2.3 ポイント差）。



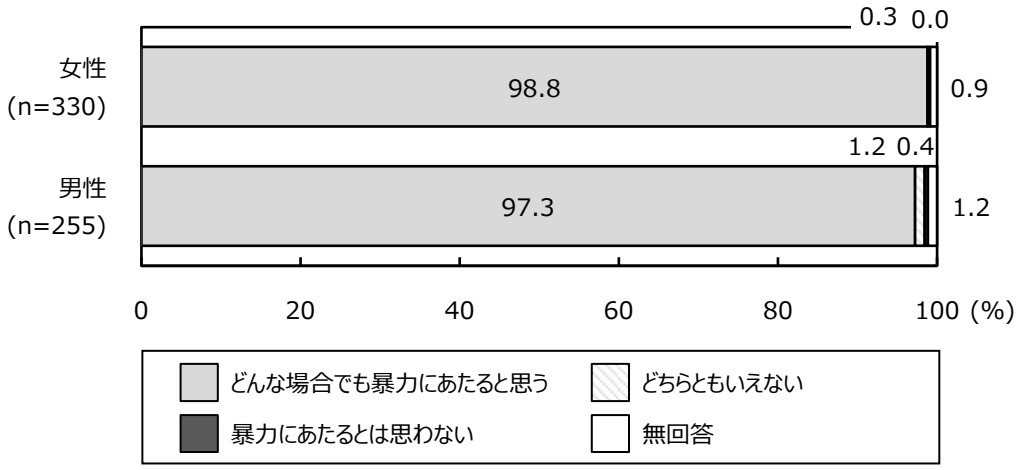
■ 足でける

男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、女性が 94.8%、男性が 93.3%と、女性の方が割合が高くなっています（1.5 ポイント差）。



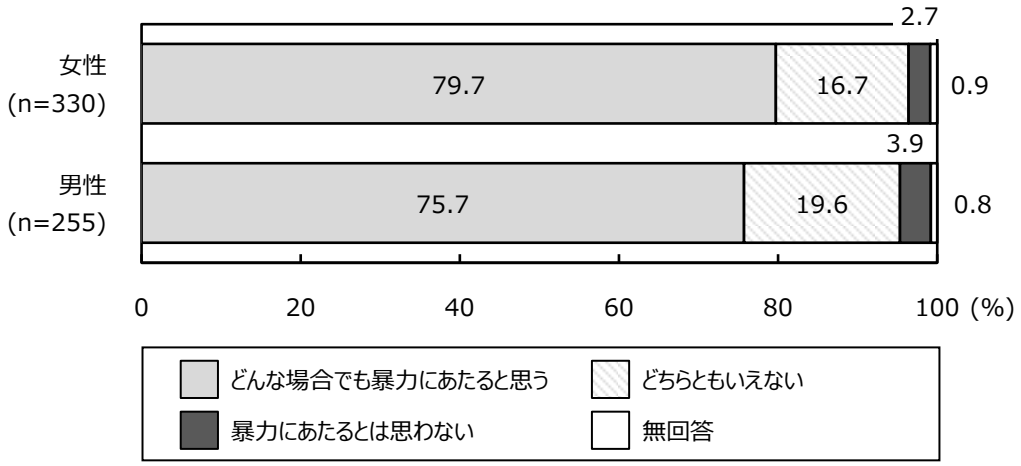
■ 身体を傷つける可能性のある物でなぐる

男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、女性が 98.8%、男性が 97.3%と、女性の方が割合が高くなっています（1.5 ポイント差）。



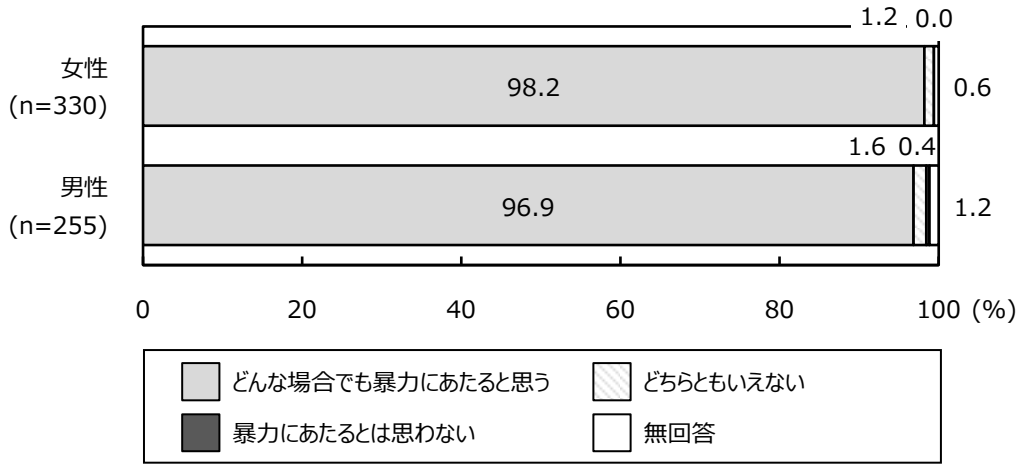
■ なぐるふりをして、おどす

男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、女性が 79.7%、男性が 75.7%と、女性の方が割合が高くなっています（4.0 ポイント差）。



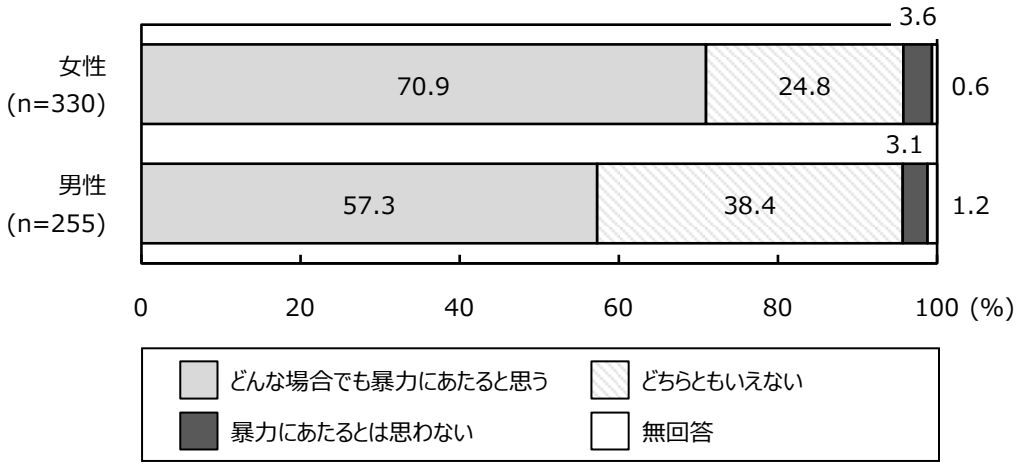
■ 刃物などを突きつけて、おどす

男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、女性が 98.2%、男性が 96.9%と、女性の方が割合が高くなっています（1.3 ポイント差）。



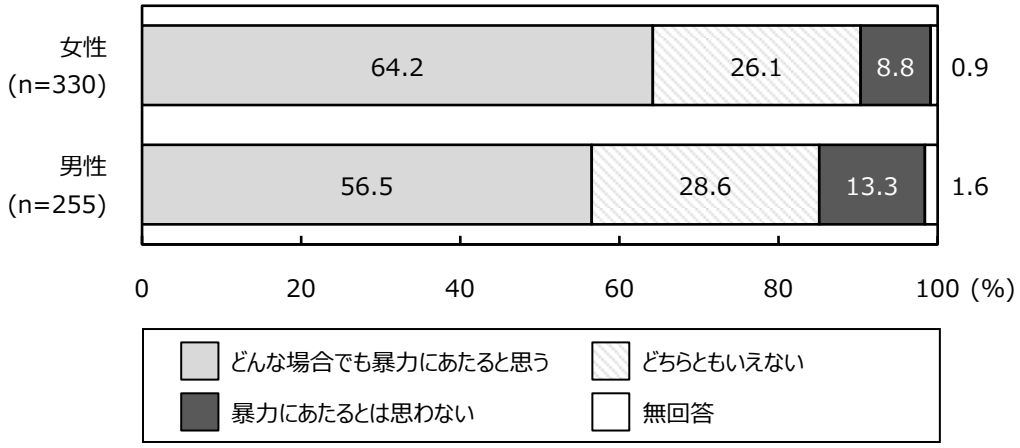
■ 大声でどなる

男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、女性が 70.9%、男性が 57.3%と、女性の方が割合が高く、男女差も大きくなっています（13.6 ポイント差）。



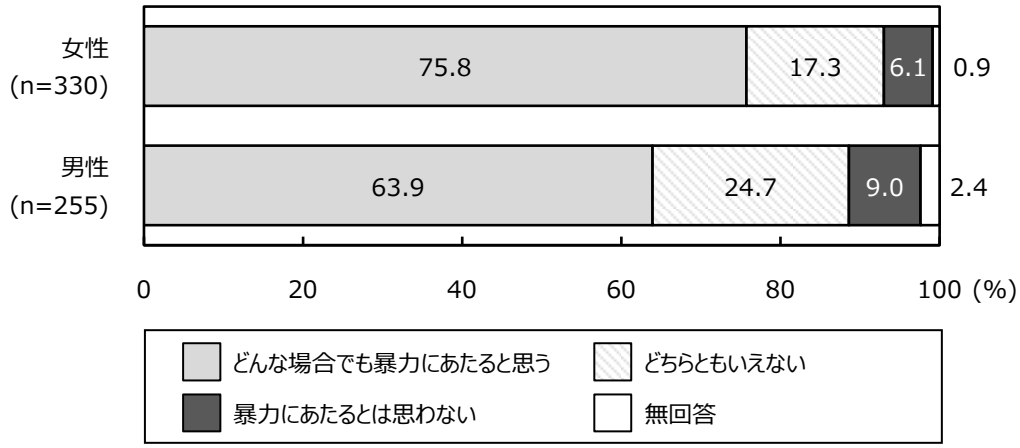
■ 他の異性との会話を許さない

男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、女性が 64.2%、男性が 56.5%と、女性の方が割合が高く、男女差も大きくなっています（7.7 ポイント差）。



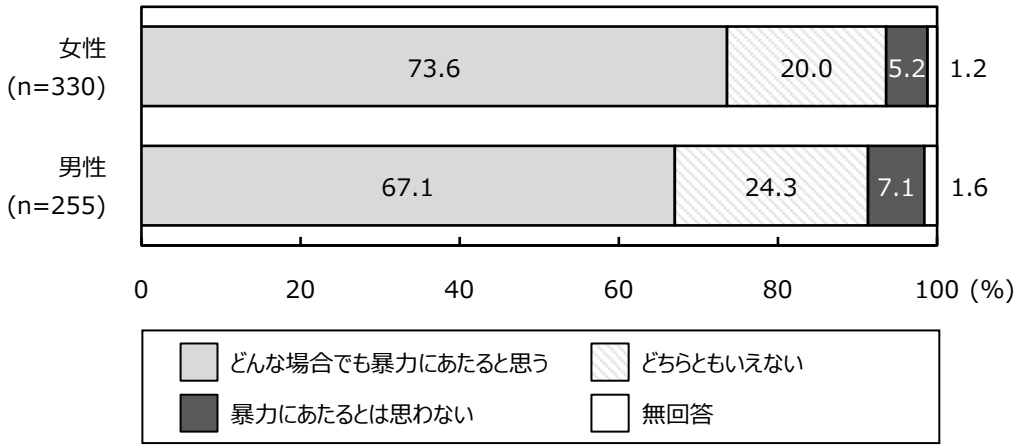
■ 家族や友人との関わりを持たせない

男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、女性が 75.8%、男性が 63.9%と、女性の方が割合が高く、男女差も大きくなっています（11.9 ポイント差）。



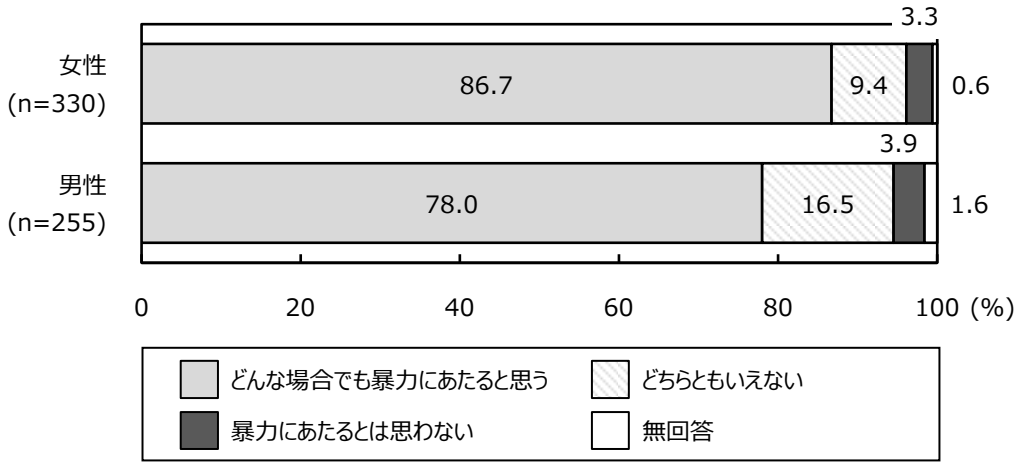
■ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、女性が 73.6%、男性が 67.1%と、女性の方が割合が高くなっています（6.5 ポイント差）。



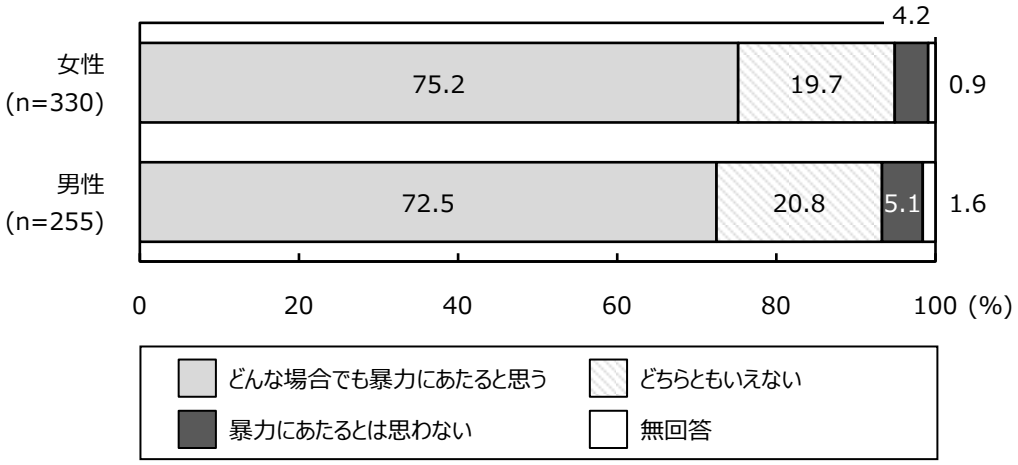
■ 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する

男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、女性が 86.7%、男性が 78.0%と、女性の方が割合が高く、男女差も大きくなっています（8.7 ポイント差）。



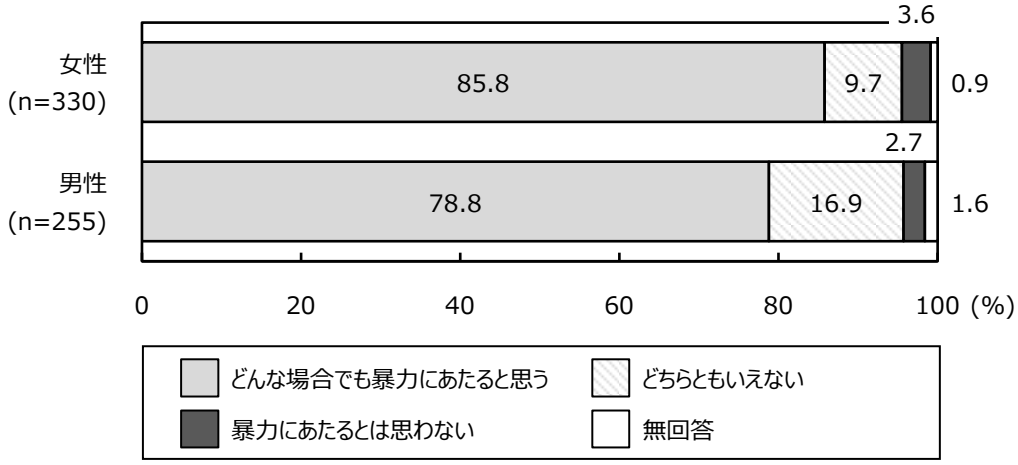
■ 何を言っても長期間無視し続ける

男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、女性が 75.2%、男性が 72.5%と、女性の方が割合が高くなっています（2.7 ポイント差）。



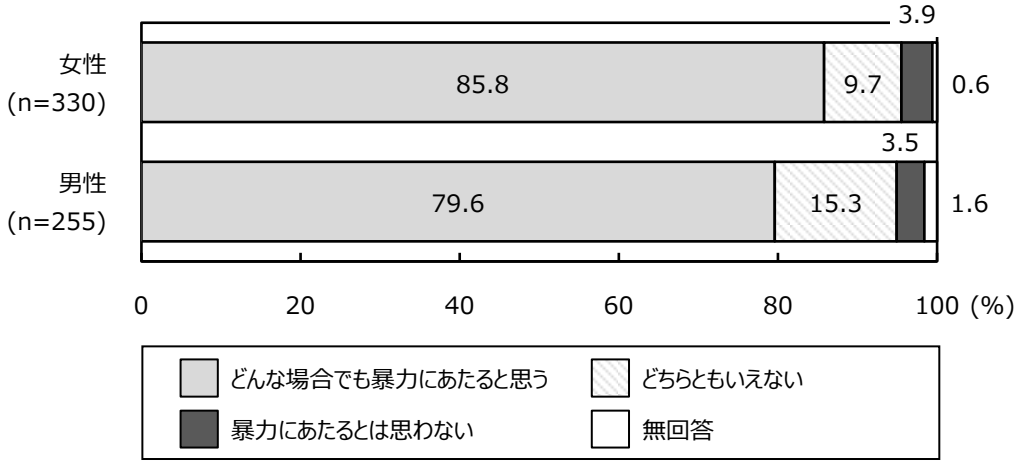
■ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言う

男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、女性が 85.8%、男性が 78.8%と、女性の方が割合が高くなっています（7.0 ポイント差）。



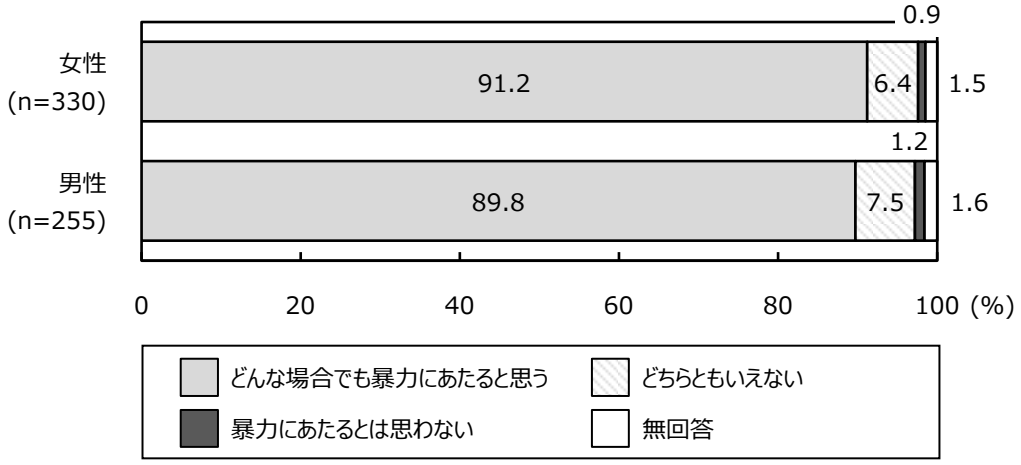
■ 家計に必要な生活費を渡さない

男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、女性が 85.8%、男性が 79.6%と、女性の方が割合が高くなっています（6.2 ポイント差）。



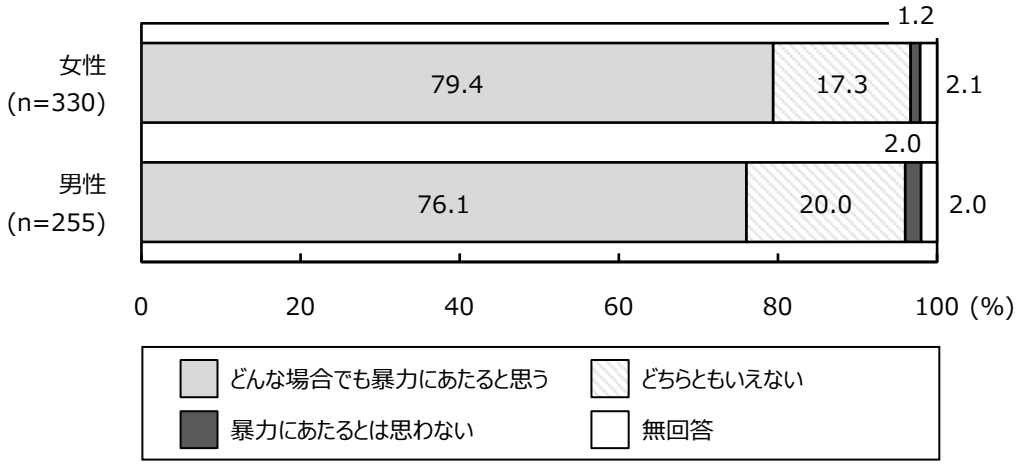
■ 嫌がっているのに性的な行為を強要する

男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、女性が 91.2%、男性が 89.8%と、女性の方が割合が高くなっています（1.4 ポイント差）。



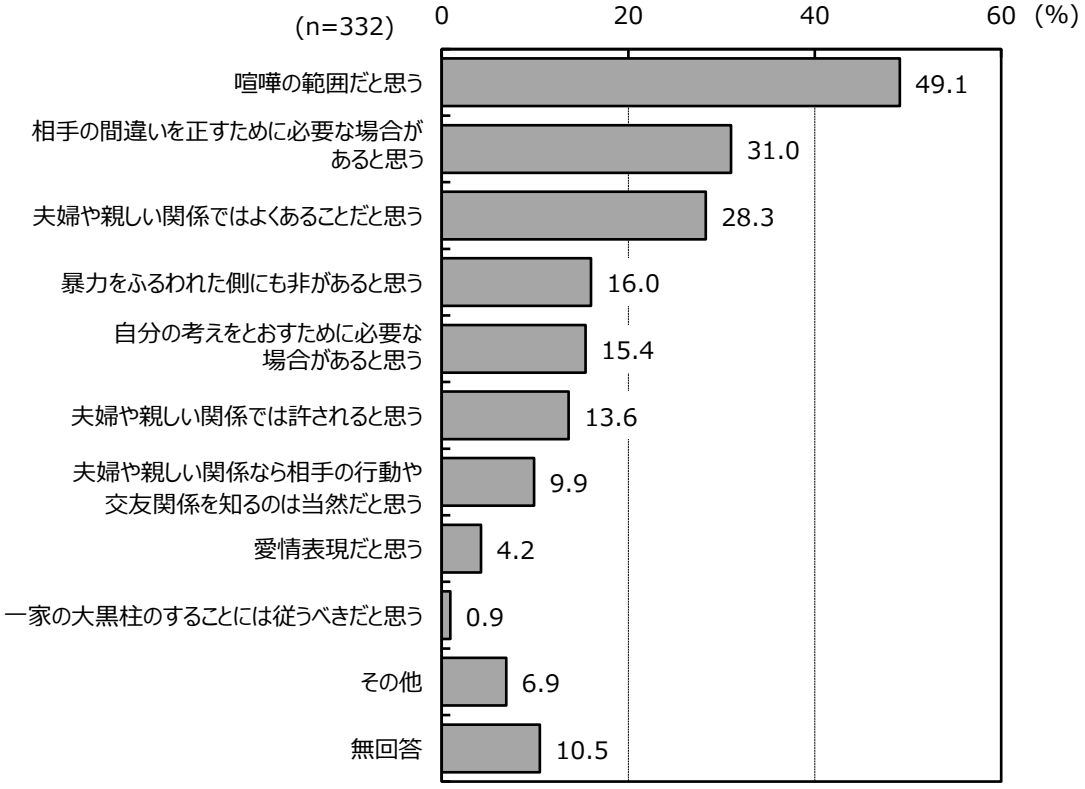
■ 避妊に協力しない

男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、女性が 79.4%、男性が 76.1%と、女性の方が割合が高くなっています（3.3 ポイント差）。



【問 32 のいずれかにおいて「どちらともいえない」、「暴力にあたるとは思わない」と回答された方のみ】
問 33 「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」、「暴力にあたるとは思わない」と思ったのはなぜですか。（複数回答）

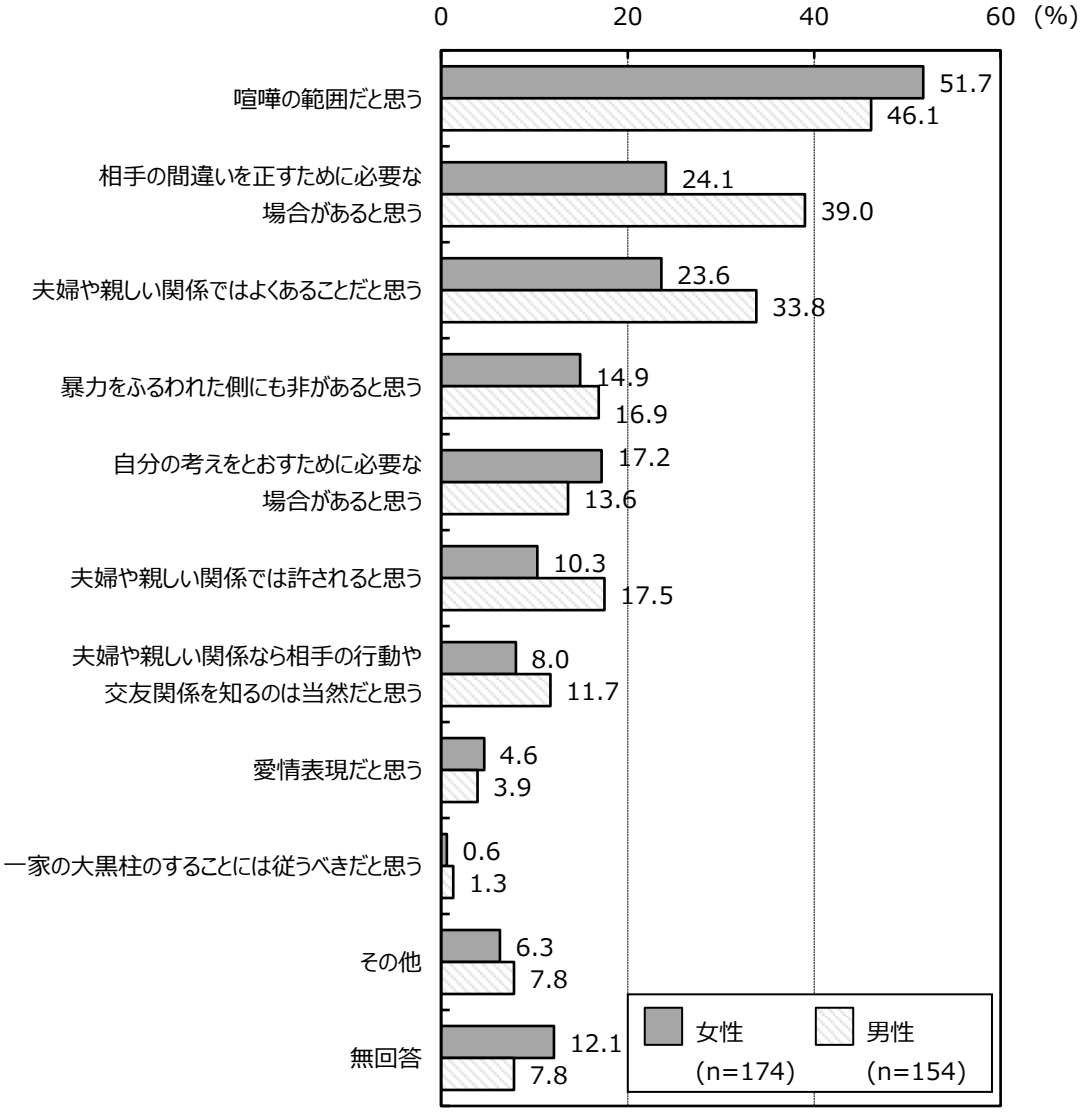
「喧嘩の範囲だと思う」が 49.1%と最も高く、次いで、「相手の間違いを正すために必要な場合があると思う」が 31.0%、「夫婦や親しい関係ではよくあることだと思う」が 28.3%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

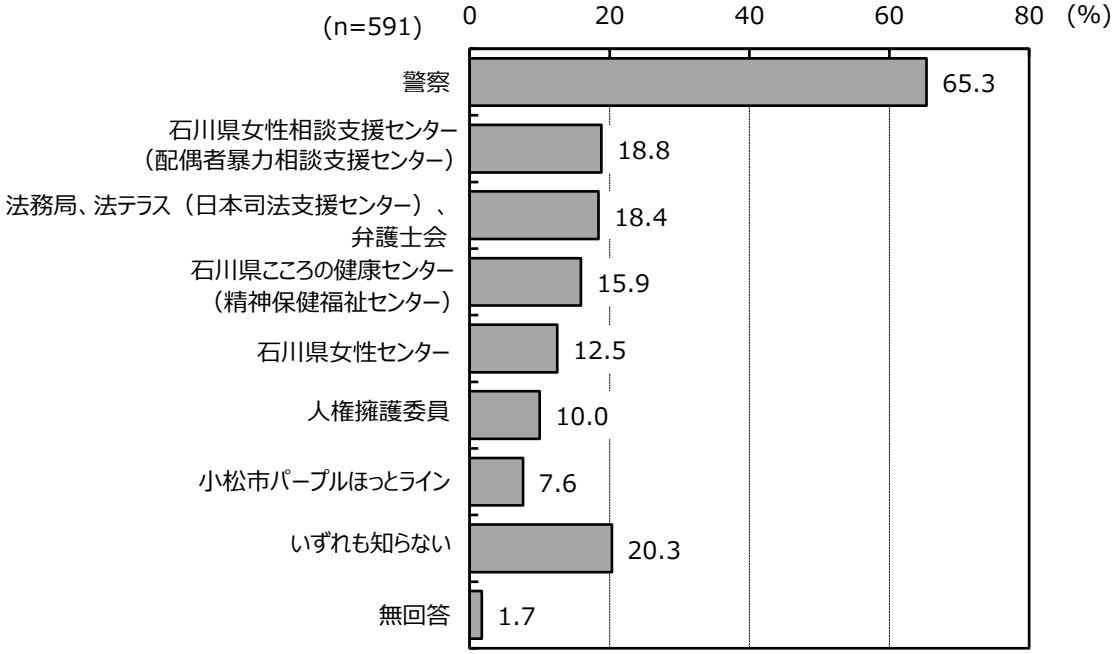
男女とも「喧嘩の範囲だと思う」、「相手の間違いを正すために必要な場合があると思う」、「夫婦や親しい関係ではよくあることだと思う」の順で割合が高くなっています。

「相手の間違いを正すために必要な場合があると思う」、「夫婦や親しい関係ではよくあることだと思う」の割合については男性の方が高く、男女差も大きくなっています（順に 14.9 ポイント差、10.2 ポイント差）。



問 34　問 32 のような、配偶者やパートナー、交際相手からの暴力について相談できる窓口として、あなたが知っているものをお答えください。（複数回答）

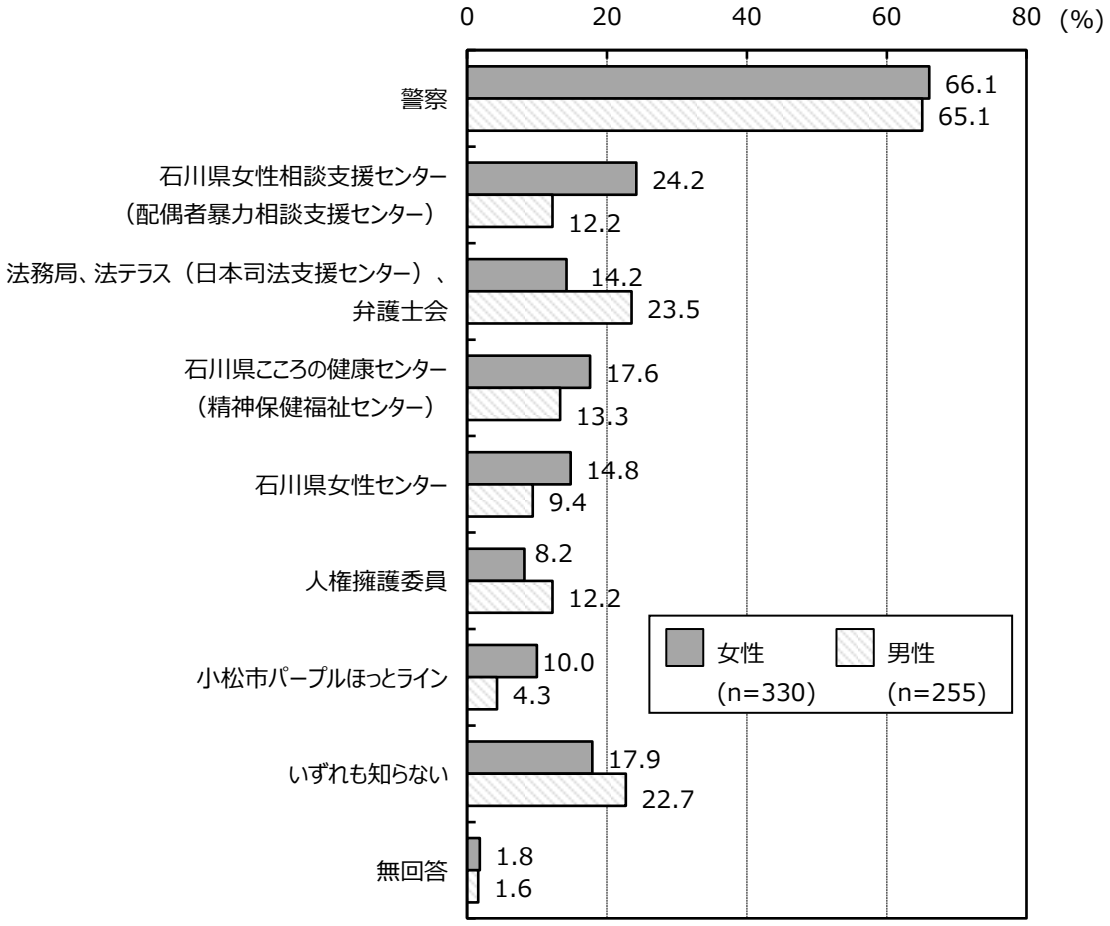
「警察」が 65.3%と最も高く、次いで、「いずれも知らない」が 20.3%、「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」が 18.8%、「法務局、法テラス（日本司法支援センター）、弁護士会」が 18.4%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

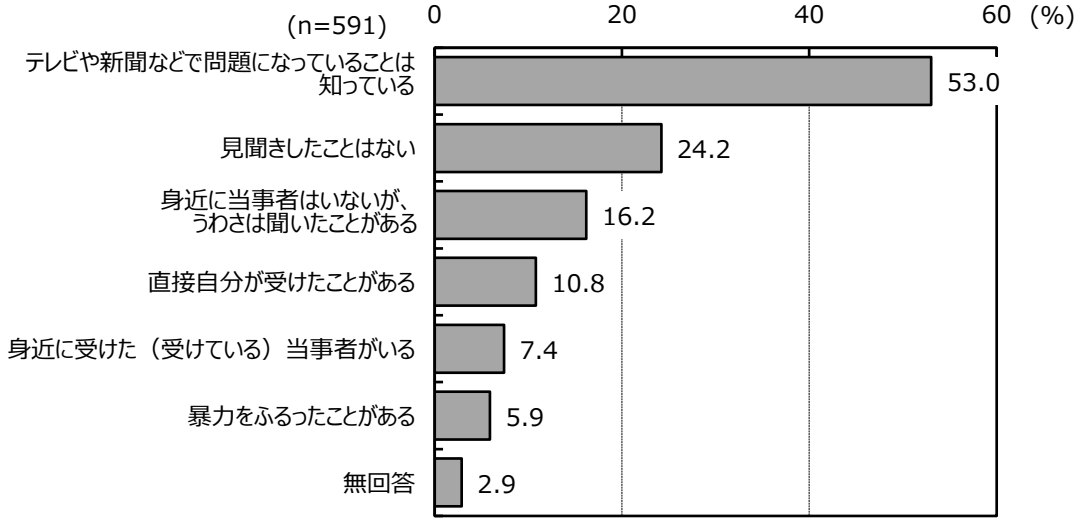
男女とも「警察」が最も高く、他の項目の割合を大きく上回っています。

また、「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」、「法務局、法テラス（日本司法支援センター）、弁護士会」については男女差が大きく、「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」は女性が男性を 12.0 ポイント、「法務局、法テラス（日本司法支援センター）、弁護士会」は男性が女性を 9.3 ポイント上回っています。



問 35　あなたは、配偶者やパートナー、交際相手間での暴力の被害者・加害者になった経験はありますか。また、見聞きしたことがありますか。（複数回答）

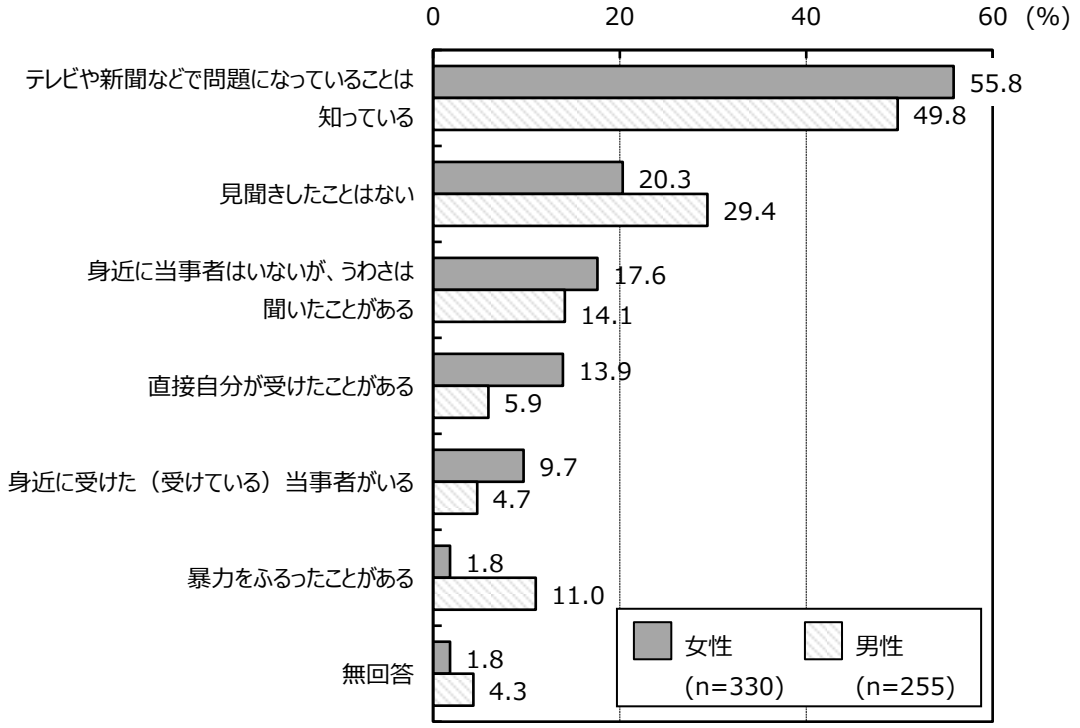
「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が 53.0%と最も高く、次いで、「見聞きしたことはない」が 24.2%、「身近に当事者はいないが、うわさは聞いたことがある」が 16.2%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

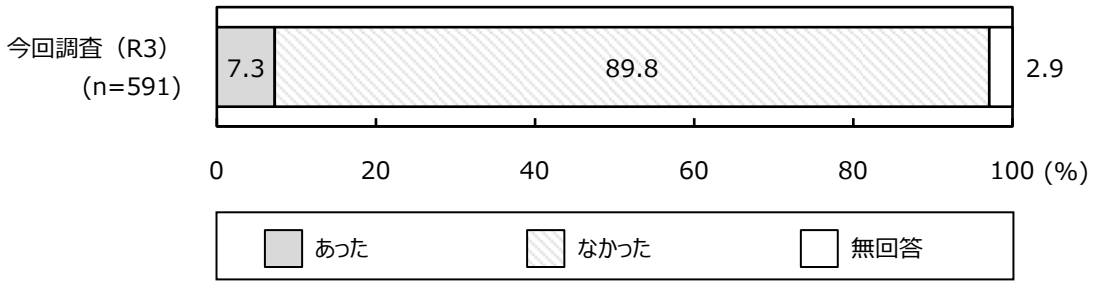
男女とも「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が最も高くなっています。

「直接自分が受けたことがある」の割合については女性の方が高く、男女差も大きくなっています（8.0 ポイント差）。



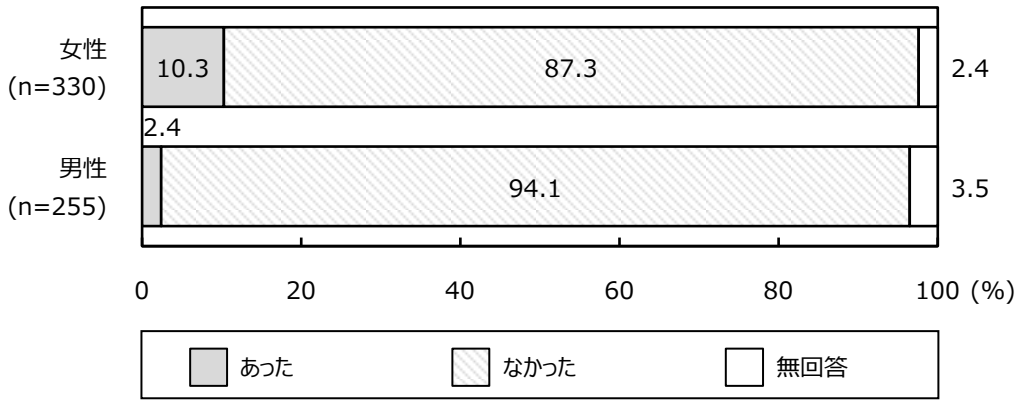
問 36　あなたは、望まない性行為を強要されたことがありますか。（単数回答）

「あった」が 7.3%、「なかった」が 89.8%となっています。



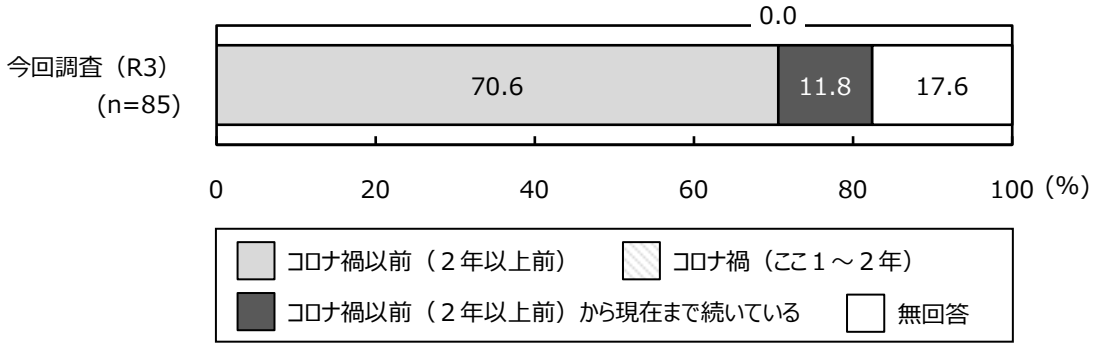
【クロス集計分析（性別）】

男女とも「なかった」が大半を占めています。
「あった」の割合については女性の方が高く、男女差も大きくなっています（7.9 ポイント差）。



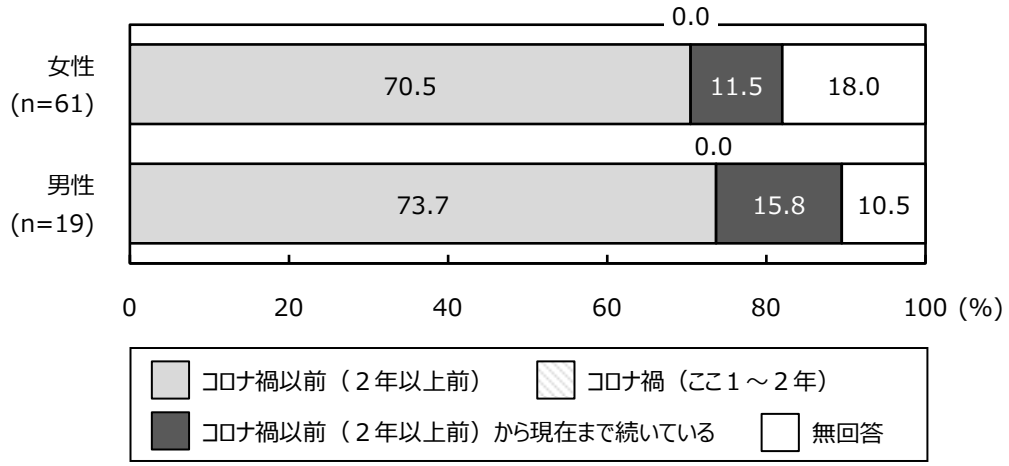
【問 35 で「直接自分が受けたことがある」もしくは問 36 で「あった」と回答された方のみ】
問 37　被害にあったのはいつですか。（単数回答）

「コロナ禍以前（２年以上前）」が 70.6%と最も高く、次いで、「コロナ禍以前（２年以上前）から現在まで続いている」が 11.8%となっています。



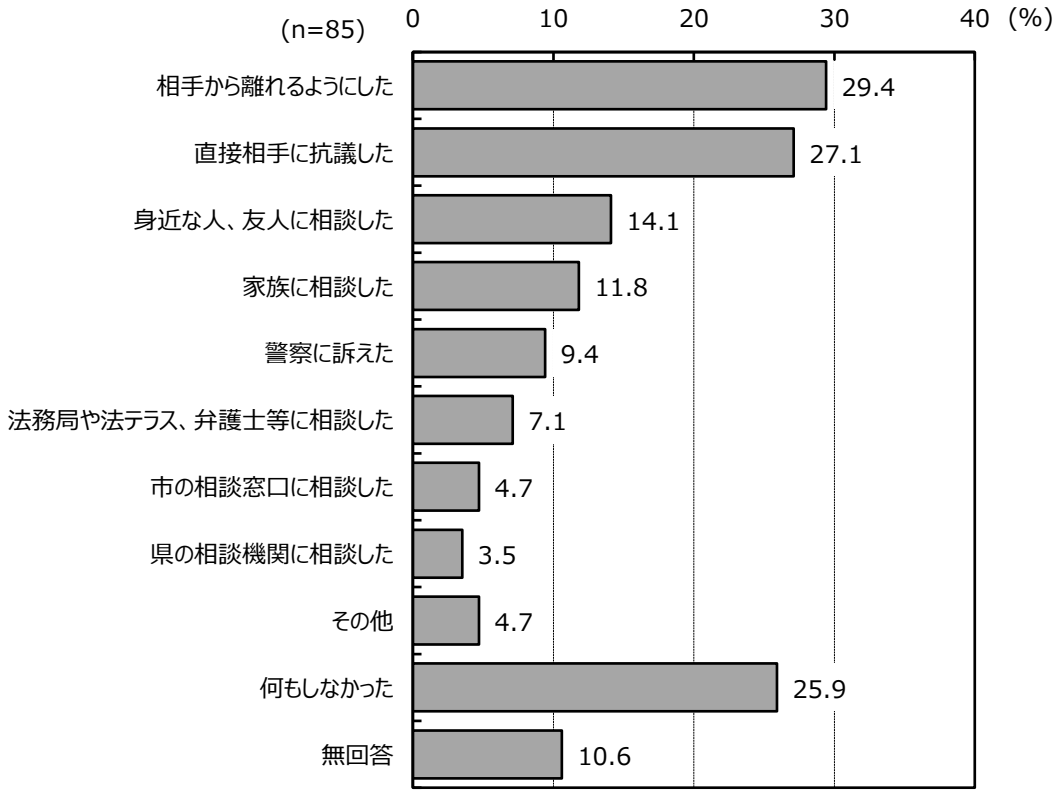
【クロス集計分析（性別）】

男女とも「コロナ禍以前（２年以上前）」が最も高く、70%以上となっています。



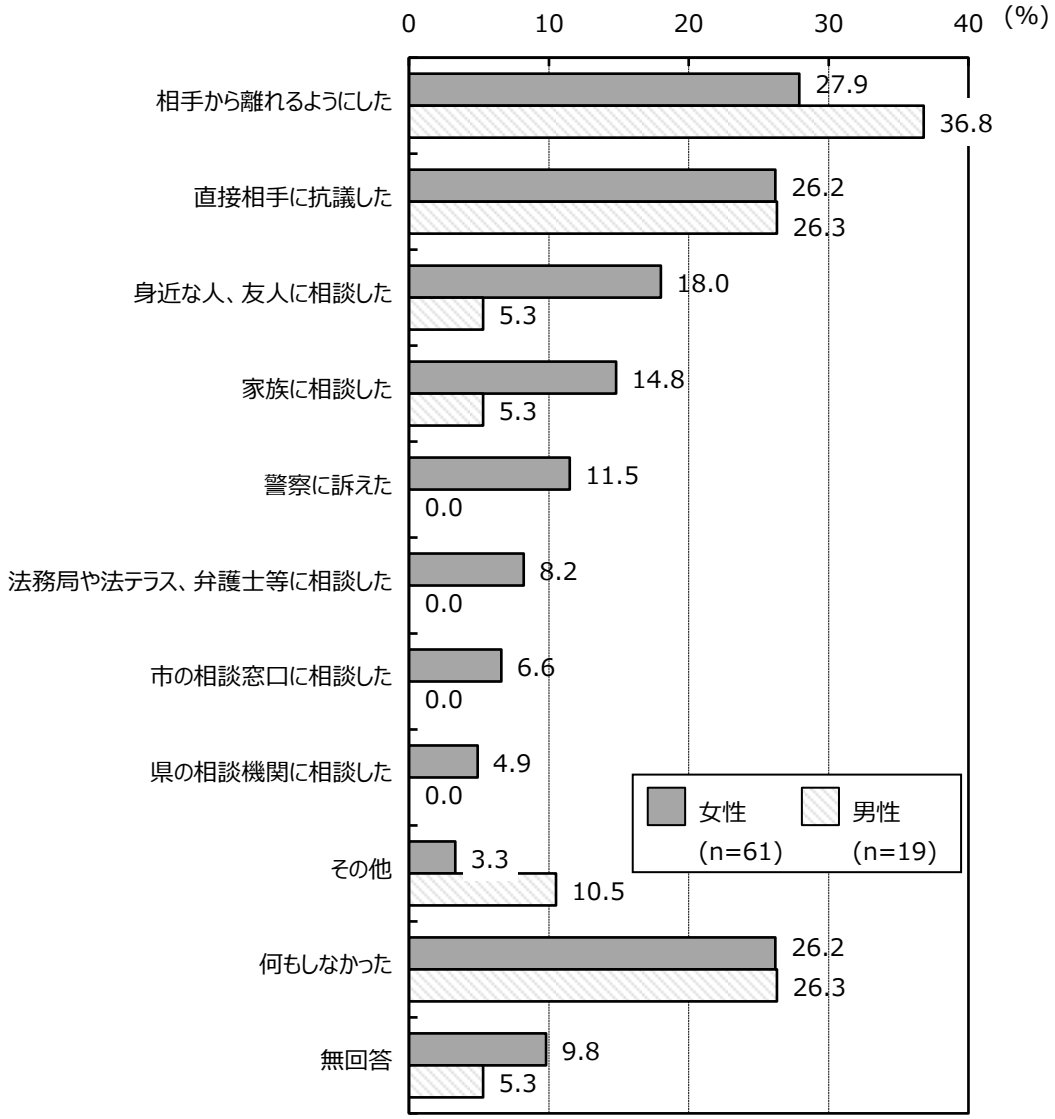
【問 35 で「直接自分が受けたことがある」もしくは問 36 で「あった」と回答された方のみ】
問 38　そのとき、どのように対処しましたか。（複数回答）

「相手から離れるようにした」が 29.4%と最も高く、次いで、「直接相手に抗議した」が 27.1%、「身近な人、友人に相談した」が 14.1%となっています。



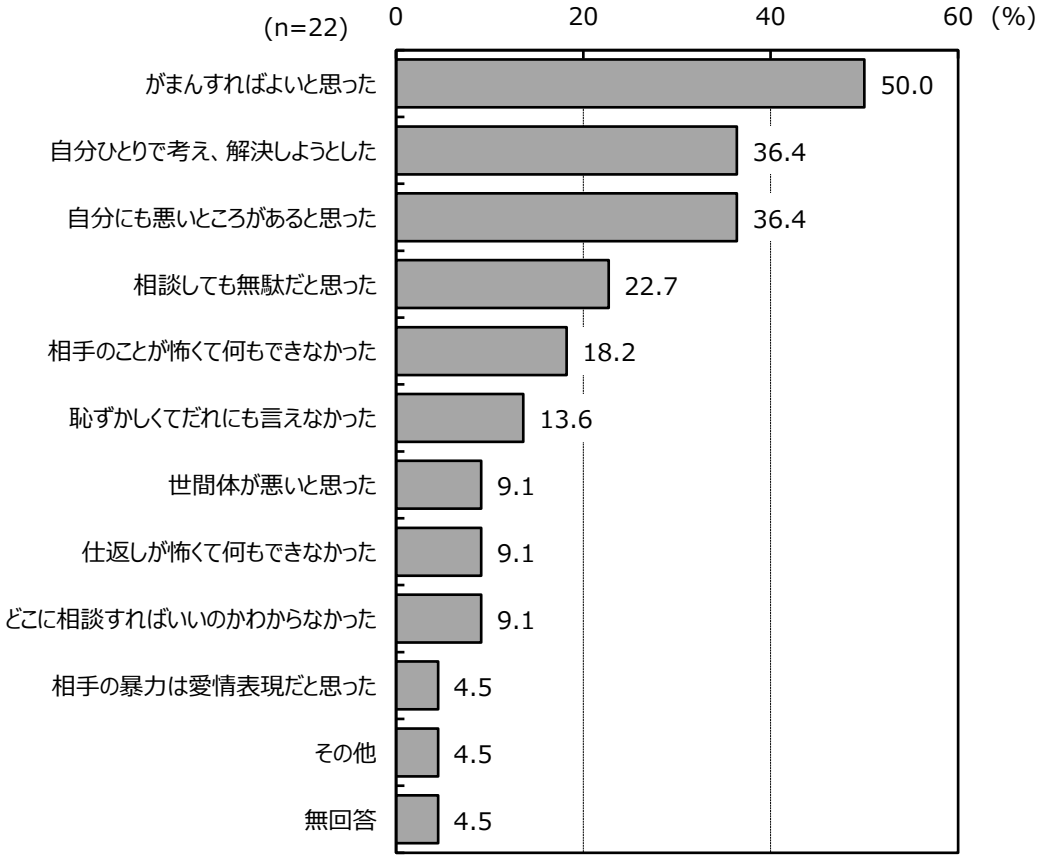
【クロス集計分析（性別）】

男女とも「相手から離れるようにした」が最も高くなっていますが、男女差が大きく、男性が女性を 8.9 ポイント上回っています。その後は、「直接相手に抗議した」、「何もしなかった」が同率で続いています。



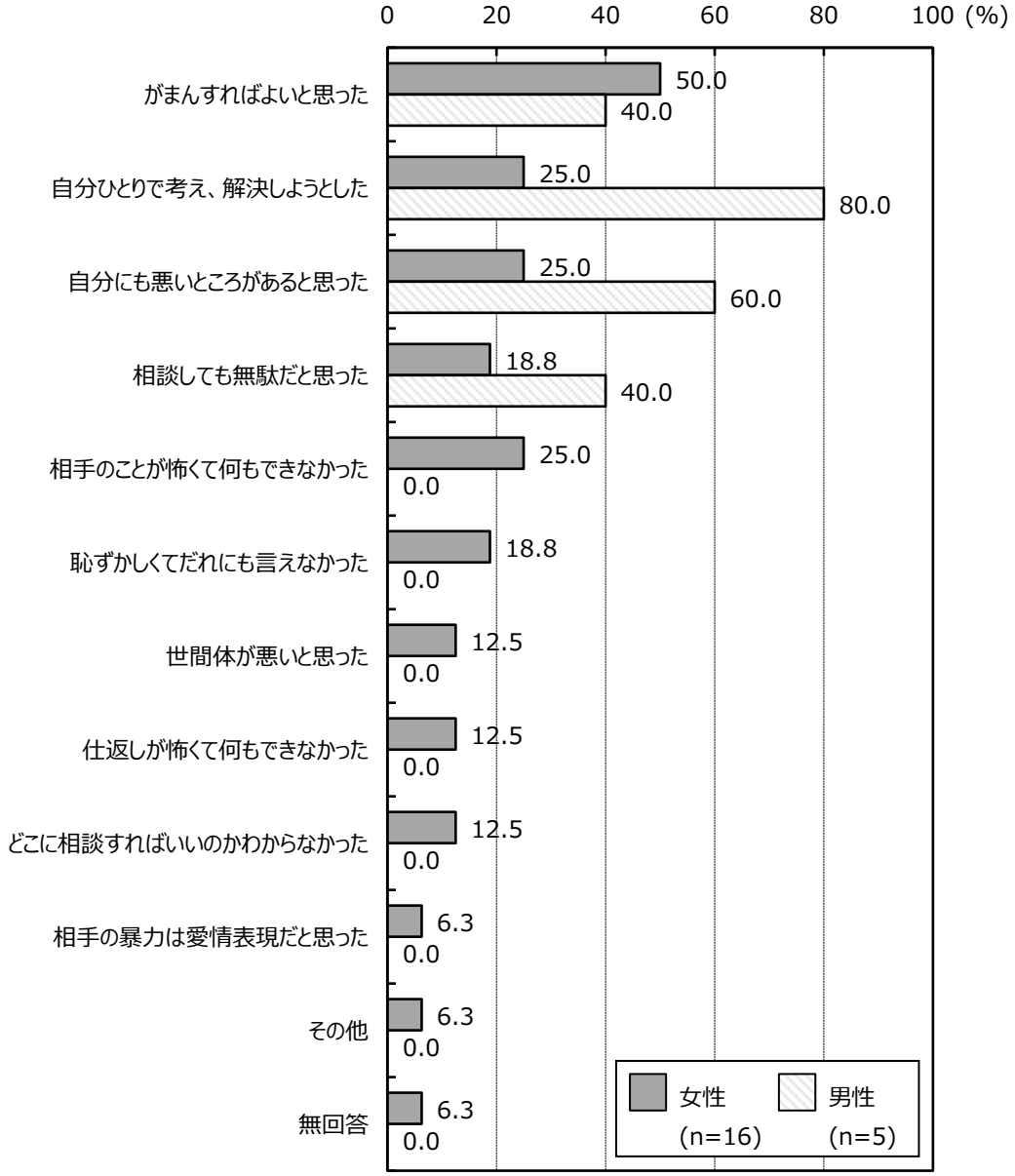
【問 38 で「何もしなかった」と回答された方のみ】
問 39　何もしなかった理由は何ですか。（複数回答）

「がまんすればよいと思った」が 50.0%と最も高く、次いで、「自分ひとりで考え、解決しようとした」、「自分にも悪いところがあると思った」がそれぞれ 36.4%、「相談しても無駄だと思った」が 22.7%となっています。



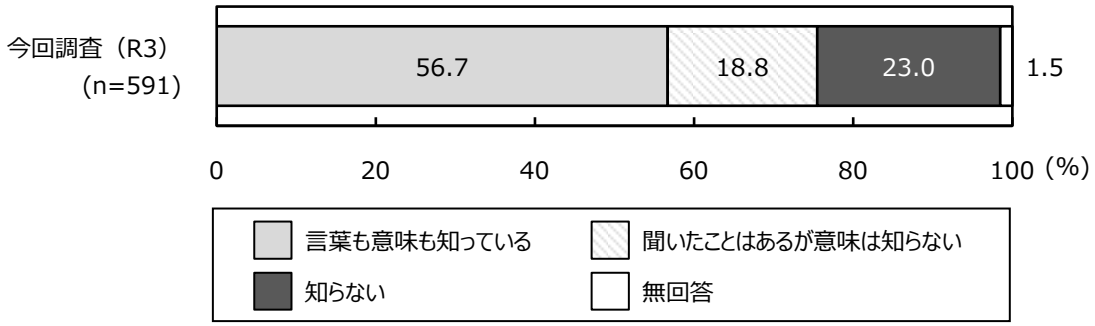
【クロス集計分析（性別）】

女性は「がまんすればよいと思った」、男性は「自分ひとりで考え、解決しようとした」と回答する人が最も多くなっています。



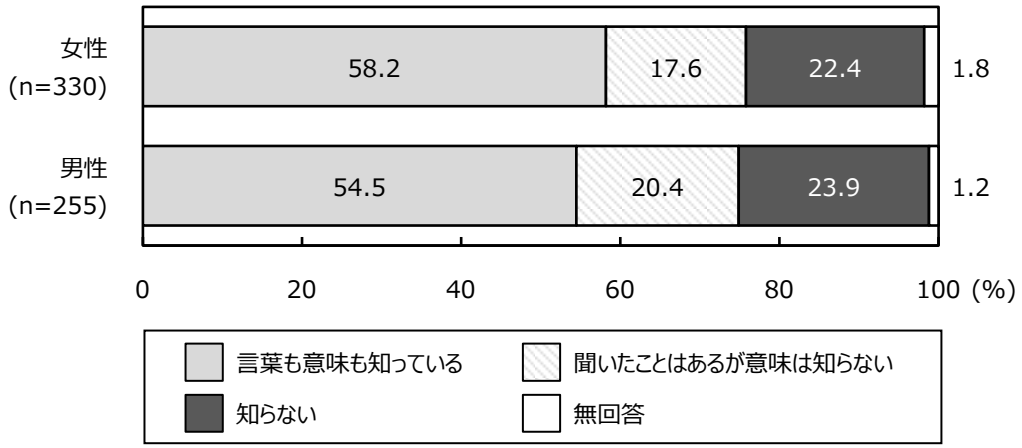
問 40　あなたは、LGBT（性的マイノリティ）という言葉や意味を知っていますか。（単数回答）

「言葉も意味も知っている」が 56.7%と最も高く、次いで、「知らない」が 23.0%、「聞いたことはあるが意味は知らない」が 18.8%となっています。



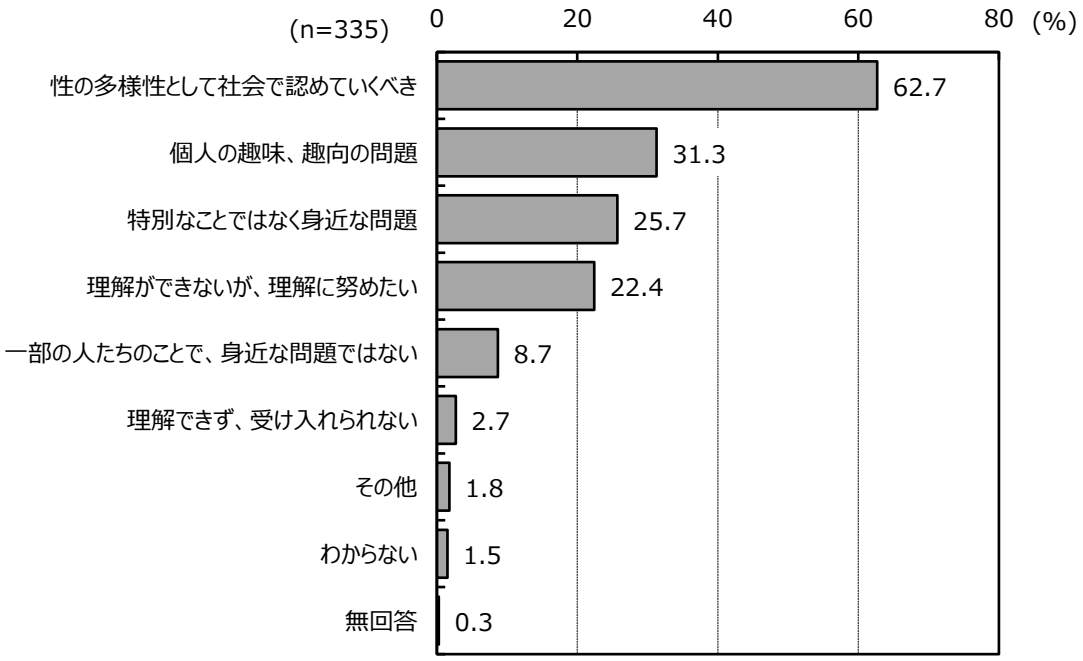
【クロス集計分析（性別）】

男女とも「言葉も意味も知っている」が最も高くなっています。



【問 40 で「言葉も意味も知っている」と回答した方のみ】
問 41　LGBT（性的マイノリティ）について、あなたはどのような考えやイメージを持っていますか。
（複数回答）

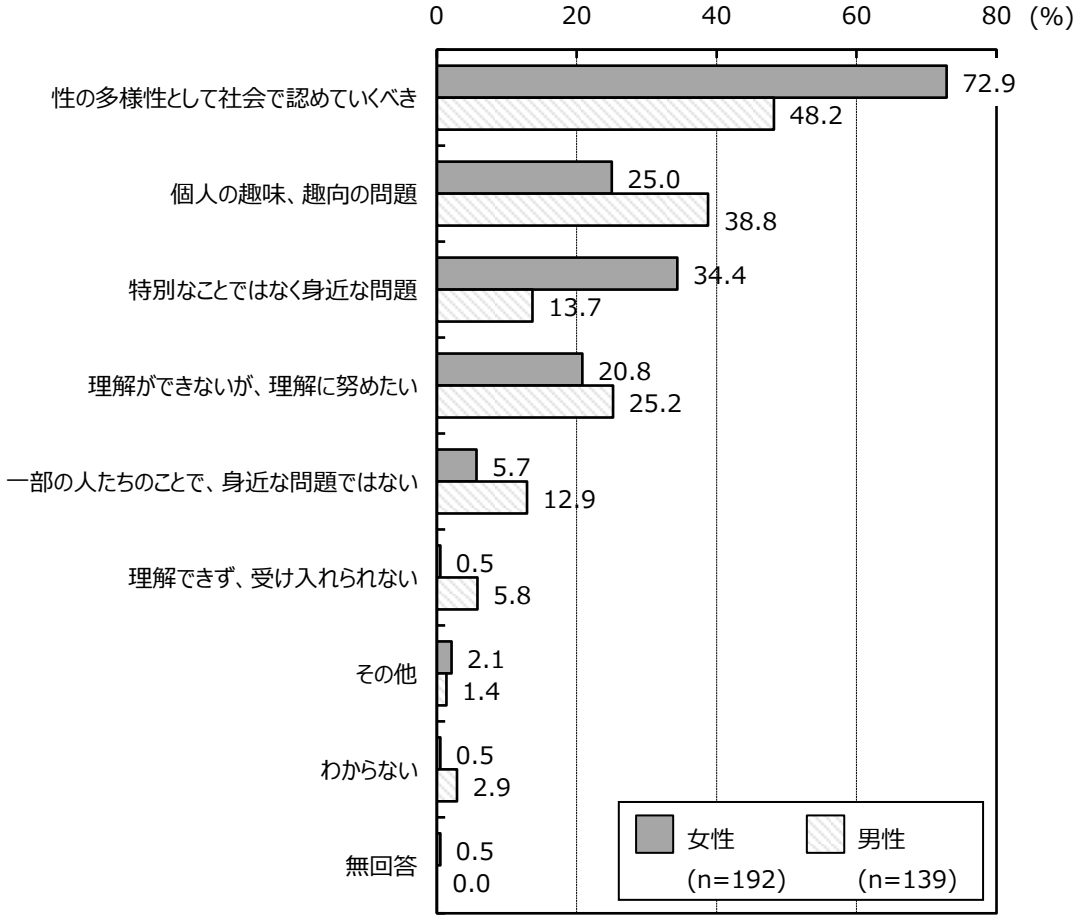
「性の多様性として社会で認めていくべき」が 62.7%と最も高く、次いで、「個人の趣味、趣向の問題」が 31.3%、「特別なことではなく身近な問題」が 25.7%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

男女とも「性の多様性として社会で認めていくべき」が最も高くなっていますが、２番目に割合が高いものについてみると、女性は「特別なことではなく身近な問題」、男性は「個人の趣味、趣向の問題」となっています。

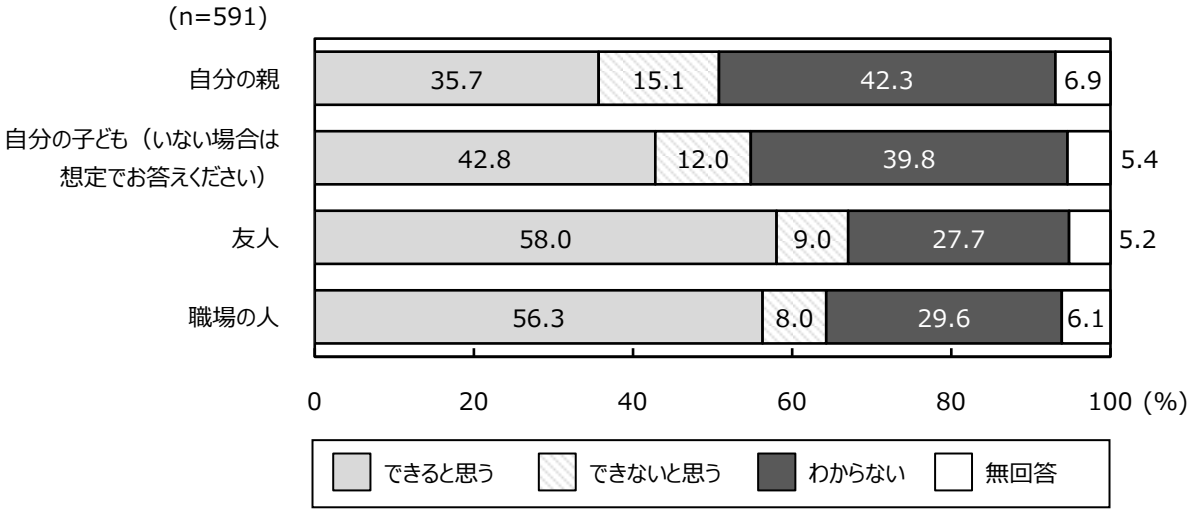
「性の多様性として社会で認めていくべき」、「特別なことではなく身近な問題」、「個人の趣味、趣向の問題」の割合については男女差が大きく、「性の多様性として社会で認めていくべき」、「特別なことではなく身近な問題」は女性の方が高くなっています（順に 24.7 ポイント差、20.7 ポイント差）。「個人の趣味、趣向の問題」については男性の方が高くなっています（13.8 ポイント差）。



問 42　あなたの身近な人（家族、友人、職場の人）が LGBT（性的マイノリティ）だとわかった場合、これまでと変わらず接することができると思いますか。（項目ごとに単数回答）

《自分の親》については「わからない」が最も高くなっていますが、それ以外の項目では「できると思う」が最も高くなっています。

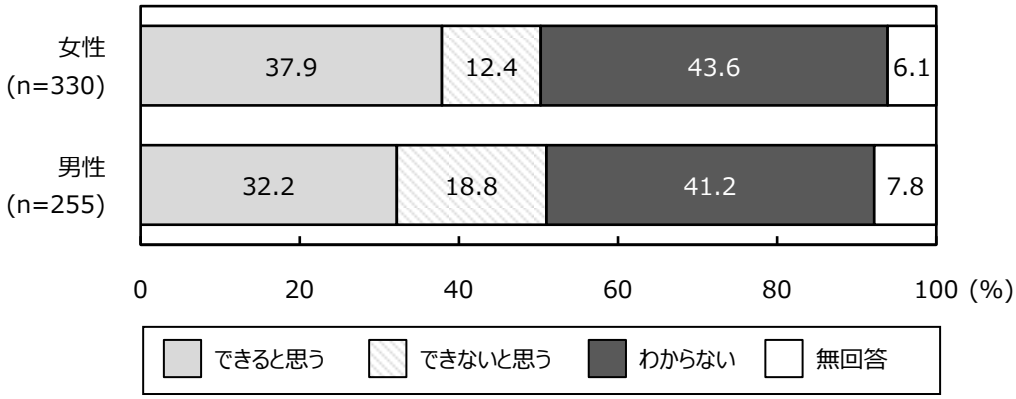
「できると思う」の割合については《友人》、《職場の人》の順で高く、それぞれ 58.0%、56.3%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

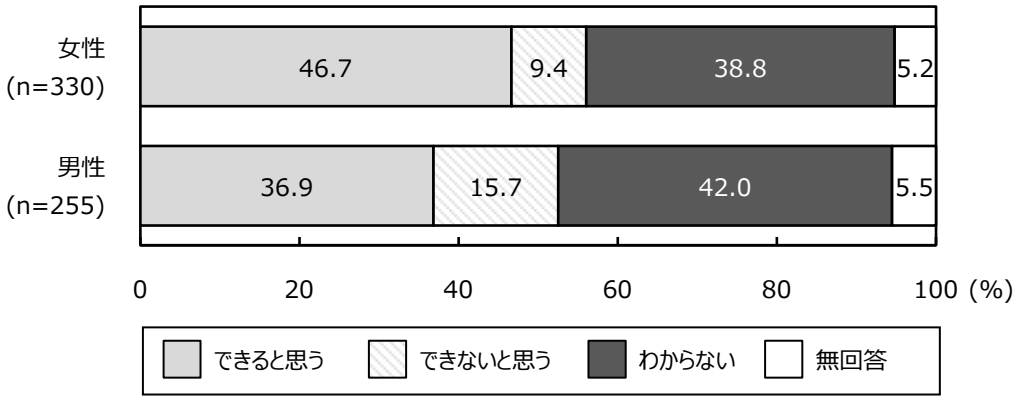
■ 自分の親

男女ともに「わからない」が最も高くなっています。「できると思う」の割合については女性の方が高くなっています（女性：37.9%、男性：32.2%）。



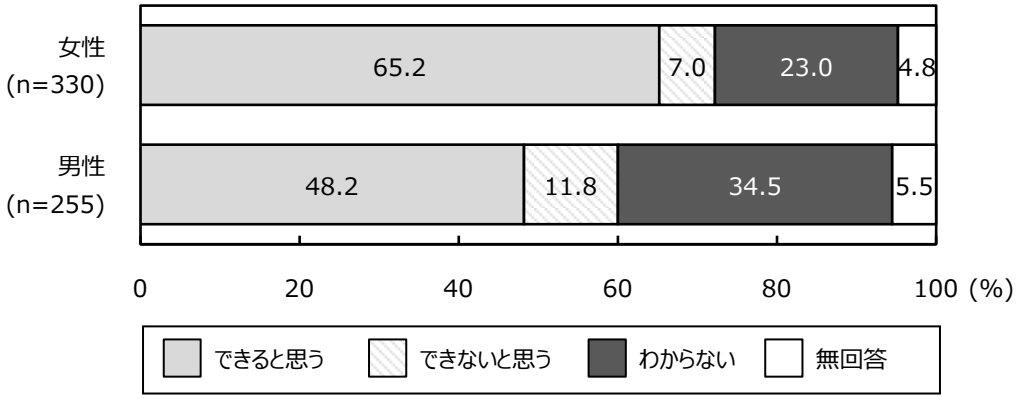
■ 自分の子ども

女性は「できると思う」が最も高いのに対し、男性は「わからない」が最も高くなっています。「できると思う」の割合については女性の方が高く（女性：46.7%、男性：36.9%）、男女差も大きくなっています（9.8 ポイント差）。



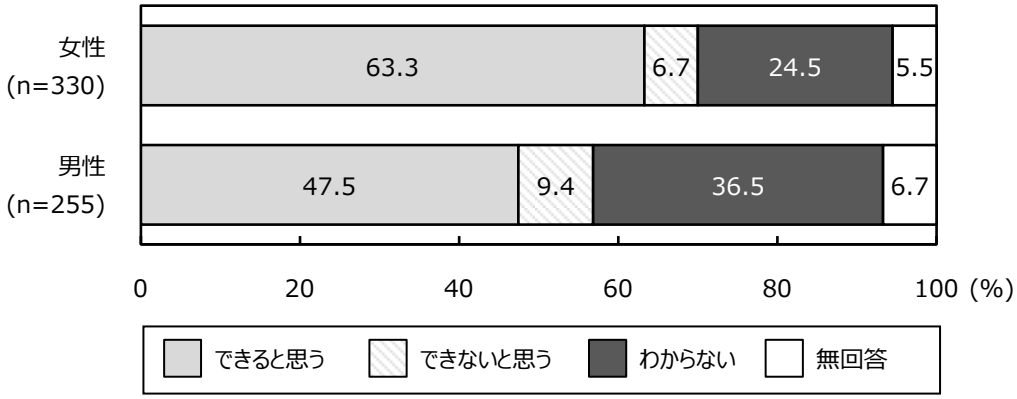
■ 友人

男女ともに「できると思う」が最も高くなっていますが、女性の方が割合が高く（女性：65.2%、男性：48.2%）、男女差も大きくなっています（17.0 ポイント差）。



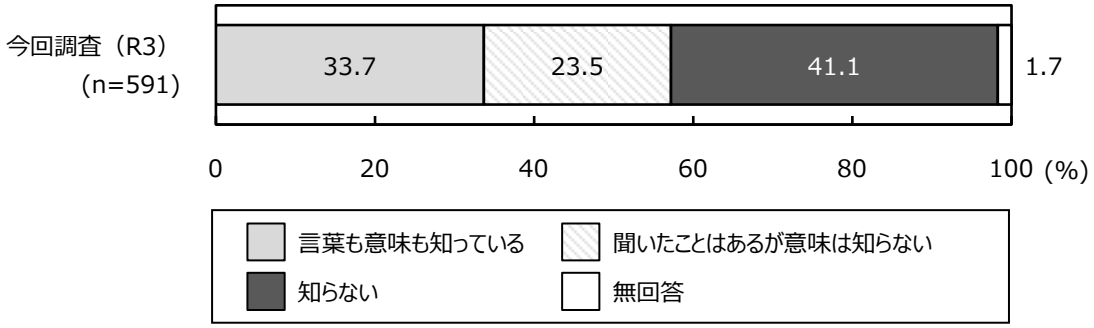
■ 職場の人

男女ともに「できると思う」が最も高くなっていますが、女性の方が割合が高く（女性：63.3%、男性：47.5%）、男女差も大きくなっています（15.8 ポイント差）。



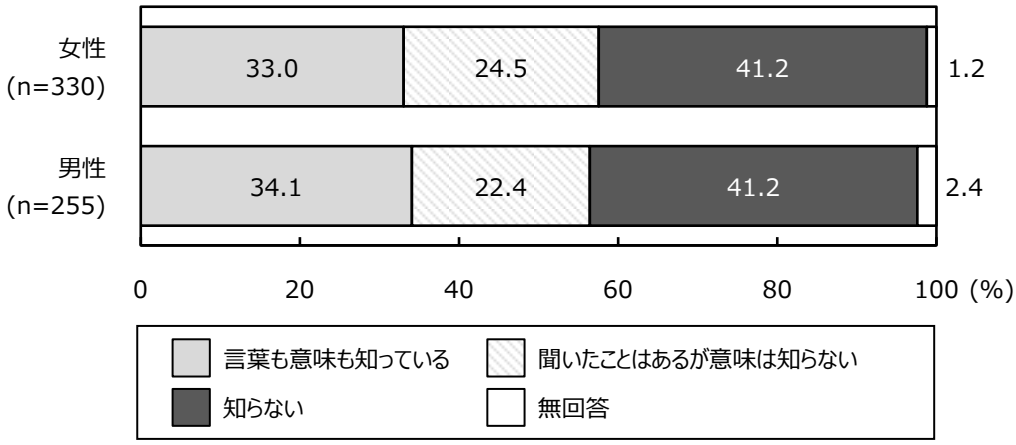
問 43　あなたは、多文化共生という言葉や意味を知っていますか。（単数回答）

「知らない」が 41.1%と最も高く、次いで、「言葉も意味も知っている」が 33.7%、「聞いたことはあるが意味は知らない」が 23.5%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

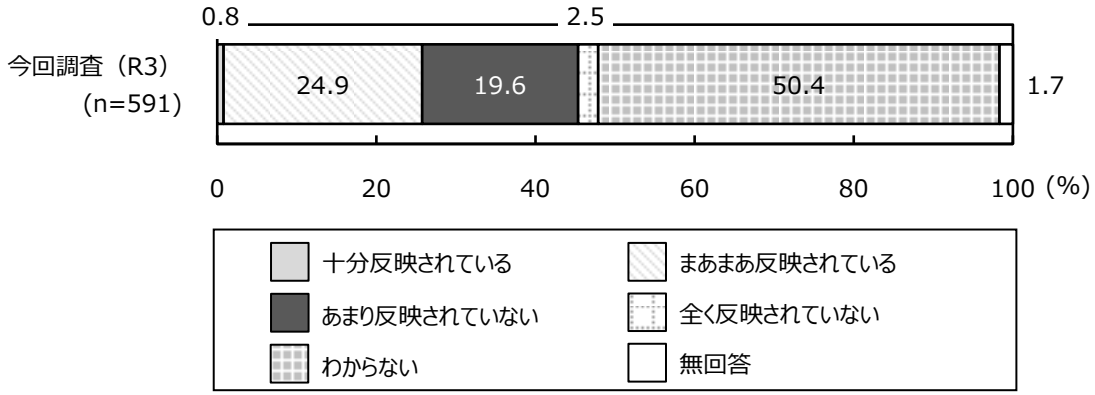
男女とも「知らない」が最も高くなっています。



8. 市の共同参画に対する取組みについて

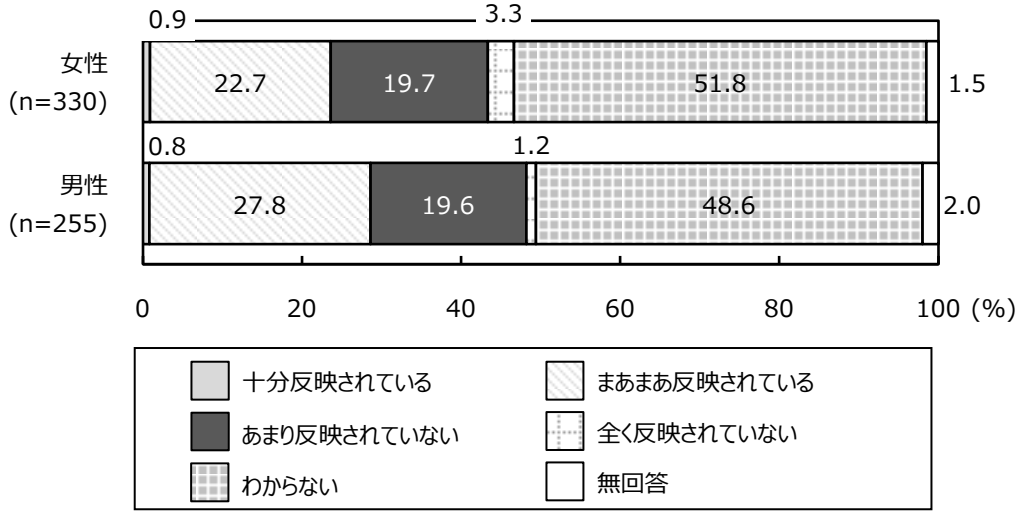
問 44　あなたは、現在、市政に女性の意見がどの程度反映されていると思いますか。（単数回答）

「わからない」が 50.4%と最も高くなっていますが、『反映されている』（「十分反映されている」＋「まあまあ反映されている」）、『反映されていない』（「全く反映されていない」＋「あまり反映されていない」）で割合を比較すると、『反映されている』が 25.7%、『反映されていない』が 22.1%と、『反映されている』の方が高くなっています。



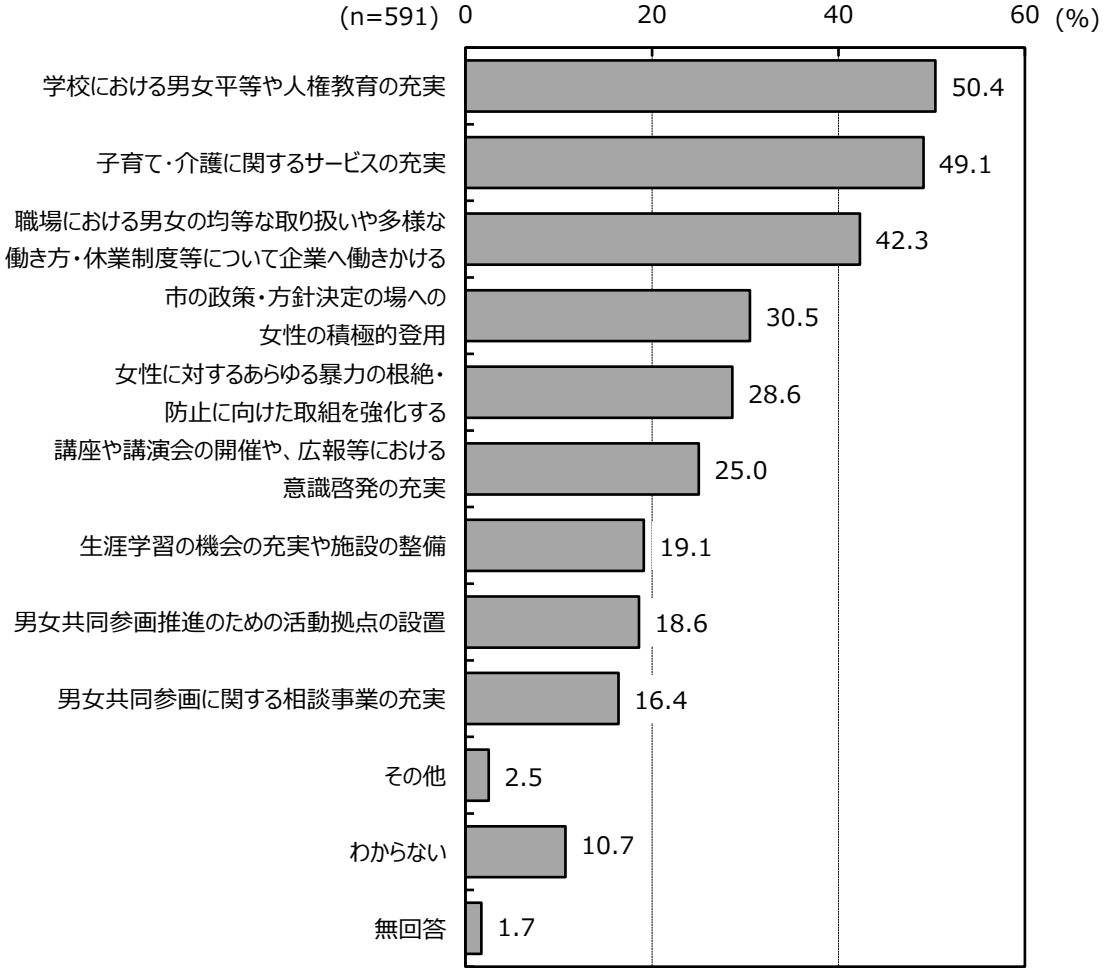
【クロス集計分析（性別）】

男女とも「わからない」が最も高くなっています。『反映されている』の割合については女性は 23.6%、男性 28.6%と、男性の方が高くなっています。



問 45　性別や年齢、国籍等にかかわらず、すべての人が対等な立場で、あらゆる分野で活躍することができる共同参画社会の実現に向けて、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（複数回答）

「学校における男女平等や人権教育の充実」が 50.4%と最も高く、次いで、「子育て・介護に関するサービスの充実」が 49.1%、「職場における男女の均等な取り扱いや多様な働き方・休業制度等について企業へ働きかける」が 42.3%となっています。

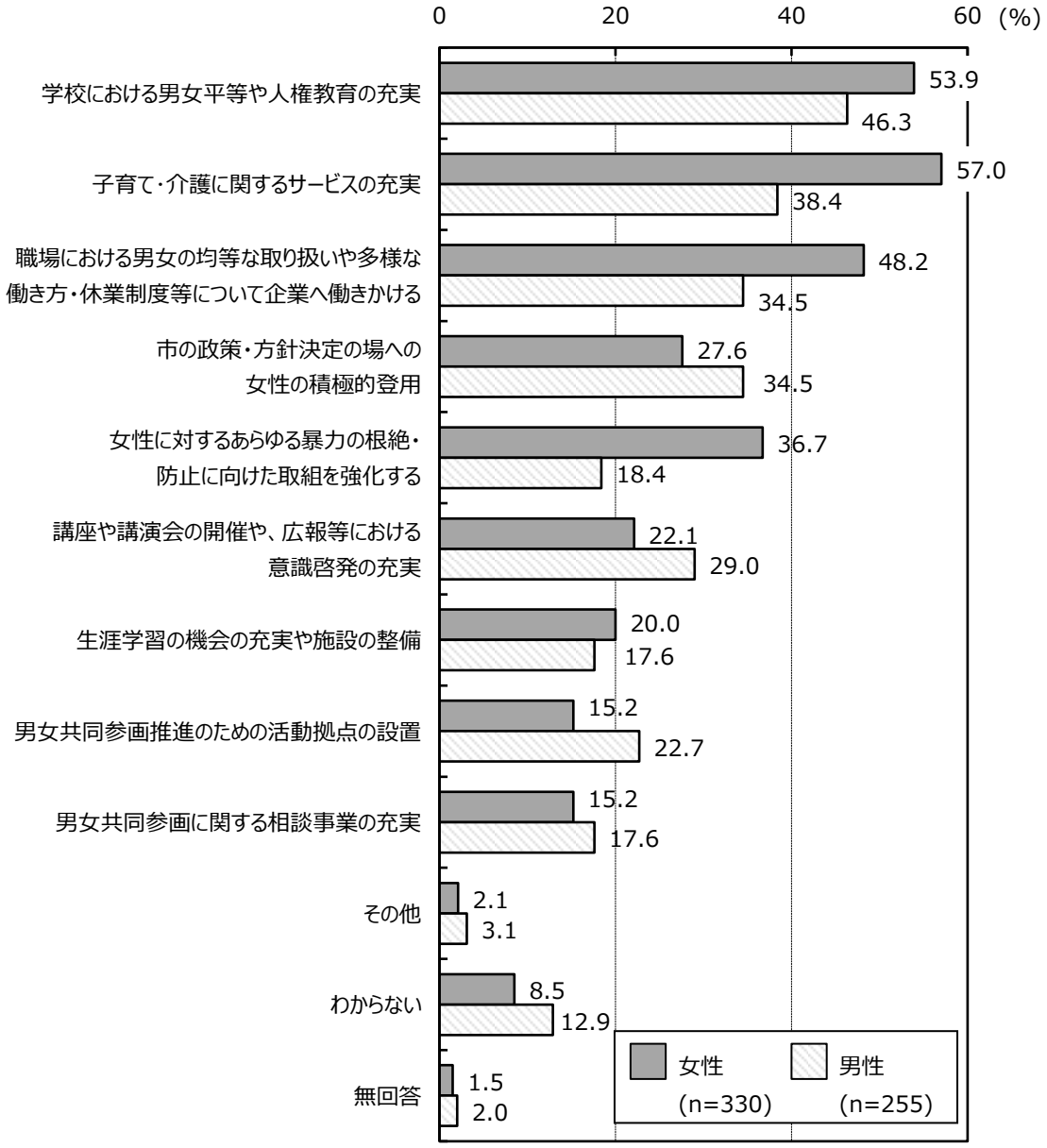


【クロス集計分析（性別）】

男女とも「子育て・介護に関するサービスの充実」、「学校における男女平等や人権教育の充実」が上位２位となっていますが、女性は「子育て・介護に関するサービスの充実」が最も高いのに対し、男性は「学校における男女平等や人権教育の充実」が最も高くなっています。

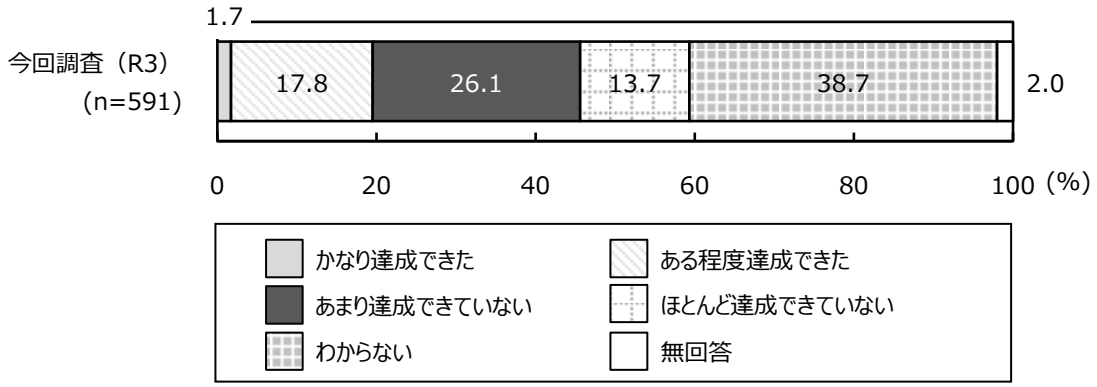
「子育て・介護に関するサービスの充実」、「学校における男女平等や人権教育の充実」とも男女差が大きく、どちらも女性の方が割合が高くなっています（順に 18.6 ポイント差、7.6 ポイント差）。

また、「職場における男女の均等な取り扱いや多様な働き方・休業制度等について企業へ働きかける」、「女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取組を強化する」についても女性の方が割合が高く、男女差も大きくなっています（順に 13.7 ポイント差、18.3 ポイント差）。



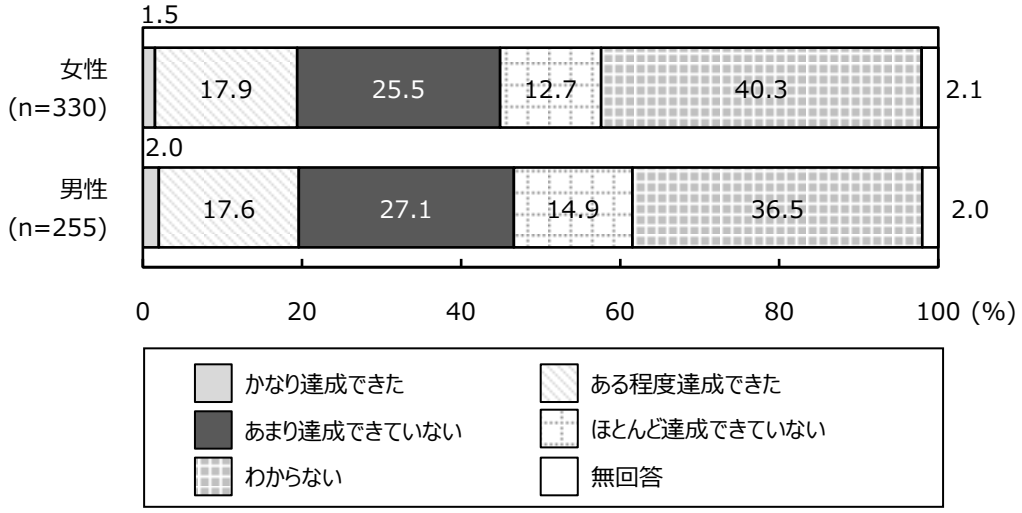
問 46　あなた自身の生活や身の回りの環境から判断して、現在、共同参画社会は達成できたと思いますか。（単数回答）

『達成できた』（「かなり達成できた」＋「ある程度達成できた」）、『達成できていない』（「ほとんど達成できていない」＋「あまり達成できていない」）で割合を比較すると、『達成できた』が 19.5%、『達成できていない』が 39.8%と、『達成できていない』の方が割合が高くなっています。



【クロス集計分析（性別）】

女性は『達成できた』が 19.4%、『達成できていない』が 38.2%、男性は『達成できた』が 19.6%、『達成できていない』が 42.0%と、ともに『達成できていない』の方が高くなっていますが、男性の方が割合が高くなっています。



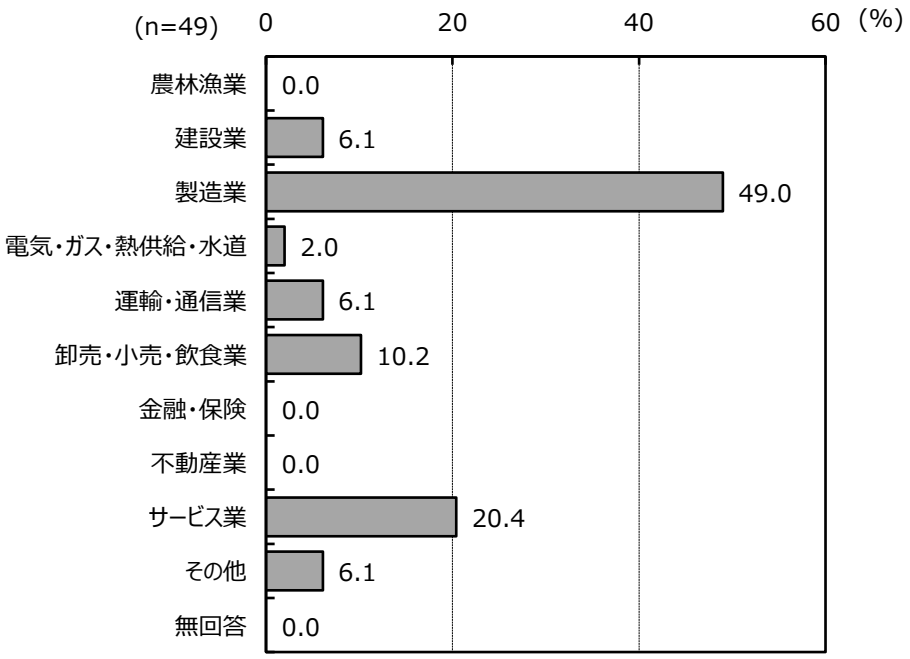
Ⅲ. 事業所アンケートの結果

1. 事業所の概要について

問１　事業所の業種、形態、従業員数についてお答えください。（単数回答）

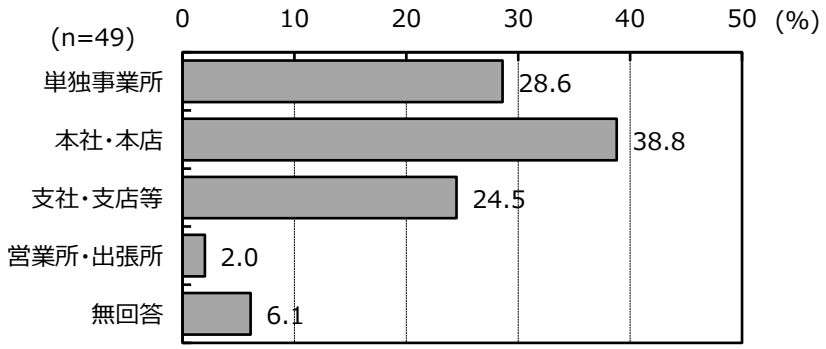
【業種】

「製造業」が 49.0%と最も多く、次いで、「サービス業」が 20.4%、「卸売・小売・飲食業」が 10.2%、「建設業」、「運輸・通信業」、「その他」がそれぞれ 6.1%となっています。



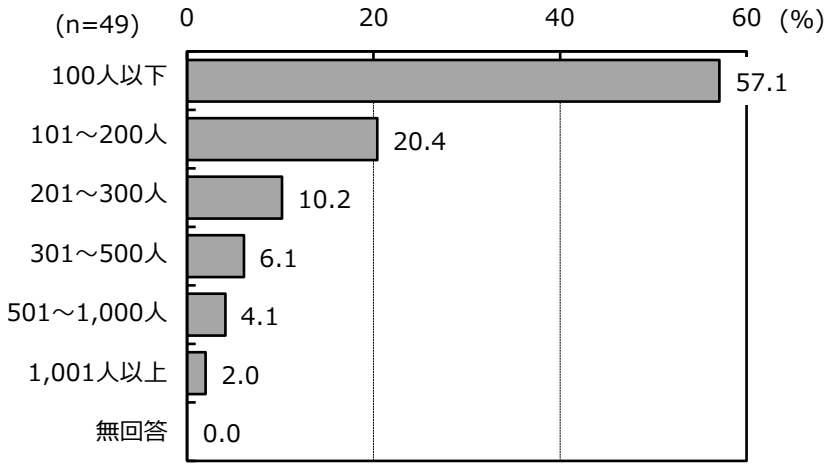
【形態】

「本社・本店」が 38.8%と最も多く、次いで、「単独事業所」が 28.6%、「支社・支店等」が 24.5%となっています。



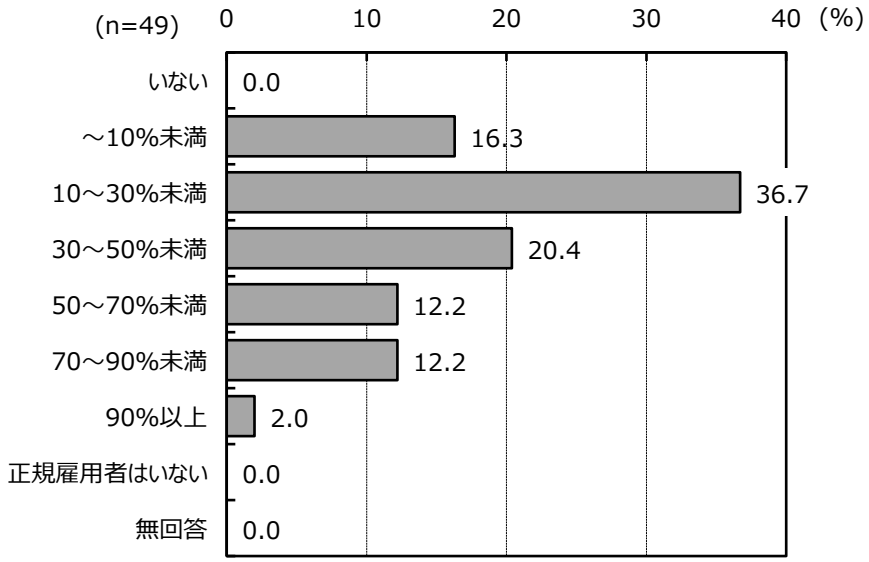
【従業員数】

「100 人以下」が 57.1%と最も高く、次いで、「101～200 人」が 20.4%、「201～300 人」が 10.2%となっています。



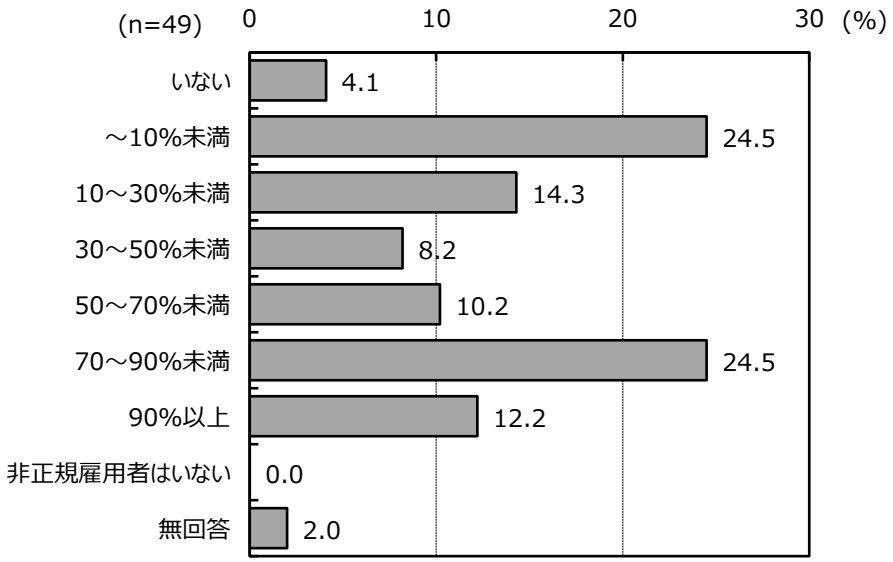
【正規雇用者に占める女性の割合】

「10～30%未満」が 36.7%と最も高く、次いで、「30～50%未満」が 20.4%、「～10%未満」が 16.3%となっています。



【非正規雇用者に占める女性の割合】

「～10%未満」、「70～90%未満」がそれぞれ 24.5%と最も高く、次いで、「10～30%未満」が 14.3%、「90%以上」が 12.2%となっています。

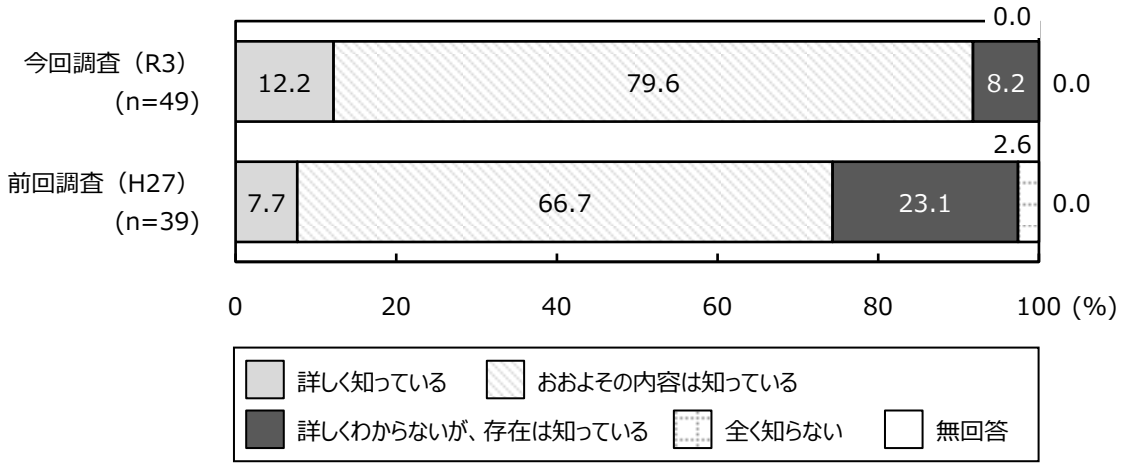


2. 雇用や待遇等について

問２ 「男女雇用機会均等法」の内容について、どの程度知っていますか。（単数回答）

前回調査と同様に「おおよその内容は知っている」が最も高くなっており、割合は 12.9 ポイント増加しています（前回：66.7%、今回：79.6%）。

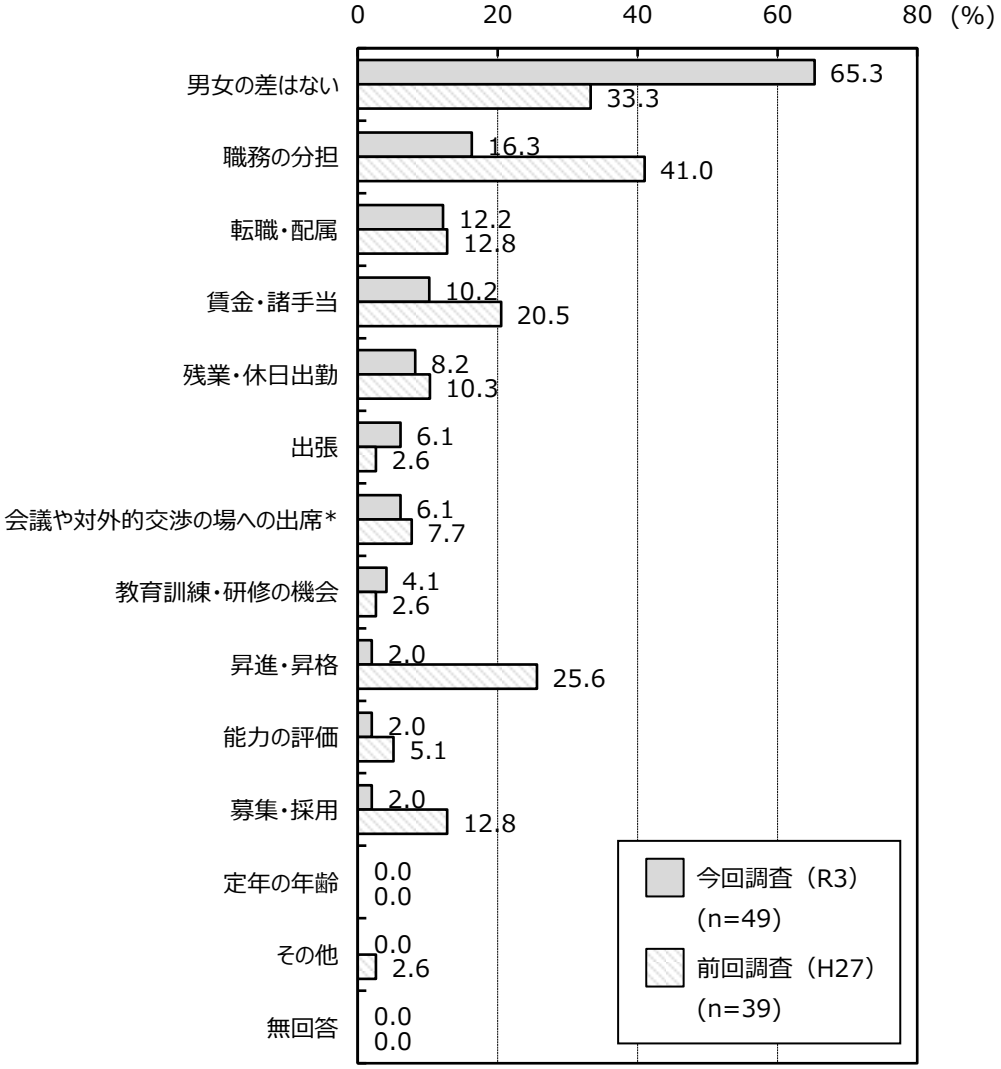
また、「詳しく知っている」の割合についても増加しています（前回：7.7%、今回：12.2%）。



問３　待遇面や職務内容において男女でどのような差がありますか。（複数回答）

前回調査では「職務の分担」が最も高かったのに対し、今回調査では「男女の差はない」が最も高く、65.3%となっています。次いで、「職務の分担」が 16.3%、「転職・配属」が 12.2%となっています。

「男女の差はない」の割合については大きく増加している一方、「職務の分担」、「賃金・諸手当」、「昇進・昇格」の割合については大きく減少しています。

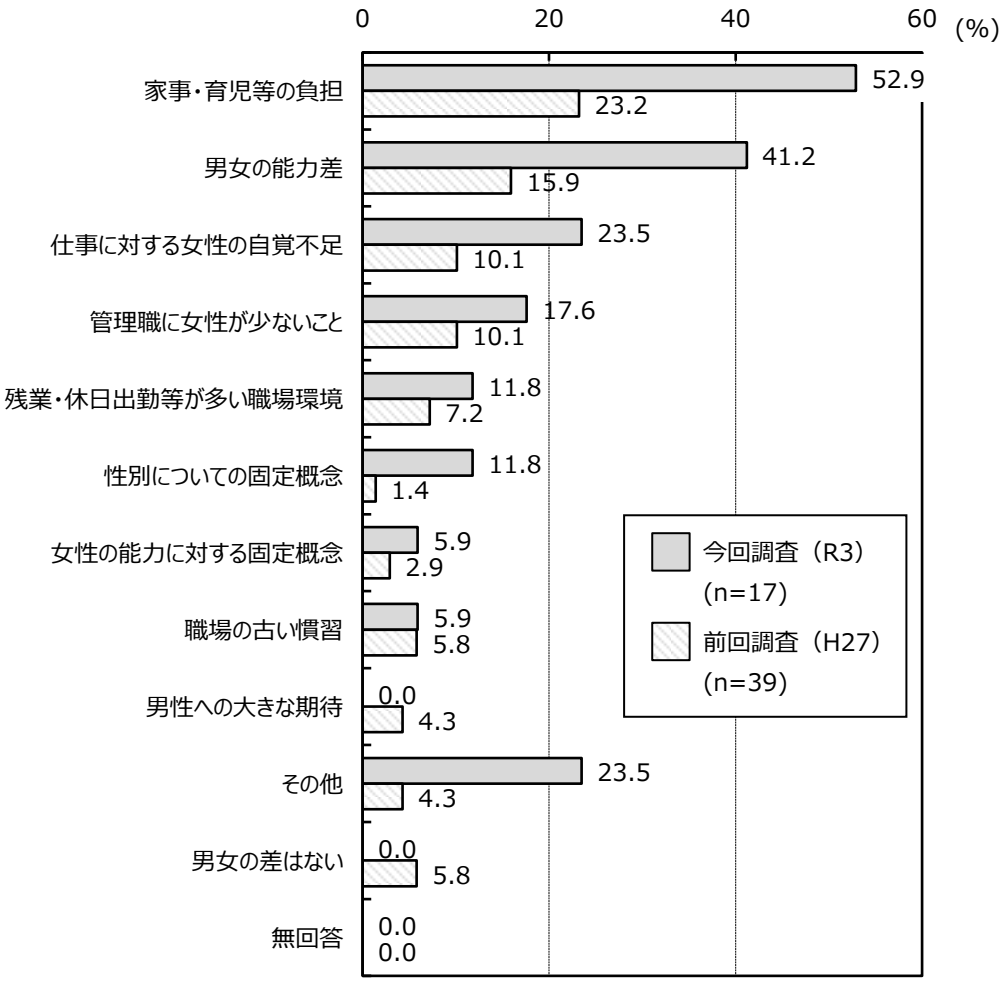


＊前回調査では「会議や交渉の場への出席」

【問３で「男女の差はない」以外を回答された方のみ】
問４　男女差がある理由は何ですか。（複数回答）

前回調査と同様に「家事・育児等の負担」が最も高く、52.9%となっています。次いで、「男女の能力差」が41.2%、「仕事に対する女性の自覚不足」、「その他（前回は分からない含む）」がそれぞれ 23.5%となっています。

また、前回調査と比較して、全体的に割合が増加傾向にあります。

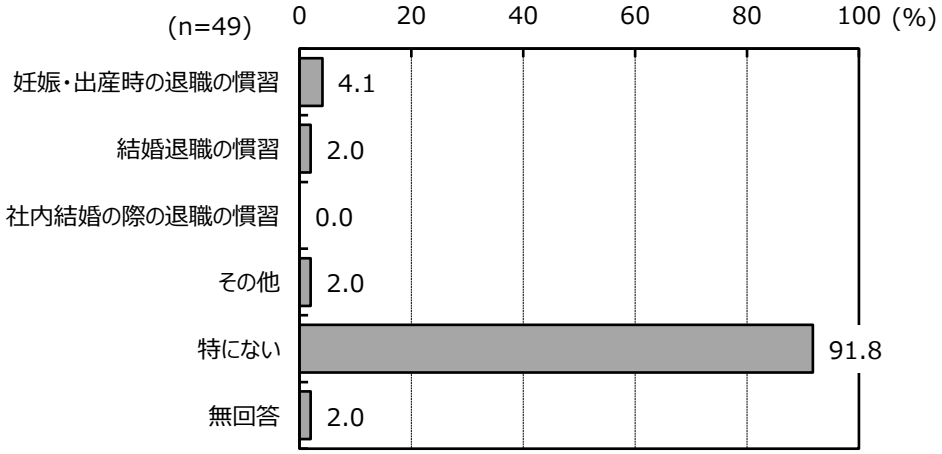


※前回のその他の割合には「わからない」の割合を含む。

【女性従業員がいる場合のみ】

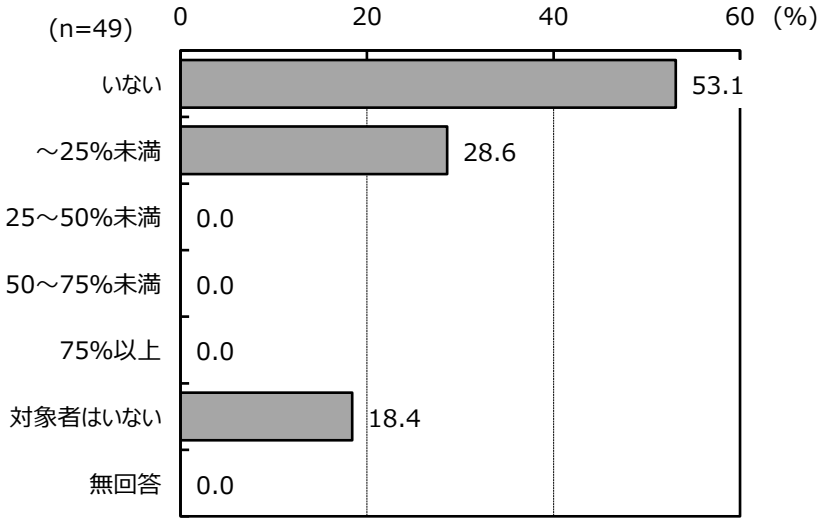
問５　女性の退職に関する慣習はありますか。あてはまるものをお答えください。（複数回答）

「特にない」が大半を占めています。



問６　過去３年間で妊娠・出産・結婚により女性が離職した割合をお答えください。（単数回答）

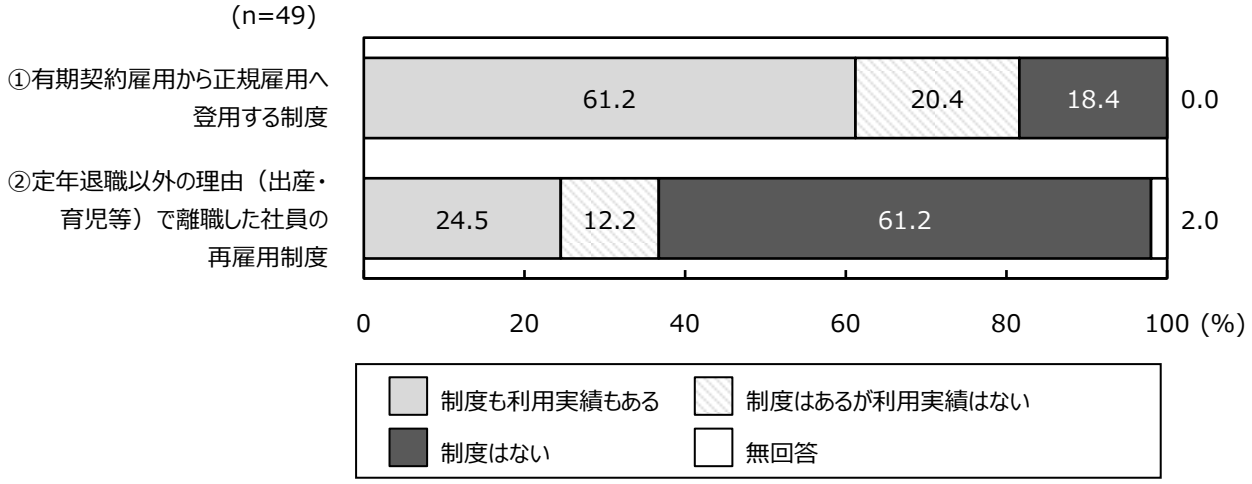
「いない」が 53.1%と最も高く、次いで、「～25%未満」が 28.6%となっています。



問７　以下の制度の有無と過去３年の利用状況をお答えください。（単数回答）

《①有期契約雇用から正規雇用へ登用する制度》については、「制度も利用実績もある」が 61.2%と最も高く、次いで、「制度はあるが利用実績はない」が 20.4%、「制度はない」が 18.4%となっています。

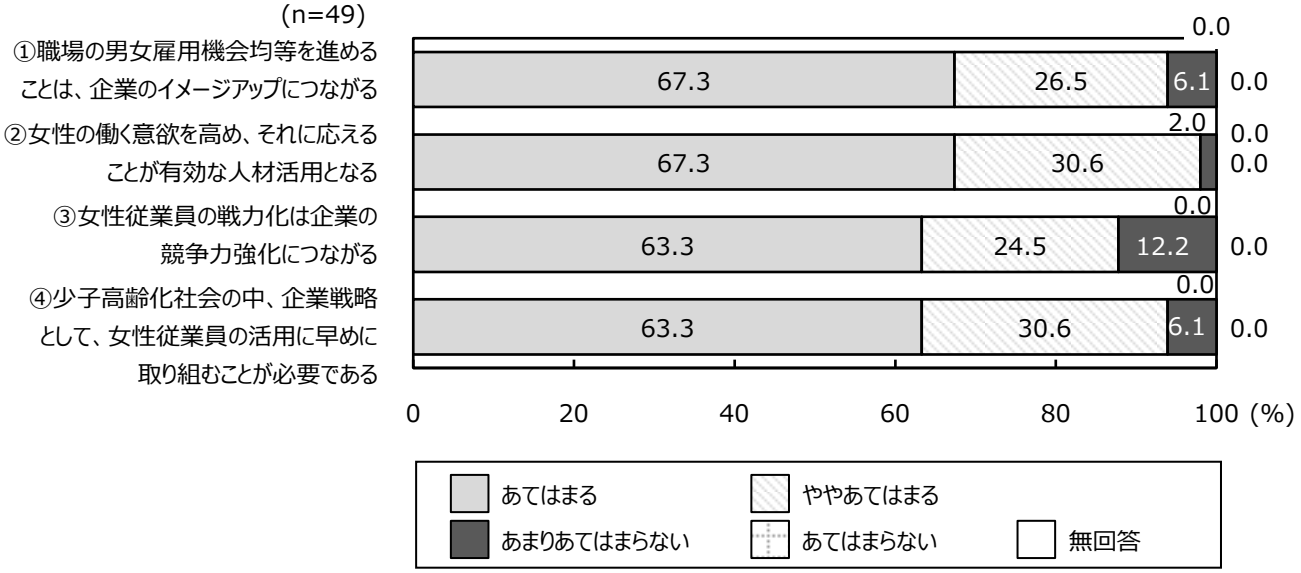
《②定年退職以外の理由（出産・育児等）で離職した社員の再雇用制度》については、「制度はない」が 61.2%と最も高く、次いで、「制度も利用実績もある」が 24.5%、「制度はあるが利用実績はない」が 12.2%となっています。



3. 女性の活躍推進について

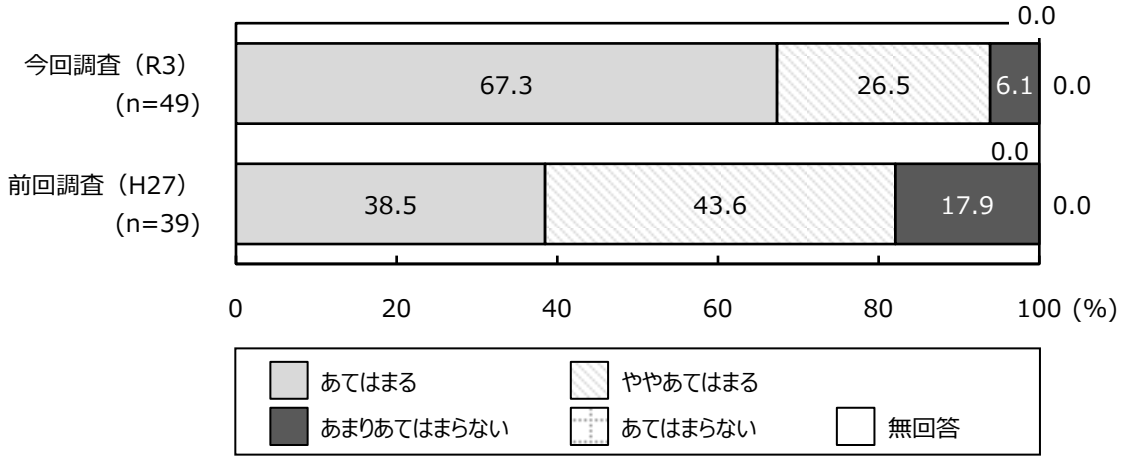
問８　女性の登用についてどのようなイメージを持っていますか。（単数回答）

いずれにおいても「あてはまる」が最も高く、60%以上なっています。



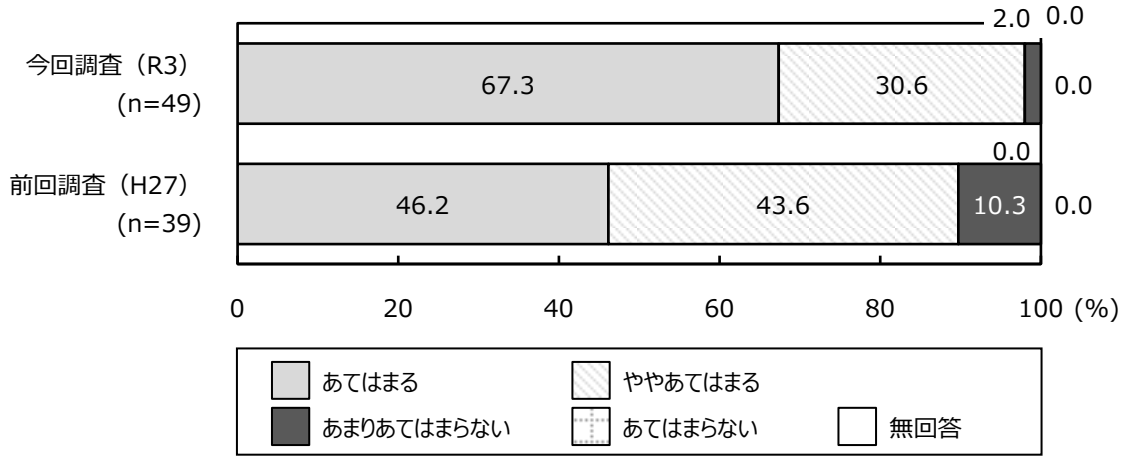
■ 職場の男女雇用機会均等を進めることは、企業のイメージアップにつながる

前回調査では「ややあてはまる」が最も高かったのに対し、今回調査では「あてはまる」が最も高く、67.3%となっています。「あてはまる」の割合については 28.8 ポイント増加しています（前回：38.5%、今回：67.3%）。



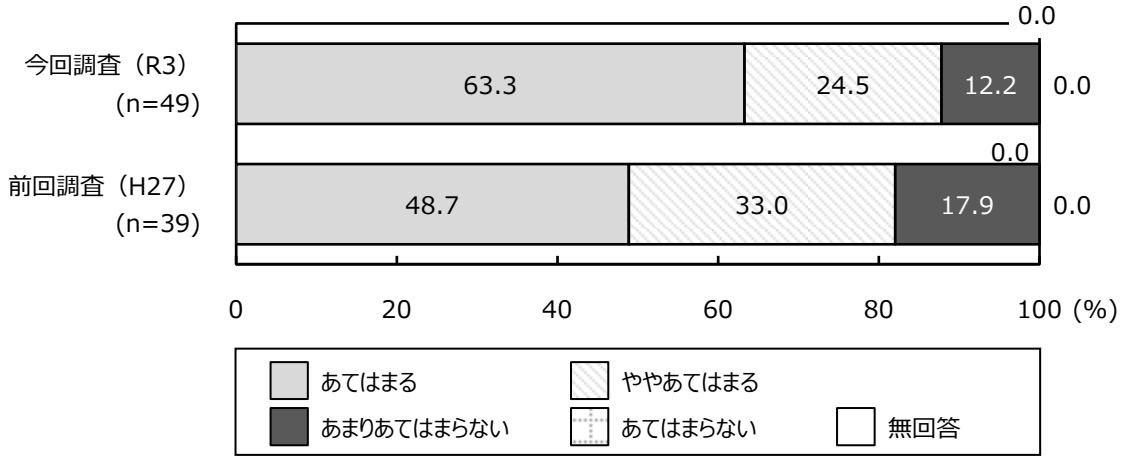
■ 女性の働く意欲を高め、それに応えることが有効な人材活用となる

前回調査では「ややあてはまる」が最も高かったのに対し、今回調査では「あてはまる」が最も高く、67.3%となっています。「あてはまる」の割合は 21.1 ポイント増加しています（前回：46.2%、今回：67.3%）。



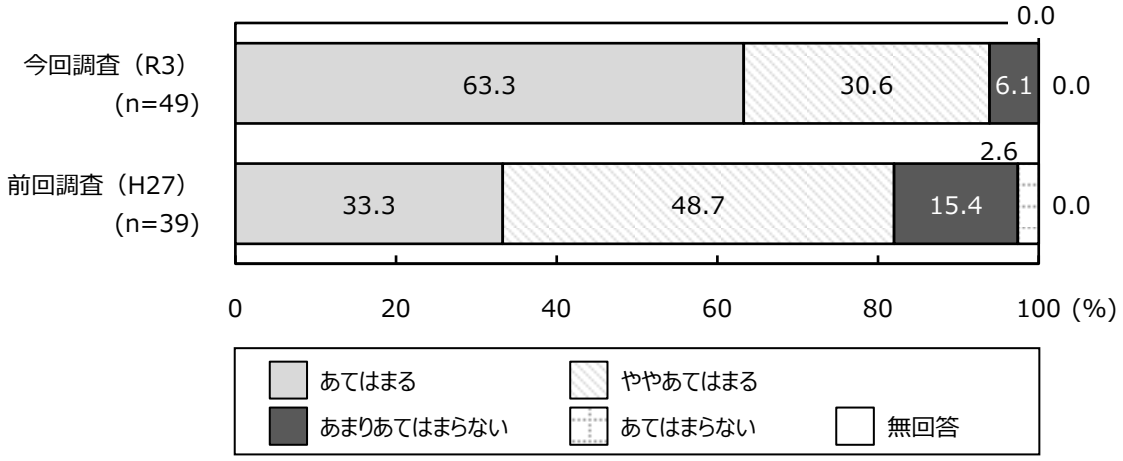
■ 女性従業員の戦力化は企業の競争力強化につながる

前回調査と同様に、「あてはまる」が最も高く、63.3%となっています。「あてはまる」の割合は 14.6 ポイント増加しています（前回：48.7%、今回：63.3%）。



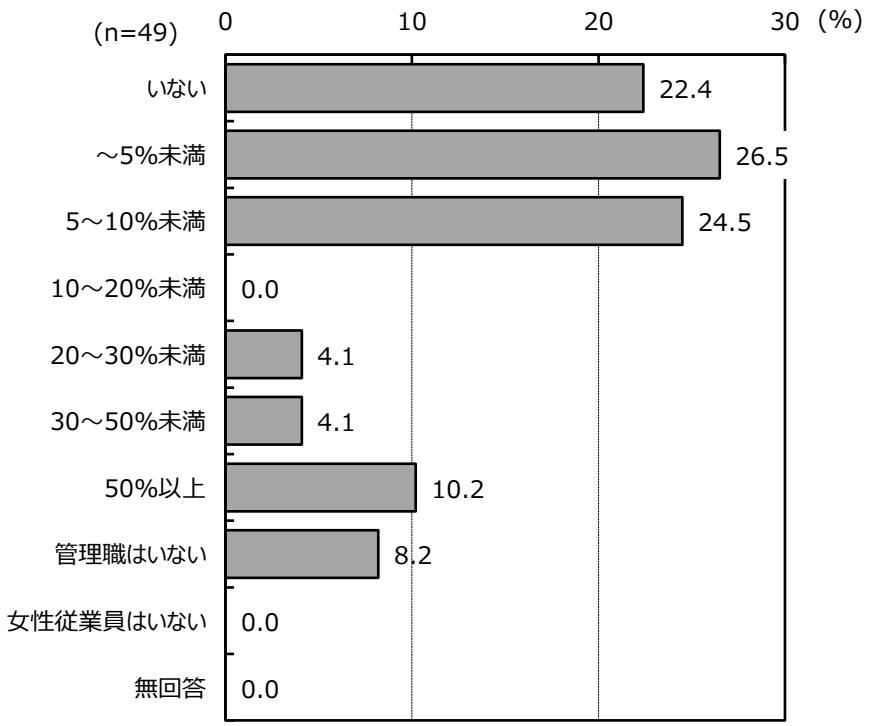
■ 少子高齢化社会の中、企業戦略として、女性従業員の活用に早めに取り組むことが必要である

前回調査では「ややあてはまる」が最も高かったのに対し、今回調査では「あてはまる」が最も高く、63.3%となっています。「あてはまる」の割合は 30.0 ポイント増加しています（前回：33.3%、今回：63.3%）。



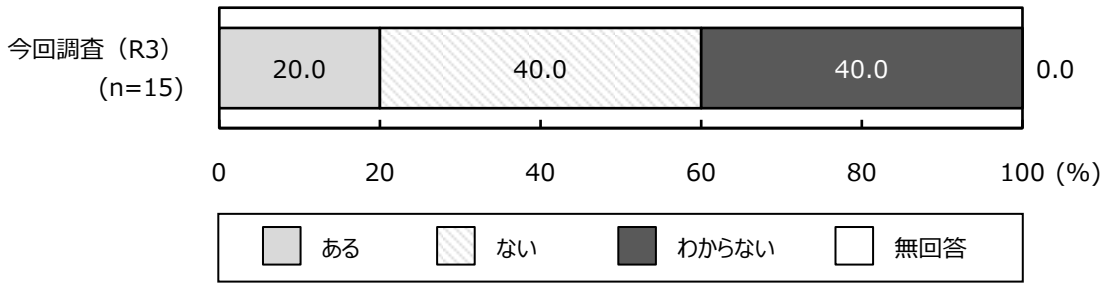
問９　役員・管理職（課長職相当以上）に占める女性の割合をお答えください。（単数回答）

「～5%未満」が 26.5%と最も高く、次いで、「5～10%未満」が 24.5%となっており、「いない」については 22.4%となっています。



【問９で「いない」、「管理職はいない」を回答された方のみ】
問 10　今後、女性を役員・管理職に登用する予定はありますか。（単数回答）

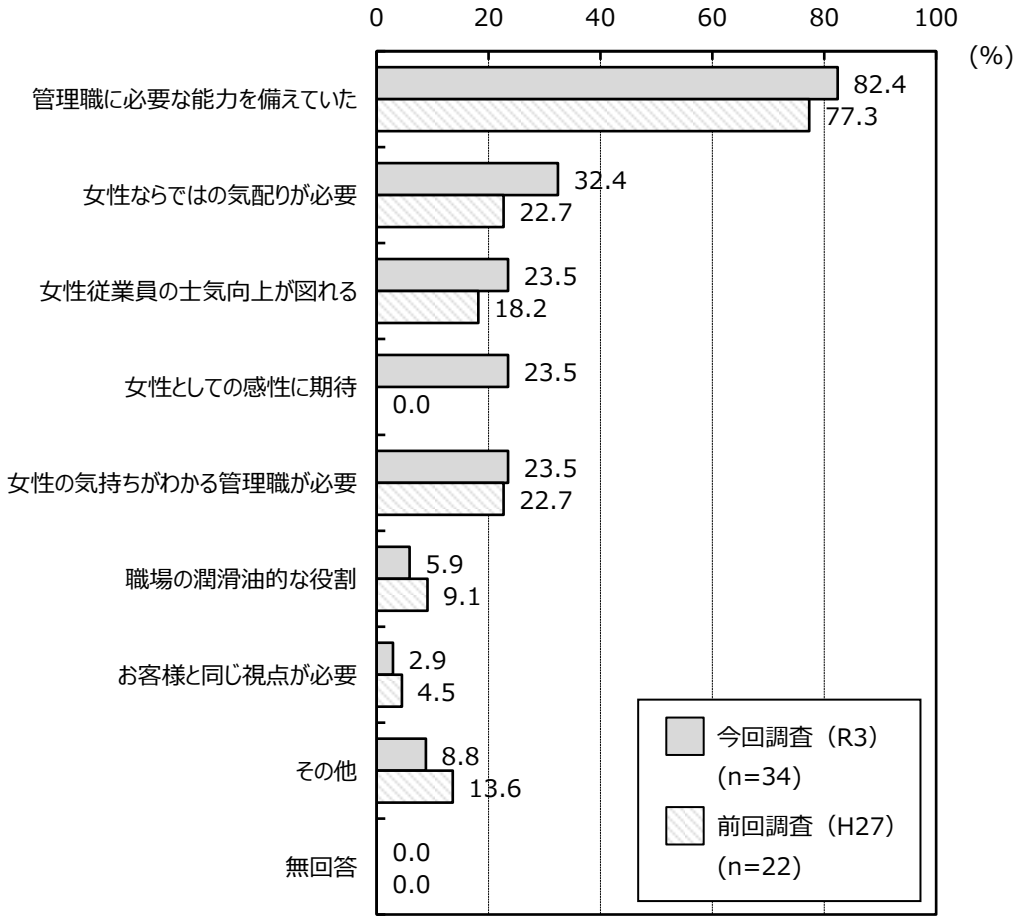
「ある」が 20.0%、「ない」が 40.0%、「わからない」が 40.0%となっています。



【問 9 で「女性の管理職がいる」と回答された方のみ】
問 11　役員・管理職に女性を登用している理由をお答えください。（複数回答）

前回調査と同様に「管理職に必要な能力を備えていた」が最も高く、82.4%となっています。次いで、「女性ならではの気配りが必要」が 32.4%、「女性従業員の士気向上が図れる」、「女性としての感性に期待」、「女性の気持ちがわかる管理職が必要」がそれぞれ 23.5%となっています。

「女性ならではの気配りが必要」の割合については、前回調査から大きく増加し、9.7 ポイント増となっています（前回：22.7%、今回：32.4%）。

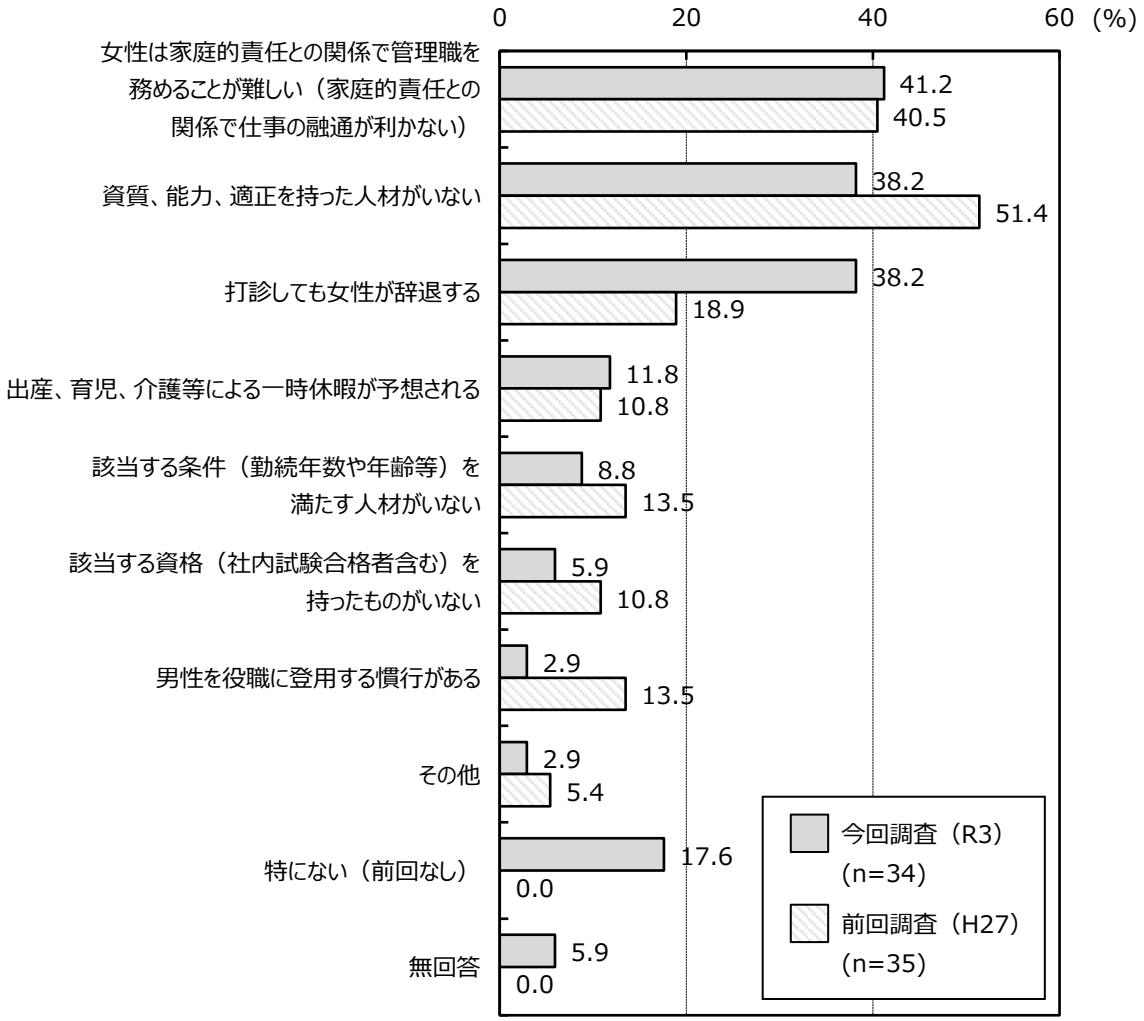


【問 9 で「女性の管理職がいる」と回答された方のみ】
問 12　女性を役員・管理職に登用するにあたっての課題は何ですか。（複数回答）

前回調査では「資質、能力、適正を持った人材がいない」が最も高かったのに対し、今回調査では、「女性は家庭的責任との関係で管理職を務めることが難しい（家庭的責任との関係で仕事の融通が利かない）」が最も高く、41.2%となっています。次いで、「資質、能力、適正を持った人材がいない」、「打診しても女性が辞退する」がそれぞれ 38.2%となっています。

「資質、能力、適正を持った人材がいない」については前回調査から大きく減少し、「打診しても女性が辞退する」については前回調査から大きく増加しています。

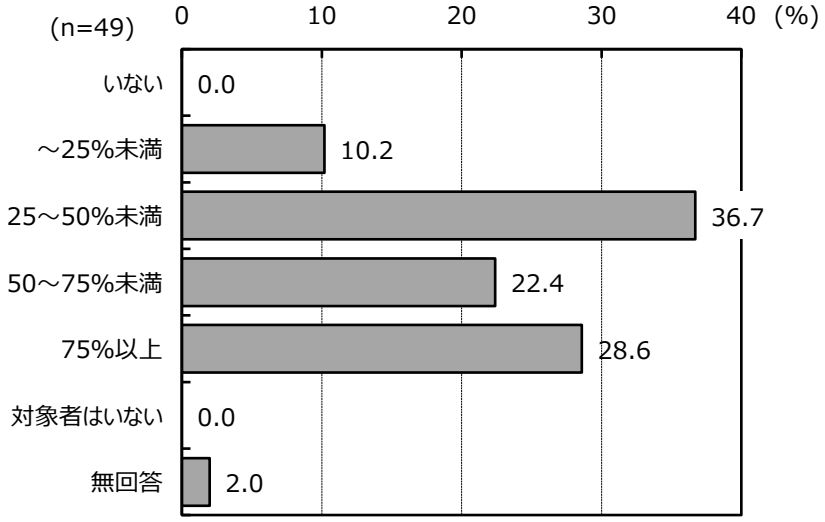
また、割合は低いものの「男性を役職に登用する慣行がある」の割合は前回調査から大きく減少しています。



4. 休暇制度やワーク・ライフ・バランスの取組みについて

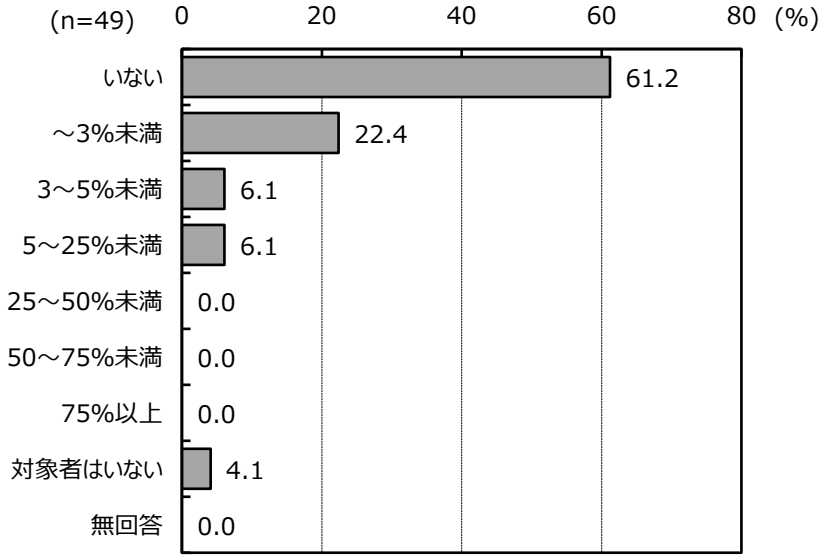
問 13　直近 1 年間における年次有給休暇の平均取得率をお答えください。（単数回答）

「25～50%未満」が 36.7%と最も高く、次いで、「75%以上」が 28.6%、「50～75%未満」が 22.4%となっています。



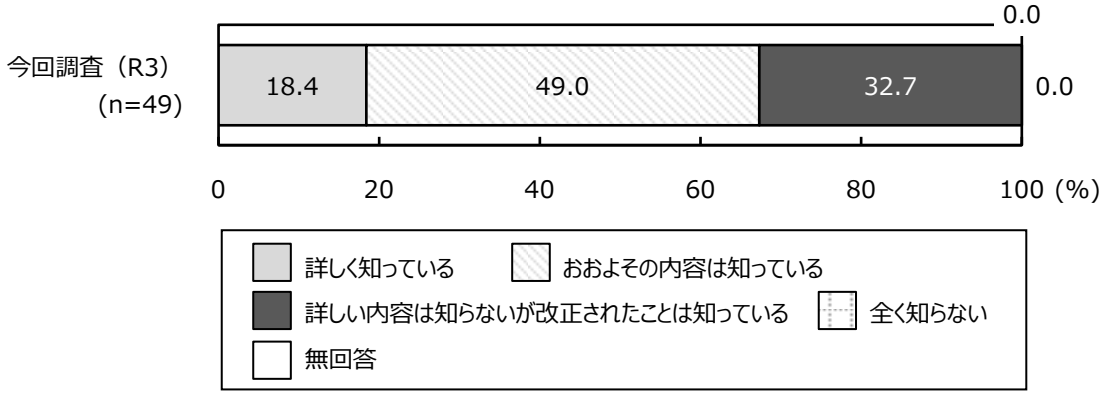
問 14　過去 3 年間の男性の平均育児休業取得率をお答えください。（単数回答）

「いない」が 61.2%と最も高く、次いで、「～3%未満」が 22.4%、「3～5%未満」、「5～25%未満」がそれぞれ 6.1%となっています。



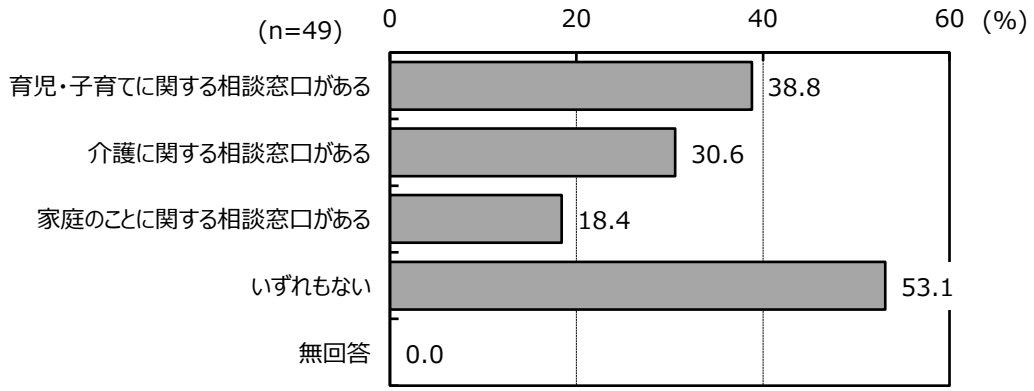
問 15　育児・介護休業法の改正（令和３年６月）についてどの程度知っていますか。
（単数回答）

「おおよその内容は知っている」が 49.0%と最も高く、次いで、「詳しい内容は知らないが改正されたことは知っている」が 32.7%、「詳しく知っている」が 18.4%となっています。



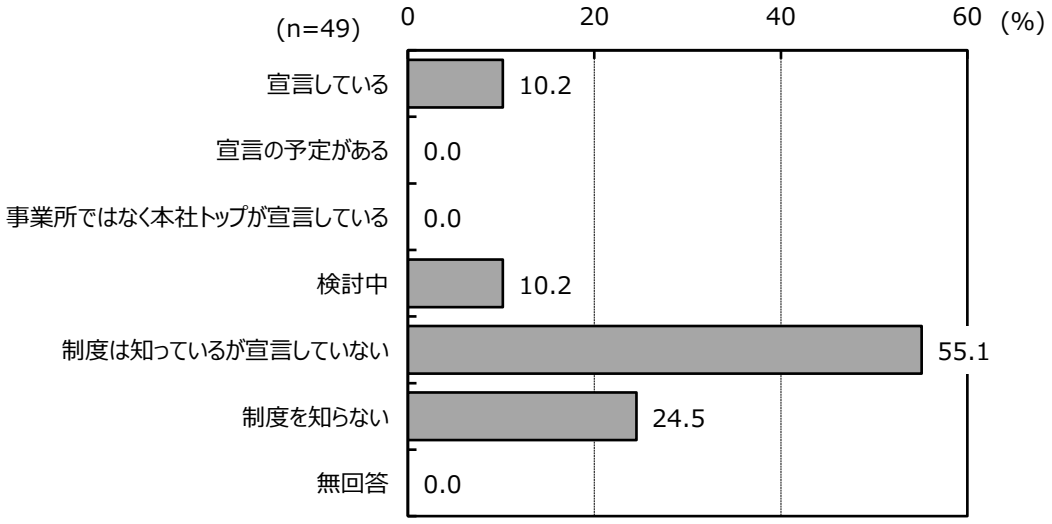
問 16　従業員が育児・介護・家庭のことについて相談できる窓口を設けていますか。（複数回答）

「いずれもない」が 53.1%と最も高く、次いで、「育児・子育てに関する相談窓口がある」が 38.8%、「介護に関する相談窓口がある」が 30.6%となっています。



問 17　貴事業所のトップはイクボス宣言をしていますか。（単数回答）

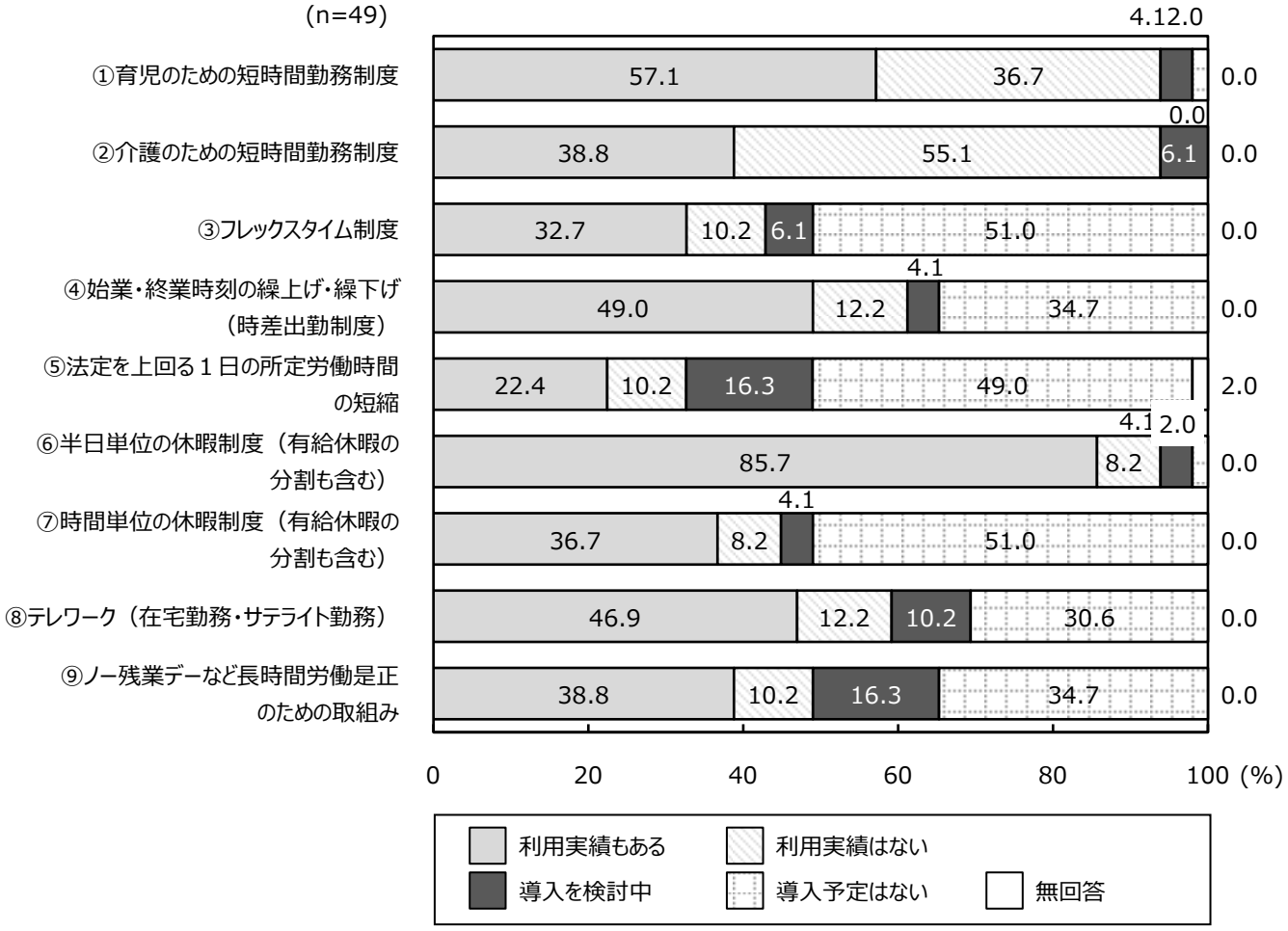
「制度は知っているが宣言していない」が 55.1%と最も高く、次いで、「制度を知らない」が 24.5%、「宣言している」、「検討中」がそれぞれ 10.2%となっています。



問 18　以下の制度の有無と過去３年の利用状況、今後の予定をお答えください。（単数回答）

《①育児のための短時間勤務制度》、《④始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ（時差出勤制度）》、《⑥半日単位の休暇制度（有給休暇の分割も含む）》、《⑧テレワーク（在宅勤務・サテライト勤務）》、《⑨ノー残業デーなど長時間労働是正のための取組み》については「利用実績もある」が最も高くなっていますが、《②介護のための短時間勤務制度》については「利用実績はない」が最も高くなっています。《③フレックスタイム制度》、《⑤法定を上回る１日の所定労働時間の短縮》、《⑦時間単位の休暇制度（有給休暇の分割も含む）》については「導入予定はない」が最も高くなっています。

「利用実績もある」の割合については《⑥半日単位の休暇制度（有給休暇の分割も含む）》で最も高く、85.7%となっています。次いで、《①育児のための短時間勤務制度》が 57.1%、《④始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ（時差出勤制度）》が 49.0%、《⑧テレワーク（在宅勤務・サテライト勤務）》が 46.9%となっています。

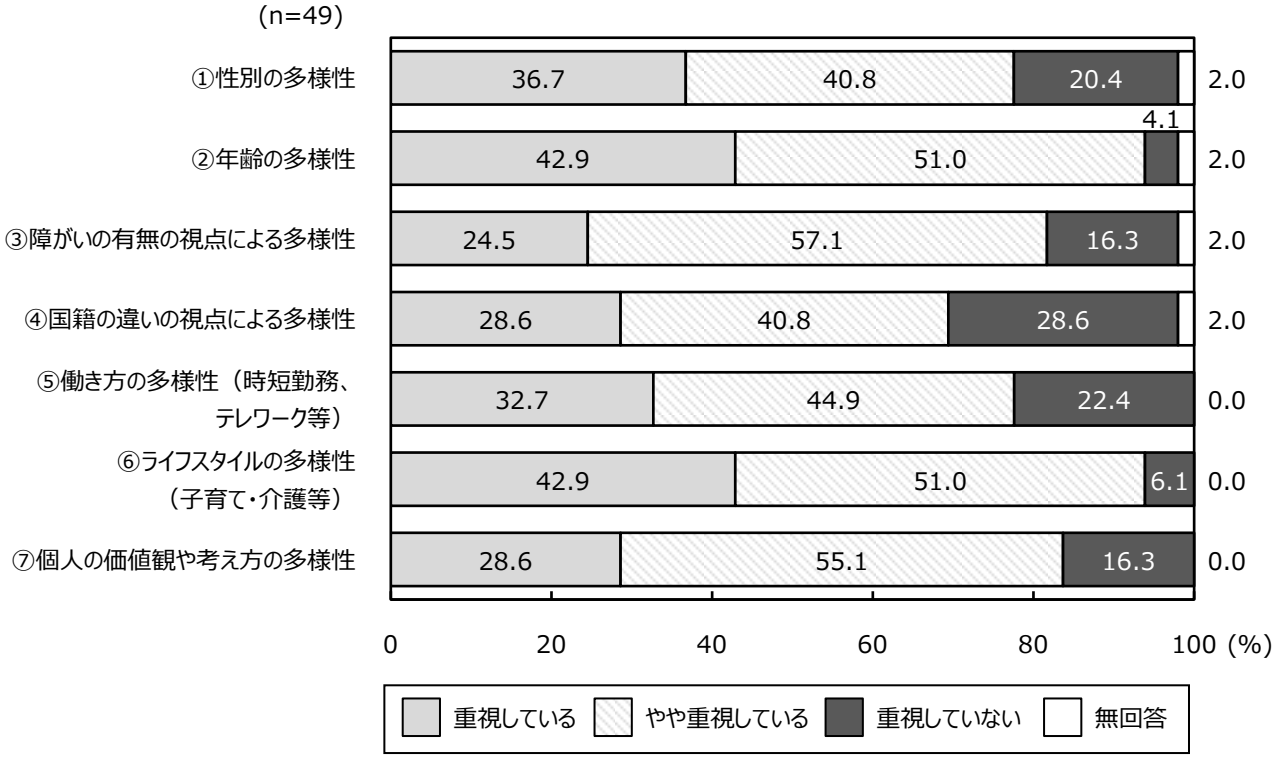


5. ダイバーシティの推進・性的マイノリティへの対応について

問 19　ダイバーシティ（多様な人材を積極的に雇用・登用すること）の推進について、どの程度重視していますか。（単数回答）

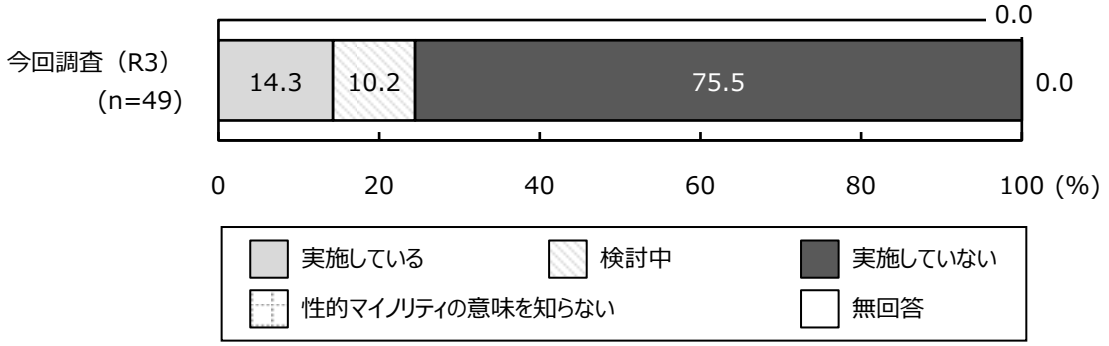
いずれの項目も「やや重視している」が最も高く、『重視している』（「重視している」+「やや重視している」）の割合は 60%以上となっています。

『重視している』の割合については《②年齢の多様性》、《⑥ライフスタイルの多様性（子育て・介護等）》が最も高く、93.9%となっています。次いで、《⑦個人の価値観や考え方の多様性》が 83.7%、《③障がいの有無の視点による多様性》が 81.6%となっています。



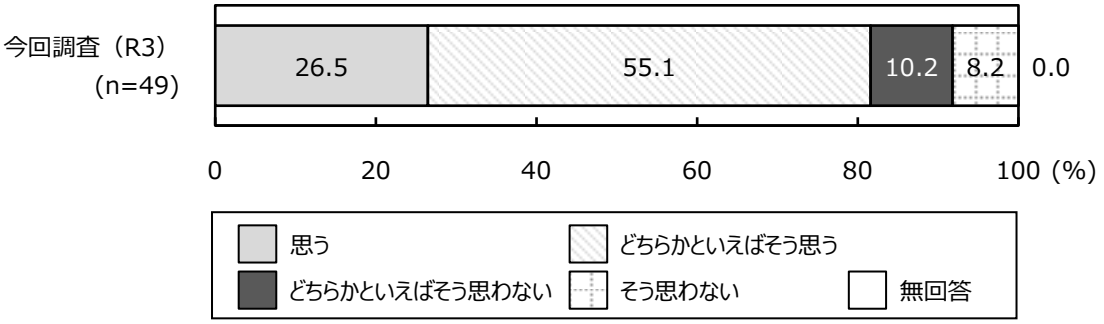
問 20　性的マイノリティに対する配慮や対応を意図した取組みはありますか。（単数回答）

「実施している」が 14.3%、「検討中」が 10.2%、「実施していない」が 75.5%となっています。



問 21　企業は、性的マイノリティを取り巻く社会課題の解決に貢献していくべきだと思いますか。（単数回答）

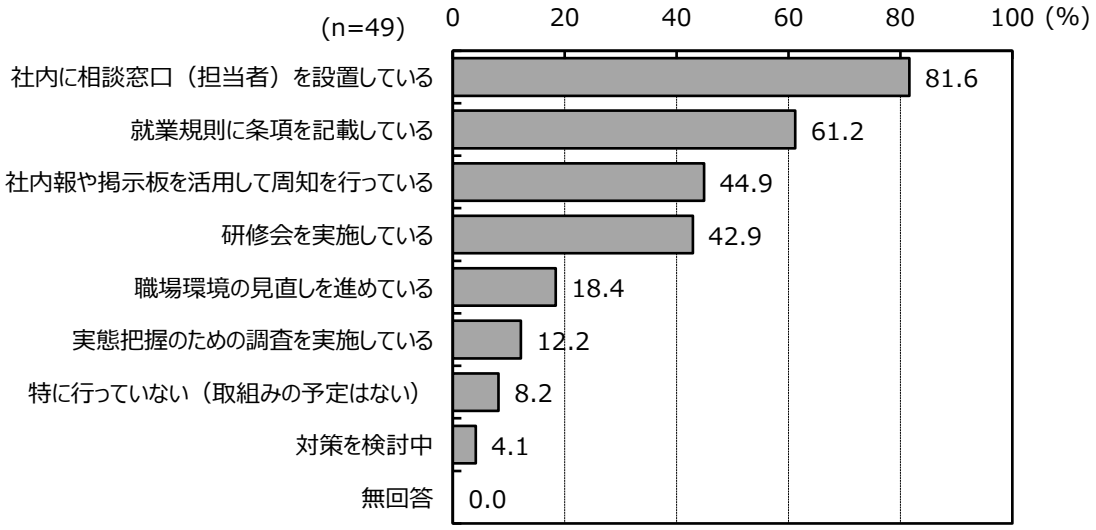
『思う』（「思う」+「どちらかといえばそう思う」）と『思わない』（「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」）の割合を比較すると、『思う』が 81.6%、『思わない』が 18.4%となっています。



6. ハラスメント対策について

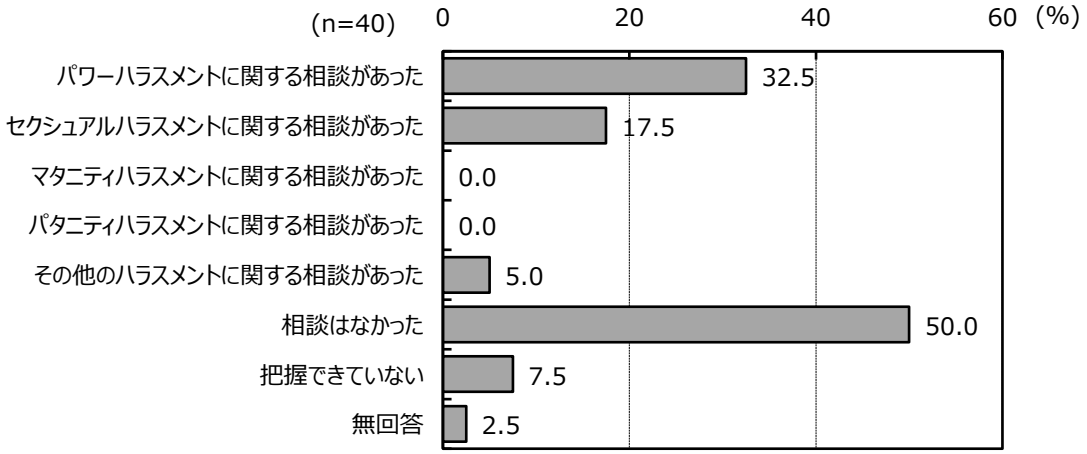
問 22　ハラスメントを防止するためにどのような取組みをしていますか。（複数回答）

「社内に相談窓口（担当者）を設置している」が 81.6%と最も高く、次いで、「就業規則に条項を記載している」が 61.2%、「社内報や掲示板を活用して周知を行っている」が 44.9%となっています。

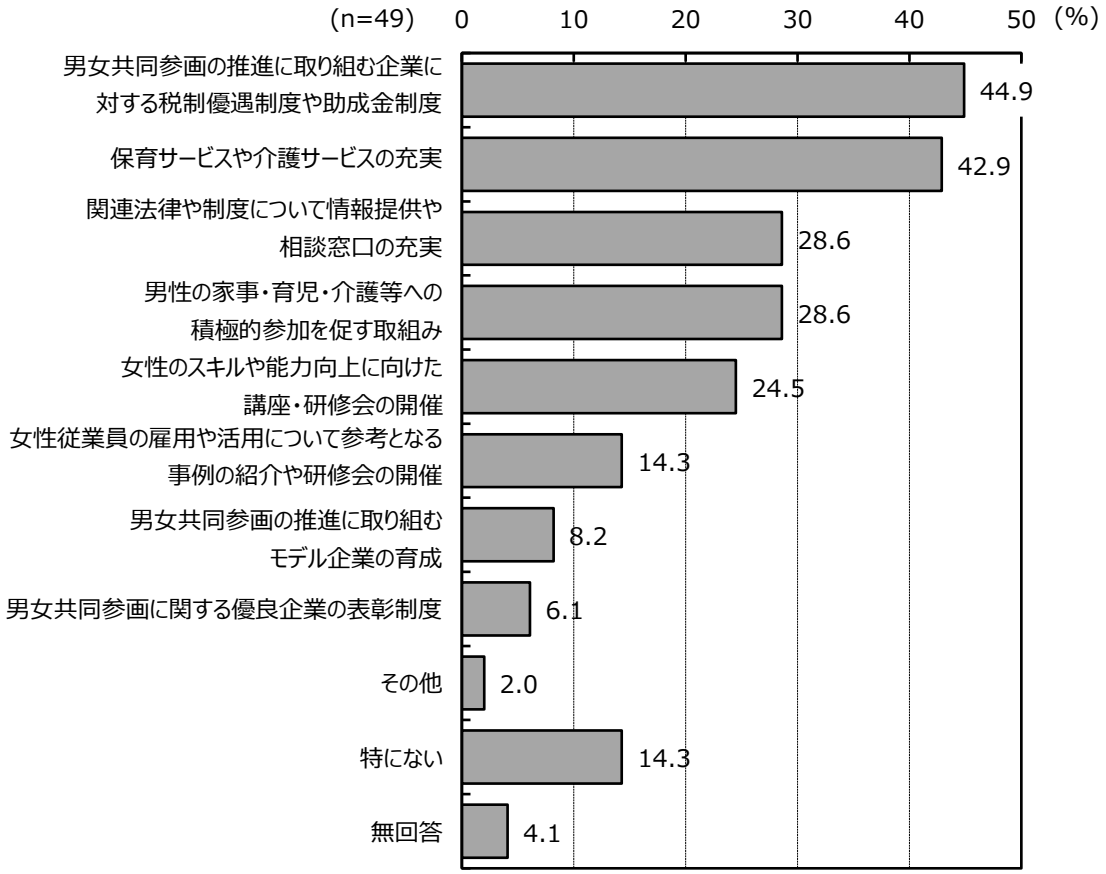


【問 22 で「社内に相談窓口（担当者）を設置している」と回答された方のみ】
問 23　過去 3 年間でハラスメントに関する相談はありましたか。（複数回答）

「相談はなかった」が 50.0%と最も高く、次いで、「パワーハラスメントに関する相談があった」が 32.5%、「セクシュアルハラスメントに関する相談があった」が 17.5%となっています。



7. 行政への要望について

問 24　男女共同参画の推進を図る上で、事業所として行政に望むことは何ですか。（複数回答）

「男女共同参画の推進に取り組む企業に対する税制優遇制度や助成金制度」が 44.9%と最も高く、次いで、「保育サービスや介護サービスの充実」が 42.9%、「関連法律や制度について情報提供や相談窓口の充実」、「男性の家事・育児・介護等への積極的参加を促す取組み」がそれぞれ 28.6%となっています。